2007年度

シラバス
言語文化学科

獨協大学

外国語学部言語文化学科
シラバス
【総合目次一覧】

◆ 【2003年度以降】入学生用

学則別表・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－1～2

学則別表の見方・・・・・・・Ⅰ－3

科目特性表・・・・・・・・・・・Ⅰ－4～5

授業科目目次・・・・・・・・・Ⅰ－6～10

外国語学部共通科目・・・P.104以降に掲載

◆ 【2002年度以前】入学生用

学則別表・・・・・・・・・・・・・Ⅱ－1

授業科目目次・・・・・・・・・Ⅱ－2～4

外国語学部共通科目・・・全学共通授業科目のシラバスに掲載

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。
学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、２００３年度以降入学生用の「外国語学部言語文化学科」授業科目と「外国語学部共通科目」、２００２年度以前入学生用の「外国語学部言語文化学科」授業科目シラバスです。

言語文化学科のシラバスは入学年度により、目次が２種類に分けられています。
＜2003年度以降入学生用＞と＜2002年度以前入学生用＞です。
入学年度により履修できる科目が異なるので、各自の入学年度に該当する目次を参照してください。

＊履修不可学科の表記

外：外国語学部　　養：　国際教養学部　　経：経済学部　　法：法学部　　全：自学科以外

独：ドイツ語学科　　養（*1）：国際教養学部、スペイン語履修者　　済：経済学科　　律：法律学科
英：英語学科　　養（*2）：国際教養学部、中国語履修者　　営：経営学科　　国：国際関係法学科
仏：フランス語学科　　養（*3）：国際教養学部、韓国語履修者
言：外国語学部言語文化学科
言（＊１）：外国語学部言語文化学科、スペイン語履修者
言（＊２）：外国語学部言語文化学科、中国語履修者

適用年度＝その科目が開講されるカリキュラム(入学年度による)

	① 科目名	② 担当者
③ 講義目的、講義概要 春学期	④ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑤ テキスト、参考文献	⑥ 評価方法	

	① 科目名	② 担当者
③ 講義目的、講義概要 秋学期	④ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑤ テキスト、参考文献	⑥ 評価方法	

☆上段は、春学期科目です。

①2003年度以降入学生用の科目名を記載しています。
カリキュラムよっては開講されない科目もありますので、
自分の適用年度が含まれているか必ず確認してください。

② 担当教員氏名
③ 授業の目的や講義全体の説明、
学生への要望が記載してあります。
④ 学期の授業計画についての欄です。
各週ごとに講義するテーマが
記載してあります。
⑤ 授業で使用するテキストや
参考となる文献が記載してあります。
⑥ 春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。
秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に
成績評価が出ます。

☆下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

〔注意〕
○定員
科目の中には定員制のものがあります。
それぞれ適用年度の「授業時間割表」を参照してください。

学 則 別 表（2003年度以降入学者用）

科目郡	部門	科目	単位	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	外国語	英語Ⅰ	1	4		
		英語Ⅱ	1	4		
		英語Ⅲ	1	4		
		英語Ⅳ	1	4		
		スペイン語Ⅰ	1		4＊	
		スペイン語Ⅱ	1		4＊	
		スペイン語Ⅲ	1		4＊	
		スペイン語Ⅳ	1		4＊	
		中国語Ⅰ	1		4＊	
		中国語Ⅱ	1		4＊	
		中国語Ⅲ	1		4＊	
		中国語Ⅳ	1		4＊	
	基礎講座	ボランティア論	2	2		
		現代世界論	2	2		
		コンピュータ基礎演習	2	2		
	概論	言語文化概論	2	2		
		比較思想概論	2		6	
		日本文化論a	2			
		日本文化論b	2			
		日本語研究概論a	2			
		日本語研究概論b	2			
		スペイン・ラテンアメリカ文化論a	2			
		スペイン・ラテンアメリカ文化論b	2			
		現代中国論a	2			
		現代中国論b	2			
学科共通科目	外国語	英語演習	2	4		
		スペイン語演習	2		4＊＊	
		中国語演習	2		4＊＊	
学科専門科目	日本研究	日本思想史a	2			
		日本思想史b	2			
		日本文化・芸能論a	2			
		日本文化・芸能論b	2			
		日本近現代史a	2			
		日本近現代史b	2		8＊＊＊	
		日本文学	2			
		日本経済論a	2			
		日本経済論b	2			
		日本政治外交史a	2			
		日本政治外交史b	2			
		日本研究特殊講義	2			
	日本語教育研究	日本語文法論a	2			
		日本語文法論b	2			
		日本語音声学a	2			
		日本語音声学b	2			
		日本語史a	2			
		日本語史b	2			
		対照言語学a	2			
		対照言語学b	2		8＊＊＊	
		日本語語彙・意味論	2			
		日本語教授法Ⅰa	2			
		日本語教授法Ⅰb	2			
		日本語教授法Ⅱ	2			
		日本語学a	2			
		日本語学b	2			
		日本語教育論	2			
		日本語教育特殊講義	2			
		日本語教育実習	2			

科目群	部門	科目	単位	必修	選択必修	選択
学科専門科目	情報・コミュニケーション研究	自然言語処理a	2			20
		自然言語処理b	2			
		プログラミング論a	2			
		プログラミング論b	2			
		通訳翻訳論	2			
		異文化間コミュニケーション論a	2		4	
		異文化間コミュニケーション論b	2			
		マス・コミュニケーション論a	2			
		マス・コミュニケーション論b	2			
		認知科学	2			
		人間関係とカウンセリングa	2			
		人間関係とカウンセリングb	2			
		情報・コミュニケーション研究特殊講義	2			
	地域研究	地域文化論ⅰa	2		4	
		地域文化論ⅰb	2			
		地域文化論ⅱa	2			
		地域文化論ⅱb	2			
		地域文化論ⅲa	2			
		地域文化論ⅲb	2			
		地域文化論ⅳa	2			
		地域文化論ⅳb	2			
		地域経済論ⅰa	2			
		地域経済論ⅰb	2			
		地域経済論ⅱa	2			
		地域経済論ⅱb	2			
		地域経済論ⅲa	2			
		地域経済論ⅲb	2			
		比較社会論a	2			
		比較社会論b	2			
		地域社会文化論特殊講義	2			
		比較文化論特殊講義	2			
関連科目	国際交流	国際関係概論a	2		4	
		国際関係概論b	2			
		国際機構論a	2			
		国際機構論b	2			
		地球環境論a	2			
		地球環境論b	2			
		都市・地域計画論a	2			
		都市・地域計画論b	2			
		国際経済論a	2			
		国際経済論b	2			
		国際政治論a	2			
		国際政治論b	2			
		国際交流特殊講義	2			
外国語学部共通科目（別表Ⅰ-5）						2
全学共通授業科目（別表Ⅳ）	全学総合科目	ｶﾃｺﾞﾘｰⅠ		4		4
		ｶﾃｺﾞﾘｰⅡ			8	
		ｶﾃｺﾞﾘｰⅢ			4	
		ｶﾃｺﾞﾘｰⅣ			4	
		ｶﾃｺﾞﾘｰⅤ				
	外国語科目	英語以外の外国語				
卒業論文			4			
演習			2	8		
卒業に必要な単位数合計				40	62	26
				128		

備考

(1)*および**は外国語部門の「スペイン語」,「中国語」から一言語を選択する。

(2)***は「日本研究」および「日本語教育研究」部門から合わせて8単位を修得する。

(3)卒業に必要な選択科目のうち、外国語学部共通科目の単位で満たすことができるのは6単位までとする。
また、全学共通授業科目の単位で満たすことができるのは12単位までとする。

(4)卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。
ただし、このうち12単位までは教職課程授業科目とすることができる。なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

○本表は、2003年度入学者から適用する。

学則別表の見方(2003年度以降入学生用言語文化学科生用)

単位：学修量に応じて科目には1単位・2単位と必ず単位数がついています。科目を修得するとその単位を得られます。各学期ごとの上限計算や卒業のための計算等で必要です。

必修科目：必修のところに数字がある科目は必ずその科目の単位数を卒業までに修得しなければいけない。

選択科目：矢印の範囲内から20単位数以上を修得する。

全学共通授業科目（全カリ）
全カリのシラバスから選んで登録する。

外国語学部共通科目
科目についてはシラバスの後半部分に掲載。(修得単位は選択に加算される)

科目部	部門	科目	単位	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	外国語	英語Ⅰ	1	4		
		英語Ⅱ	1	4		
		英語Ⅲ	1	4		
		英語Ⅳ	1	4		
		スペイン語Ⅰ	1		4 *	
		スペイン語Ⅱ	1		4 *	
		スペイン語Ⅲ	1		4 *	
		スペイン語Ⅳ	1		4 *	
		中国語Ⅰ	1		4 *	
		中国語Ⅱ	1		4 *	
		中国語Ⅲ	1		4 *	
		中国語Ⅳ	1		4 *	
	基礎講座	ボランティア論	2	2		
		現代世界論	2	2		
		コンピュータ基礎演習	2	2		
	概論	言語文化概論	2	2		
		比較思想概論	2			
		日本文化論a	2			
		日本文化論b	2			
		日本語研究概論a	2		6	
		日本語研究概論b	2			
		スペイン・ラテンアメリカ文化論a	2			
		スペイン・ラテンアメリカ文化論b	2			
		現代中国論a	2			
		現代中国論b	2			
学科共通科目	外国語	英語演習	2	4		
		スペイン語演習	2		4 **	
		中国語演習	2		4 **	
学科専門科目	日本研究	日本思想史a	2			
		日本思想史b	2			
		日本文化・芸能論a	2			
		日本文化・芸能論b	2			
		日本近現代史a	2			
		日本近現代史b	2		8 ***	
		日本文学	2			
		日本経済論a	2			
		日本経済論b	2			
		日本政治外交史a	2			
		日本政治外交史b	2			
		日本研究特殊講義	2			
	日本語教育研究	日本語文法論a	2			
		日本語文法論b	2			
		日本語音声学a	2			
		日本語音声学b	2			
		日本語史a	2			
		日本語史b	2			
		対照言語学a	2			
		対照言語学b	2		8 ***	
		日本語語彙・意味論	2			
		日本語教授法Ⅰa	2			
		日本語教授法Ⅰb	2			
		日本語教授法Ⅱ	2			
		日本語学a	2			
		日本語学b	2			
		日本語教育論	2			
		日本語教育特殊講義	2			
		日本語教育実習	2			
	情報・コミュニケーション研究	自然言語処理a	2			
		自然言語処理b	2			
		プログラミング論a	2			
		プログラミング論b	2			
		通訳翻訳論	2			
		異文化間コミュニケーション論a	2		4	
		異文化間コミュニケーション論b	2			
		認知科学	2			
		人間関係とカウンセリングa	2			
		人間関係とカウンセリングb	2			
		情報・コミュニケーション研究特殊講	2			
	地域研究	地域文化論ⅰa	2			
		地域文化論ⅰb	2			
		地域文化論ⅱa	2			
		地域文化論ⅱb	2			
		地域文化論ⅲa	2			
		地域文化論ⅲb	2			
		地域文化論ⅳa	2			
		地域文化論ⅳb	2			
		地域経済論ⅰa	2		4	
		地域経済論ⅰb	2			
		地域経済論ⅱa	2			
		地域経済論ⅱb	2			
		地域経済論ⅲa	2			
		地域経済論ⅲb	2			
		比較社会論a	2			
		比較社会論b	2			
		地域社会文化論特殊講義	2			
		比較文化論特殊講義	2			
関連科目	国際交流	国際関係概論a	2			
		国際関係概論b	2			
		国際機構論a	2			
		国際機構論b	2			
		地球環境論a	2			
		地球環境論b	2		4	
		都市・地域計画論a	2			
		都市・地域計画論b	2			
		国際経済論a	2			
		国際経済論b	2			
		国際政治論a	2			
		国際政治論b	2			
		国際交流特殊講義	2			
外国語学部共通科目（別表Ⅰ-5）						2
全学総合科目	カテゴリーⅠ			4		
	カテゴリーⅡ				8	
	カテゴリーⅢ				4	4
	カテゴリーⅣ				4	
	カテゴリーⅤ					
外国語科目	英語以外の外国語					
卒業論文			4			
演習			2	8		
卒業に必要な単位数合計				40	62	26
					128	

修得済

モデル（Aさん）

部門	科目名	単位数
外国語	英語Ⅰ(LR1,2)(SW1,2)英語Ⅱ(LR1,2)(SW1,2)	8
	西語Ⅰ(総合1,2)(入門*会話)西語Ⅱ(総合1,2)(基礎表現・会話)	8
基礎講座	ボランティア論	2
	現代世界論	2
	コンピュータ基礎演習(入門)	2
	合計	22

選択必修科目:この範囲にある科目の中からその数字の単位数分を修得する。
(例:比較思想概論・日本文化論a・日本文化論b(2単位×3科目)の合計6単位修得)
6単位以上修得した場合は選択の単位数に加算される。

修得済

モデル（Aさん）

部門	科目名	単位数
概論	比較思想概論	2
	日本文化論ab	4
	合計	6

これから履修したい科目

部門	科目名	単位数
概論	スペインラテンアメリカ文化論a	2

20

修得済

モデル（Aさん）

部門	科目名	単位数
カテⅠ	全学総合講座(ものつくりの現場から)	2
	全学総合講座(心と体の健康)	2
	合計	4

修得済

部門	科目名	単位数
カテⅢ	ことばと思想(Ⅲ)(言語音の構造a)	2
	現代社会(Ⅲ)(広告論a)	2
	合計	4

これから履修したい科目

部門	科目名	単位数
カテⅠ	全学総合講座(自由時間設計)	2
カテⅢ	現代社会(Ⅲ)(アンダルシアの文化)	2
	自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論b)	2
	合計	6

4　2

これから履修したいカテⅠとカテⅢの科目で全カリの中からとらなければならない選択の単位(4単位)を満たすことができる。
あとの2単位は学科の選択単位になる。

卒業するまでには最低限128単位が必要

備考
(1)*および**は外国語部門の「スペイン語」,「中国語」から一言語を選択する。
(2)***は「日本研究」および「日本語教育研究」部門から合わせて8単位を修得する。
(3)卒業に必要な選択科目のうち、外国語学部共通科目の単位で満たすことができるのは6単位までとする。
　また、全学共通カリキュラムの単位で満たすことができるのは12単位までとする。
(4)卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。
　ただし、このうち12単位までは教職課程授業科目とすることができる。なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。
〇本表は、2003年度入学者から適用する。

注意

卒業・進級判定時に全カリの科目が不足している場合のみ***教職課程科目を全カリ科目に読み替える***ことができます。
読替可能単位数は20単位まで。ただし、***学科の選択科目として加算することはできません。***

言語文化学科科目特性表

科目群	部門	科目名	学期配当 1	2	3	4	5	6	7	8	備考
学科基礎科目	外国語	英語I(RW)	●	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定
		英語I(LS)	●	○	○	○	○	○	○	○	〃
		英語II(RW)		●	○	○	○	○	○	○	〃
		英語II(LS)		●	○	○	○	○	○	○	〃
		英語III(RW)			●	○	○	○	○	○	〃
		英語III(LS)			●	○	○	○	○	○	〃
		英語IV(RW)				●	○	○	○	○	〃
		英語IV(LS)				●	○	○	○	○	〃
		スペイン語I(入門)	●	○	○	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語I(会話)	●	○	○	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語I(総合1)	●	○	○	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語I(総合2)	●	○	○	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語II(基礎表現)		●	○	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語II(会話)		●	○	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語II(総合1)		●	○	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語II(総合2)		●	○	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語III(総合)			●	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語III(講読)			●	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語III(会話1)			●	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語III(会話2)			●	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語IV(総合)				●	○	○	○	○	〃
		スペイン語IV(講読)				●	○	○	○	○	〃
		スペイン語IV(会話1)				●	○	○	○	○	〃
		スペイン語IV(会話2)				●	○	○	○	○	〃
		中国語I(入門)	●	○	○	○	○	○	○	○	〃
		中国語I(会話)	●	○	○	○	○	○	○	○	〃
		中国語I(総合1)	●	○	○	○	○	○	○	○	〃
		中国語I(総合2)	●	○	○	○	○	○	○	○	〃
		中国語II(基礎表現)		●	○	○	○	○	○	○	〃
		中国語II(会話)		●	○	○	○	○	○	○	〃
		中国語II(総合1)		●	○	○	○	○	○	○	〃
		中国語II(総合2)		●	○	○	○	○	○	○	〃
		中国語III(総合)			●	○	○	○	○	○	〃
		中国語III(講読)			●	○	○	○	○	○	〃
		中国語III(会話1)			●	○	○	○	○	○	〃
		中国語III(会話2)			●	○	○	○	○	○	〃
		中国語IV(総合)				●	○	○	○	○	〃
		中国語IV(講読)				●	○	○	○	○	〃
		中国語IV(会話1)				●	○	○	○	○	〃
		中国語IV(会話2)				●	○	○	○	○	〃
	基礎講座	ボランティア論	●	○	○	○	○	○	○	○	2学期に開設されている場合は2学期から履修する
		現代世界論	●	○	○	○	○	○	○	○	
		コンピュータ基礎演習	●	○	○	○	○	○	○	○	
	概論	言語文化概論	●	○	○	○	○	○	○	○	
		比較思想概論	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日本文化論a	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日本文化論b		○	○	○	○	○	○	○	
		日本語研究概論a	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日本語研究概論b		○	○	○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ文化論a	○	○	○	○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ文化論b		○	○	○	○	○	○	○	
		現代中国論a	○	○	○	○	○	○	○	○	
		現代中国論b		○	○	○	○	○	○	○	
学科共通科目	外国語	英語演習					●	●	○	○	重複履修可
		スペイン語演習					●	●	○	○	〃
		中国語演習					●	●	○	○	〃

科目群	部門	科目名	学期配当 1	2	3	4	5	6	7	8	備考
学科専門科目	日本研究	日本思想史a			○	○	○	○	○	○	
		日本思想史b				○	○	○	○	○	
		日本文化・芸能論a			○	○	○	○	○	○	
		日本文化・芸能論b				○	○	○	○	○	
		日本近現代史a			○	○	○	○	○	○	
		日本近現代史b				○	○	○	○	○	
		日本文学			○	○	○	○	○	○	
		日本経済論a			○	○	○	○	○	○	
		日本経済論b				○	○	○	○	○	
		日本政治外交史a			○	○	○	○	○	○	
		日本政治外交史b				○	○	○	○	○	
		日本研究特殊講義			○	○	○	○	○	○	重複履修可、ただし副題が異なること
	日本語教育研究	日本語文法論a			○	○	○	○	○	○	
		日本語文法論b				○	○	○	○	○	
		日本語音声学a			○	○	○	○	○	○	
		日本語音声学b				○	○	○	○	○	
		日本語史a			○	○	○	○	○	○	
		日本語史b				○	○	○	○	○	
		対照言語学a			○	○	○	○	○	○	
		対照言語学b				○	○	○	○	○	
		日本語語彙・意味論			○	○	○	○	○	○	
		日本語教授法Ia			○	○	○	○	○	○	
		日本語教授法Ib				○	○	○	○	○	
		日本語教授法Ⅱ							○	○	
		日本語学a	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日本語学b		○	○	○	○	○	○	○	
		日本語教育論	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日本語教育特殊講義			○	○	○	○	○	○	重複履修可、ただし副題が異なること
		日本語教育実習							○	○	
	情報・コミュニケーション研究	自然言語処理a			○	○	○	○	○	○	
		自然言語処理b				○	○	○	○	○	
		プログラミング論a			○	○	○	○	○	○	重複履修可、ただし副題が異なること
		プログラミング論b				○	○	○	○	○	重複履修可、ただし副題が異なること
		通訳翻訳論			○	○	○	○	○	○	
		異文化間コミュニケーション論a			○	○	○	○	○	○	
		異文化間コミュニケーション論b				○	○	○	○	○	
		マス・コミュニケーション論a			○	○	○	○	○	○	
		マス・コミュニケーション論b				○	○	○	○	○	
		認知科学			○	○	○	○	○	○	
		人間関係とカウンセリングa			○	○	○	○	○	○	
		人間関係とカウンセリングb				○	○	○	○	○	
		情報・コミュニケーション研究特殊講義			○	○	○	○	○	○	重複履修可、ただし副題が異なること
	地域研究	地域文化論ⅰa			○	○	○	○	○	○	
		地域文化論ⅰb				○	○	○	○	○	
		地域文化論ⅱa			○	○	○	○	○	○	
		地域文化論ⅱb				○	○	○	○	○	
		地域文化論ⅲa			○	○	○	○	○	○	
		地域文化論ⅲb				○	○	○	○	○	
		地域文化論ⅳa			○	○	○	○	○	○	
		地域文化論ⅳb				○	○	○	○	○	
		地域経済論ⅰa			○	○	○	○	○	○	
		地域経済論ⅰb				○	○	○	○	○	
		地域経済論ⅱa			○	○	○	○	○	○	
		地域経済論ⅱb				○	○	○	○	○	
		地域経済論ⅲa			○	○	○	○	○	○	
		地域経済論ⅲb				○	○	○	○	○	
		比較社会論a			○	○	○	○	○	○	
		比較社会論b				○	○	○	○	○	
		地域社会文化論特殊講義			○	○	○	○	○	○	重複履修可、ただし副題が異なること
		比較文化論特殊講義			○	○	○	○	○	○	重複履修可、ただし副題が異なること
関連科目	国際交流	国際関係概論a			○	○	○	○	○	○	
		国際関係概論b				○	○	○	○	○	
		国際機構論a			○	○	○	○	○	○	
		国際機構論b				○	○	○	○	○	
		地球環境論a			○	○	○	○	○	○	重複履修可、ただし副題が異なること
		地球環境論b				○	○	○	○	○	副題「地理学」は1学期から履修可能である
		都市・地域計画論a			○	○	○	○	○	○	
		都市・地域計画論b				○	○	○	○	○	
		国際経済論a			○	○	○	○	○	○	
		国際経済論b				○	○	○	○	○	
		国際政治論a			○	○	○	○	○	○	
		国際政治論b				○	○	○	○	○	
		国際交流特殊講義			○	○	○	○	○	○	重複履修可、ただし副題が異なること
卒業論文									○	○	
演習							●	●	●	●	

備考：学期配当欄の○印は履修できる学期を、●は履修すべき学期を示します。

外国語学部言語文化学科授業科目(2003年度以降入学生用)

目　次

学科基礎科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「外国語」部門								
	－	英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(RW)	各担当教員		1	1	全	1
	－	英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(LS)	各担当教員		1	1	全	2
		スペイン語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	3
		スペイン語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	4
		スペイン語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	5
		スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	6
		スペイン語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	3
		スペイン語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	4
		スペイン語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	5
		スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	6
	春	スペイン語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	7
	春	スペイン語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	8
	春	スペイン語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	9
	春	スペイン語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	10
	秋	スペイン語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	7
	秋	スペイン語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	8
	秋	スペイン語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	9
	秋	スペイン語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	10
		中国語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	11
		中国語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	12
		中国語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	13
		中国語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	14
		中国語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	11
		中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	12
		中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	13
		中国語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	14
	春	中国語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	15
	春	中国語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	16
	春	中国語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	17
	春	中国語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	18
	秋	中国語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	15
	秋	中国語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	16
	秋	中国語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	17
	秋	中国語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	18
「基礎講座」部門								
02188	春	ボランティア論	青柳　多恵子	水2	2	1		19
08659	春	現代世界論	佐藤　勘治	月4	2	1	全	20
		コンピュータ基礎演習	各担当教員		2	1	全	※

※「コンピュータ基礎演習」のシラバスは、外国語学部共通科目「情報科学各論」の頁を参照する。

※過去にコンピュータ基礎演習を修得した場合、過去に修得したコンピュータ基礎演習の副題の異なる情報科学各論を登録すること。

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「概論」部門								
13566	春	言語文化概論	下川　浩	火5	2	1	全	21
02273	秋	言語文化概論	下川　浩	火5	2	1	全	21
02271	春	比較思想概論	谷口　郁夫	水2	2	1		22
01969	春	日本文化論a	飯島　一彦	火3	2	1	全	23
01970	秋	日本文化論b	飯島　一彦	火3	2	1		23
02050	春	日本語研究概論a	桂　千佳子	木4	2	1		24
02051	秋	日本語研究概論b	桂　千佳子	木4	2	1		24
02104	春	スペイン・ラテンアメリカ文化論a	二宮　哲	月5	2	1	全	25
02105	秋	スペイン・ラテンアメリカ文化論b	佐藤　勘治	月5	2	1	全	25
01905	春	現代中国論a	上村　幸治	月4	2	1	法	26
01906	秋	現代中国論b	上村　幸治	月4	2	1	法	26

学科共通科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「外国語」部門								
02093	春	英語演習（Communicative English 1a）	R. ダラム	火2	2	3	全	27
02094	秋	英語演習（Communicative English 1b）	R. ダラム	火2	2	3	全	27
13156	春	英語演習（Communicative English 2a）	R. ダラム	木3	2	3	全	28
13157	秋	英語演習（Communicative English 2b）	R. ダラム	木3	2	3	全	28
11610	春	英語演習（言語学習a）	安間　一雄	金2	2	3	全	29
11611	秋	英語演習（言語学習b）	安間　一雄	金2	2	3	全	29
10632	春	英語演習（Understanding Japanese-American Experience through Works of Literature）	臼井　芳子	水2	2	3	全	30
10636	秋	英語演習（Understanding Diversity in Japan）	臼井　芳子	水2	2	3	全	30
09780	春	英語演習（英語基礎a）	臼井　芳子	金4	2	3	全	31
09781	秋	英語演習（英語基礎b）	臼井　芳子	金4	2	3	全	31
13158	春	英語演習（通訳・翻訳a）	柴原　智幸	金1	2	3	全	32
13159	秋	英語演習（通訳・翻訳b）	柴原　智幸	金1	2	3	全	32
13165	春	英語演習（アメリカ社会問題a）	山本　英政	月3	2	3	全	33
13166	秋	英語演習（アメリカ社会問題b）	山本　英政	月3	2	3	全	33
09104	秋	英語演習(スピーキングa)	山本　英政	火3	2	3	全	34
09103	春	英語演習(スピーキングb)	山本　英政	火3	2	3	全	34
10638	春	スペイン語演習	G. ヨシカワ	金2	2	3	全	35
10641	秋	スペイン語演習	G. ヨシカワ	金2	2	3	全	35
09414	春	スペイン語演習	J. I. ドメネク・アロンソ	火2	2	3	全	36
09415	秋	スペイン語演習	J. I. ドメネク・アロンソ	火2	2	3	全	36
09417	春	スペイン語演習	N. ウエチ	木3	2	3	全	37
09416	秋	スペイン語演習	N. ウエチ	木3	2	3	全	37
10639	春	スペイン語演習	兒島　峰	月2	2	3	全	38
10642	秋	スペイン語演習	兒島　峰	月2	2	3	全	38
10640	春	スペイン語演習	佐藤　勘治	水2	2	3	全	39
10643	秋	スペイン語演習	佐藤　勘治	水2	2	3	全	39
10645	春	中国語演習（中国語講読と翻訳a）	厳　明	火2	2	3	全	40
10648	秋	中国語演習（中国語講読と翻訳b）	厳　明	火2	2	3	全	40
09771	春	中国語演習(総合Ⅰ－a)	辻　康吾	水3	2	3	全	41
09772	秋	中国語演習(総合Ⅰ－b)	辻　康吾	水3	2	3	全	41
09420	春	中国語演習(総合Ⅱ－a)	辻　康吾	木2	2	3	全	42
09421	秋	中国語演習(総合Ⅱ－b)	辻　康吾	木2	2	3	全	42
10644	春	中国語演習（中日翻訳入門）	永田　小絵	月4	2	3	全	43
10647	秋	中国語演習（中日通訳入門）	永田　小絵	月4	2	3	全	43
09422	春	中国語演習（中国語ビジネス文書a）	吉田　桂子	木3	2	3	全	44
09423	秋	中国語演習（中国語ビジネス文書b）	吉田　桂子	木3	2	3	全	44
10646	春	中国語演習（ビジネス中国語会話a）	吉田　桂子	木4	2	3	全	45
10649	秋	中国語演習（ビジネス中国語会話b）	吉田　桂子	木4	2	3	全	45

学科専門科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「日本研究」部門								
06318	秋	日本思想史b	川村　肇	木3	2	2	全	46
06319	春	日本文化・芸能論a	飯島　一彦	火4	2	2		47
06320	秋	日本文化・芸能論b	飯島　一彦	火4	2	2		47
06479	春	日本近現代史a	丸浜　昭	火5	2	2	全	48
06480	秋	日本近現代史b	丸浜　昭	火5	2	2	全	48
02352	秋	日本文学	飯島　一彦	木3	2	2		49
07116	春	日本経済論a	波形　昭一	火5	2	2	経・法	50
07117	秋	日本経済論b	波形　昭一	火5	2	2	経・法	50
06281	春	日本政治外交史a	福永　文夫	木3	2	2	経・法	51
06282	秋	日本政治外交史b	福永　文夫	木3	2	2	経・法	51
07119	春	日本研究特殊講義(能楽論)	瀬尾　菊次	火2	2	2	全	52
07120	秋	日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像)	瀬尾　菊次	火2	2	2	全	52
「日本語教育研究」部門								
06321	春	日本語文法論a	浅山　佳郎	火1	2	2		53
06322	秋	日本語文法論b	浅山　佳郎	火1	2	2		53
06323	春	日本語音声学a	猪塚　恵美子	月4	2	2		54
06324	秋	日本語音声学b	猪塚　恵美子	月4	2	2		54
06325	春	対照言語学a	中西　家栄子	金2	2	2		55
06326	秋	対照言語学b	中西　家栄子	金2	2	2		55
06327	春	日本語教授法Ⅰa	中西　家栄子	木5	2	2		56
06328	秋	日本語教授法Ⅰb	中西　家栄子	木5	2	2		56
02192	春	日本語教授法Ⅱ	浅山　佳郎	月3	2	4		57
02080	春	日本語教授法Ⅱ	中西　家栄子	木4	2	4		58
02036	春	日本語教授法Ⅱ	松浦　恵津子	金2	2	4		59
01884	秋	日本語学a	中西　家栄子	水2	2	1	全	60
01885	秋	日本語学b	浅山　佳郎	金1	2	1	全	61
02163	春	日本語教育論	中西　家栄子	水2	2	1	全	62
「情報・コミュニケーション研究」部門								
06329	春	自然言語処理a	呉　浩東	金3	2	2		63
06330	秋	自然言語処理b	呉　浩東	金3	2	2		63
07121	春	プログラミング論a(プログラミング論・自然言語処理入門)	呉　浩東	水2	2	2	全	64
07122	秋	プログラミング論b(プログラミング論・自然言語処理入門)	呉　浩東	水2	2	2	全	64
11818	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	加藤　尚吾	月3	2	2	経・法	65
11819	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	加藤　尚吾	月3	2	2	経・法	65
07127	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	立田　ルミ	火2	2	2	経・法	66
07128	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	立田　ルミ	火2	2	2	経・法	66
07123	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	堀江　郁美	金2	2	2	経・法	67
07124	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	堀江　郁美	金2	2	2	経・法	67
11815	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	森　園子	水3	2	2	経・法	68
11816	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	森　園子	水3	2	2	経・法	68
02291	秋	通訳翻訳論	永田　小絵	水1	2	2	全	69
06331	春	異文化間コミュニケーション論a	岡村　圭子	木1	2	2	全	70
06332	秋	異文化間コミュニケーション論b	山本　英政	火5	2	2	全	70
11755	秋	マス・コミュニケーション論b	上村　幸治	木3	2	2	全	71
02355	春	認知科学	田口　雅徳	水2	2	2		72
02356	秋	認知科学	田口　雅徳	水2	2	2		72
06333	春	人間関係とカウンセリングa	瀧本　孝雄	金4	2	2		73
06334	秋	人間関係とカウンセリングb	瀧本　孝雄	金4	2	2		73
08476	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	髙木　亜希子	水3	2	2	全	74
08477	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	髙木　亜希子	水3	2	2	全	74

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「地域研究」部門								
07132	春	地域文化論ⅰa(ラテンアメリカ)	佐藤　勘治	木4	2	2		75
07133	秋	地域文化論ⅰb(ラテンアメリカ)	佐藤　勘治	木4	2	2		75
07134	春	地域文化論ⅱa(スペイン)	二宮　哲	月4	2	2		76
07135	秋	地域文化論ⅱb(スペイン)	二宮　哲	月4	2	2		76
07136	春	地域文化論ⅲa(中国)	武信　彰	木4	2	2		77
07137	秋	地域文化論ⅲb(中国)	武信　彰	木4	2	2		77
06278	秋	地域経済論ⅰa(ラテンアメリカ)	今井　圭子	月3	2	2		78
06279	秋	地域経済論ⅰb(ラテンアメリカ)	今井　圭子	月4	2	2		79
07140	春	地域経済論ⅱa(アジア)	森　健	金3	2	2	経・法	80
07141	秋	地域経済論ⅱb(アジア)	森　健	金3	2	2	経・法	80
07144	春	地域経済論ⅲa(中国)	全　載旭	木2	2	2	経・法	81
07145	秋	地域経済論ⅲb(中国)	全　載旭	木2	2	2	経・法	81
07146	春	比較社会論a	井上　兼行	水2	2	2		82
07147	秋	比較社会論b	井上　兼行	水2	2	2		82
07156	春	地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明a)	P. ラゴ	金3	2	2		83
07157	秋	地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明b)	P. ラゴ	金3	2	2		83
07150	春	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民俗と文化a)	井上　兼行	木1	2	2		84
07151	秋	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民俗と文化b)	井上　兼行	木1	2	2		84
11820	春	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究a)	浦部　浩之	金4	2	2		85
11821	秋	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究b)	浦部　浩之	金4	2	2		85
07154	春	地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶものa)	熊谷　哲也	木4	2	2	全	86
07155	秋	地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶものb)	熊谷　哲也	木4	2	2	全	86
07152	春	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーa)	佐藤　唯行	木3	2	2		87
07153	秋	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーb)	佐藤　唯行	木3	2	2		87
07575	春	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術a)	藤原　和彦	火2	2	2		88
07576	秋	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術b)	藤原　和彦	火2	2	2		88
12355	春	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史a)	古川　堅治	金3	2	2		89
07158	秋	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史b)	古川　堅治	金3	2	2		89
13466	春	地域社会文化論特殊講義(文化史入門)	古川　堅治	水2	2	2	全	90
07148	春	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活a)	松本　栄次	月4	2	2		91
07149	秋	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活b)	松本　栄次	月4	2	2		91
01822	春	比較文化論特殊講義(グローバリゼーションとローカル文化)	岡村　圭子	水2	2	2		92
01823	秋	比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容)	岡村　圭子	水2	2	2		92
07161	春	比較文化論特殊講義(日中文化比較論a)	厳　明	金2	2	2		93
07162	秋	比較文化論特殊講義(日中文化比較論b)	厳　明	金2	2	2		93

関連科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「国際交流」部門								
07366	春	国際関係概論a	浦部　浩之	月1	2	2	全	94
07367	秋	国際関係概論b	浦部　浩之	月1	2	2	全	94
06275	春	国際機構論a	鈴木　淳一	火3	2	2	経・法	95
06276	秋	国際機構論b	鈴木　淳一	火3	2	2	経・法	95
09061	春	地球環境論a(植物学)	加藤　僖重	火3	2	2		96
01941	秋	地球環境論b(植物学)	加藤　僖重	火3	2	2		96
07163	春	地球環境論a(地理学)	北﨑　幸之助	木3	2	1	全	97
07164	秋	地球環境論b(地理学)	北﨑　幸之助	木3	2	1	全	97
07166	春	地球環境論a(太陽系)	福井　尚生	金3	2	2	全	98
07167	秋	地球環境論b(太陽系)	福井　尚生	金3	2	2	全	98
07168	春	都市・地域計画論a	鈴木　隆	月2	2	2		99
07169	秋	都市・地域計画論b	鈴木　隆	月2	2	2		99
11823	春	国際経済論a	千代浦　昌道	金2	2	2	経・法	100
11824	秋	国際経済論b	千代浦　昌道	金2	2	2	経・法	100
07174	春	国際政治論a	星野　昭吉	月2	2	2	経・法	101
07175	秋	国際政治論b	星野　昭吉	月2	2	2	経・法	101
13464	春	国際交流特殊講義（国際関係・日米中）	上村　幸治	水1	2	2	全	102
※	秋	国際交流特殊講義（NGO論）	未定	未定	2	2	全	103

※秋学期開講予定ですが、曜日・時間・担当者が未定です。秋学期までに提示にてお知らせするので必ず確認して下さい。

卒業論文

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
		卒業論文	各担当教員		4	4	全	104

※卒業論文の担当教員や時間割コードは「外国語学部言語文化学科授業時間割表」を参照する。

※卒業論文は各自で登録する。

学 則 別 表（2002年度以前入学者用）

科目群	部門	科目	単位	必修	選択必修	選択
基礎科目	外国語	英語Ⅰ	2	4		
		スペイン語Ⅰ	2		4	
		中国語Ⅰ	2			
		英語Ⅱ	2	4		
		スペイン語Ⅱ	2		4	
		中国語Ⅱ	2			
		英語Ⅲ	2	4		
		スペイン語Ⅲ	2		4	
		中国語Ⅲ	2			
		英語Ⅳ	2	4		
		スペイン語Ⅳ	2		4	
		中国語Ⅳ	2			
		英語Ⅴ	2	4		
		スペイン語Ⅴ	2		4	
		中国語Ⅴ	2			
	基礎講座	ボランティア論*	2	2		
		現代世界論*	2	2		
	概論	言語文化概論*	2	2		
		比較思想概論*	2	2		
		日本文化論	4			
		日本語研究概論	4		4	
		スペイン・ラテンアメリカ文化論	4			
		現代中国論	4			
専攻科目	日本研究	日本思想史	4			
		日本文化・芸能論	4			
		日本近現代史	4		8	
		日本経済論	4			
		日本政治外交史	4			
		日本研究特殊講義A	4			
		日本研究特殊講義B*	2			
	日本語教育研究	日本語文法論	4			
		日本語音声学	4			
		日本語史	4			
		対照言語学	4			
		日本語教授法Ⅰ	4			24
		日本語教授法Ⅱ*	2			
		日本語教育実習*	2			
	情報・コミュニケーション研究	現代思想	4			
		自然言語処理	4		4	
		異文化間コミュニケーション論	4			
		カウンセリング論	4			
		情報・コミュニケーション研究特殊講義A	4			
		情報・コミュニケーション研究特殊講義B	2			
	地域研究	地域文化論Ⅰ	4			
		地域文化論ⅱ	4			
		地域文化論ⅲ	4			
		地域文化論ⅳ	4		4	
		地域経済論Ⅰ	4			
		地域経済論ⅱ	4			
		地域経済論ⅲ	4			
		比較社会論	4			
		地域研究特殊講義A	4			
		地域研究特殊講義B*	2			
		比較文化論特殊講義A	4			
		比較文化論特殊講義B*	2			
関連科目	国際交流	国際関係概論	4			
		国際機構論	4			
		地球環境論	4		4	
		都市・地域計画論	4			
		国際経済論	4			
		国際政治論	4			
		国際交流研究特殊講義A	4			
		国際交流研究特殊講義B*	2			
外国語学部共通科目				28		
卒業論文			4			
演習			8	8		
卒業に必要な単位数合計				64	44	24
				132		

備考

(1) *は、4単位科目の1/2の授業時間数で完結する科目を表す。

(2) 卒業に必要な選択科目のうち、外国語学部共通科目の単位をもって満たすことができるのは8単位までとする。
ただし、保健体育部門の科目は含まない。

(3) 卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または他学科の科目の単位をもって代用できる。

○ 本表は、1999年度入学者から適用する。

外国語学部言語文化学科授業科目（2002年度以前入学生用）

目次

学科基礎科目

時間割コード	開講期	科目名	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「外国語」部門								
		スペイン語Ⅰ(総合)	各担当教員		2	1	全	3・4
		スペイン語Ⅰ(入門・会話)	各担当教員		2	1	全	5・6
		スペイン語Ⅱ(総合)	各担当教員		2	1	全	3・4
		スペイン語Ⅱ(基礎表現・会話)	各担当教員		2	1	全	5・6
		スペイン語Ⅲ(総合・講読)	各担当教員		2	2	全	7・8
		スペイン語Ⅲ(会話)	各担当教員		2	2	全	9・10
		スペイン語Ⅳ(総合・講読)	各担当教員		2	2	全	7・8
		スペイン語Ⅳ(会話)	各担当教員		2	2	全	9・10
		中国語Ⅰ(総合)	各担当教員		2	1	全	11・12
		中国語Ⅰ(入門・会話)	各担当教員		2	1	全	13・14
		中国語Ⅱ(総合)	各担当教員		2	1	全	11・12
		中国語Ⅱ(基礎表現・会話)	各担当教員		2	1	全	13・14
		中国語Ⅲ(総合・講読)	各担当教員		2	2	全	15・16
		中国語Ⅲ(会話)	各担当教員		2	2	全	17・18
		中国語Ⅳ(総合・講読)	各担当教員		2	2	全	15・16
		中国語Ⅳ(会話)	各担当教員		2	2	全	17・18
13437	春	英語Ⅴ(総合英語)-Communicative English 2a/言語学習a	R. ダラム／安間　一雄	木3／金2	2	3	全	28・29
13438	秋	英語Ⅴ(総合英語)-Communicative English 2b/言語学習b	R. ダラム／安間　一雄	木3／金2	2	3	全	28・29
13441	春	英語Ⅴ(総合英語)-スピーキングa /Understanding Japanese-American Experience through Works of Literature	山本　英政／臼井　芳子	火3／水2	2	3	全	34・30
13442	秋	英語Ⅴ(総合英語)-スピーキングb /Understanding Diversity in Japan	山本　英政／臼井　芳子	火3／水2	2	3	全	34・30
13435	春	英語Ⅴ(総合英語)-アメリカ社会問題a/通訳・翻訳a	山本　英政／柴原　智幸	月3／金1	2	3	全	33・32
13436	秋	英語Ⅴ(総合英語)-アメリカ社会問題b/通訳・翻訳b	山本　英政／柴原　智幸	月3／金1	2	3	全	33・32
01898	春	スペイン語Ⅴ(総合)	佐藤　勘治／G. ヨシカワ	水2／金2	2	3	全	39・35
01899	秋	スペイン語Ⅴ(総合)	佐藤　勘治／G. ヨシカワ	水2／金2	2	3	全	39・35
12509	春	スペイン語Ⅴ(総合)	兒島　峰／N. ウエチ	月2／木3	2	3	全	38・37
12510	秋	スペイン語Ⅴ(総合)	兒島　峰／N. ウエチ	月2／木3	2	3	全	38・37
10886	春	中国語Ⅴ(総合)-総合Ⅰ－a/総合Ⅱ－a	辻　康吾	水3／木2	2	3	全	41・42
09770	秋	中国語Ⅴ(総合)-総合Ⅰ－b/総合Ⅱ－b	辻　康吾	水3／木2	2	3	全	41・42
01902	春	中国語Ⅴ(総合)-中日翻訳入門/中国語講読と翻訳a	永田　小絵／厳　明	月4／火2	2	3	全	43・40
01903	秋	中国語Ⅴ(総合)-中日通訳入門/中国語講読と翻訳b	永田　小絵／厳　明	月4／火2	2	3	全	43・40
02169	春	中国語Ⅴ(総合)-中国語ビジネス文書a/ビジネス中国語会話a	吉田　桂子	木3／木4	2	3	全	44・45
02170	秋	中国語Ⅴ(総合)-中国語ビジネス文書b/ビジネス中国語会話b	吉田　桂子	木3／木4	2	3	全	44・45
「基礎講座」部門								
02188	春	ボランティア論	青柳　多恵子	水2	2	1		19
08659	春	現代世界論	佐藤　勘治	月4	2	1		20

時間割コード	開講期	科目名	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「概論」部門								
13566	春	言語文化概論	下川　浩	火5	2	1		21
02273	秋	言語文化概論	下川　浩	火5	2	1		21
02271	春	比較思想概論	谷口　郁夫	水2	2	1		22
01968	通年	日本文化論	飯島　一彦	火3	4	1		23
02049	通年	日本語研究概論	桂　千佳子	木4	4	1		24
02103	通年	スペイン・ラテンアメリカ文化論	二宮　哲／佐藤　勘治	月5	4	1		25
01904	通年	現代中国論	上村　幸治	月4	4	1		26

専攻科目

時間割コード	開講期	科目名	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「日本研究」部門								
01947	通年	日本文化・芸能論	飯島　一彦	火4	4	2		47
02189	通年	日本近現代史	丸浜　昭	火5	4	2		48
07118	通年	日本経済論	波形　昭一	火5	4	2	経・法	50
06280	通年	日本政治外交史	福永　文夫	木3	4	2	経・法	51
02015	通年	日本研究特殊講義A(能楽論)	瀬尾　菊次	火2	4	2	全	52
「日本語教育研究」部門								
02265	通年	日本語文法論	浅山　佳郎	火1	4	2		53
02059	通年	日本語音声学	猪塚　恵美子	月4	4	2		54
02246	通年	対照言語学	中西　家栄子	金2	4	2		55
02190	通年	日本語教授法Ⅰ	中西　家栄子	木5	4	2		56
02192	春	日本語教授法Ⅱ	浅山　佳郎	月3	2	3		57
02080	春	日本語教授法Ⅱ	中西　家栄子	木4	2	3		58
02036	春	日本語教授法Ⅱ	松浦　恵津子	金2	2	3		59
「情報・コミュニケーション研究」部門								
02247	通年	自然言語処理	呉　浩東	金3	4	2		63
02212	通年	異文化間コミュニケーション論	岡村　圭子／山本　英政	木1／火5	4	2	英	70
02124	通年	カウンセリング論	瀧本　孝雄	金4	4	2		73
02073	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(プログラミング論・自然言語処理入門)	呉　浩東	水2	4	2	全	64
11817	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)	加藤　尚吾	月3	4	2	経・法	65
07126	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)	立田　ルミ	火2	4	2	経・法	66
07125	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)	堀江　郁美	金2	4	2	経・法	67
11814	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)	森　園子	水3	4	2	経・法	68
08097	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義B(CAEL)	髙木　亜希子	水3	2	2	全	74
08098	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義B(CAEL)	髙木　亜希子	水3	2	2	全	74

時間割コード	開講期	科目名	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「地域研究」部門								
01939	通年	地域文化論i(ラテンアメリカ)	佐藤　勘治	木4	4	2		75
01926	通年	地域文化論 ii (スペイン)	二宮　哲	月4	4	2		76
01927	通年	地域文化論 iii (中国)	武信　彰	木4	4	2		77
06277	秋	地域経済論i(ラテンアメリカ)	今井　圭子	月3／月4	4	2		78・79
07142	通年	地域経済論 ii (アジア)	森　健	金3	4	2	経・法	80
07143	通年	地域経済論 iii (中国)	全　載旭	木2	4	2	経・法	81
02078	通年	比較社会論	井上　兼行	水2	4	2		82
02219	通年	地域研究特殊講義A(スペインの文化と文明)	P. ラゴ	金3	4	2		83
02125	通年	地域研究特殊講義A(カリブ海域の民俗と文化)	井上　兼行	木1	4	2		84
11822	通年	地域研究特殊講義A(現代ラテンアメリカ研究)	浦部　浩之	金4	4	2		85
02191	通年	地域研究特殊講義A(東西文化を結ぶもの)	熊谷　哲也	木4	4	2		86
02133	通年	地域研究特殊講義A(英語圏のエスニック・ヒストリー)	佐藤　唯行	木3	4	2		87
07574	通年	地域研究特殊講義A(アラブ文化・芸術)	藤原　和彦	火2	4	2		88
02196	通年	地域研究特殊講義A(地中海世界の歴史)	古川　堅治	金3	4	2		89
02249	通年	地域研究特殊講義A(森林地域における風土と生活)	松本　栄次	月4	4	2		91
13469	春	地域研究特殊講義B(文化史入門)	古川　堅治	水2	2	2		90
01940	通年	比較文化論特殊講義A(日中文化比較論)	厳　明	金2	4	2		93
07115	通年	比較文化論特殊講義A(グローバリゼーションと文化変容)	岡村　圭子	水2	4	2		92

関連科目

時間割コード	開講期	科目名	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「国際交流」部門								
07363	通年	国際関係概論	浦部　浩之	月1	4	2	英	94
06274	通年	国際機構論	鈴木　淳一	火3	4	2	経・法	95
09062	通年	地球環境論(植物学)	加藤　僖重	火3	4	2		96
07165	通年	地球環境論(地理学)	北﨑　幸之助	木3	4	2	経・法	97
01856	通年	地球環境論(太陽系)	福井　尚生	金3	4	2		98
01876	通年	都市・地域計画論	鈴木　隆	月2	4	2		99
11825	通年	国際経済論	千代浦　昌道	金2	4	2	経・法	100
07173	通年	国際政治論	星野　昭吉	月2	4	2	経・法	101
13467	春	国際交流研究特殊講義B(国際関係・日米中)	上村　幸治	水1	2	2		102
※	秋	国際交流研究特殊講義B(NGO論)	未定	未定	2	2		103

※　秋学期開講予定ですが、曜日・時限・担当者が未定です。秋学期までに掲示にて
お知らせするので必ず確認してください。

	英語 Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ (RW)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際社会で活躍するために必要とされる実用的な英語のコミュニケーション能力を習得することを目標とする。RW は(Reading & Writing)を示し、Intermediate, High-intermediate、Advanced コースまで、日本人教員が担当する。Intermediate,から Advanced まで、一貫した学習内容で構成されている。コースは基本的な読解・作文能力を育成することに始まり、段階的により多様なトピック・高度な文を読んだり、書いたりする技能が習得できるように指導が行なわれる。週２回の授業を同一の教科書を使用し、Reading と Writing を連携させることで、最大限の効果をあげることを目標としている。 秋学期は春学期の継続であるが、それぞれのコースの requirement を充足したうえで、その次のコースを履修することとなる。	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
North Star – Reading & Writing, 他 履修するコースによって異なるため、各担当教員に確認すること。	平常点と試験で総合的に評価。担当者により課題や小テストが加わることがある。

	英語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ (RW)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

	英語 I,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ　(LS)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際社会で活躍するために必要とされる実用的な英語のコミュニケーション能力を習得することを目標とする。ＬＳは(Listening & Speaking)を示し、High-intermediate 及び Advanced コースはネイティブスピーカーが担当する。Intermediate から Advanced まで、一貫した学習内容で構成されている。コースは基本的な聴解・発話能力を育成することに始まり、段階的により多彩なトピック、高度な Listening & Speaking の技能が習得できるように設定されている。週２回の授業を同じ教員が同一の教科書を使用し、Listening と Speaking を 連携させることで、最大限の効果をあげることを目標としている。 秋学期は春学期の継続であるが、それぞれのコースの requirement を充足したうえで、その次のコースを履修することとなる。	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
North Star – Listening & Speaking, 他 履修するコースによって異なるため、各担当教員に確認すること。	平常点と試験で総合的に評価。担当者により課題や章テストが加わることがある。

	英語 I,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ　(LS)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

	スペイン語Ⅰ（総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （総合）は、スペイン語Ⅰの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。 なお、この授業はスペイン語 Ⅰ（総合 2）とのペア授業である。	①　ガイダンス ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　形容詞 ⑤　ser, estar 動詞の使い方 ⑥　ser, estar 動詞の使い方 ⑦　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑧　代名詞の用法 ⑨　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑪　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫　動詞の活用 --- 再帰動詞 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	評価方法
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅱ（総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 II（総合 1）は､スペイン語Ⅰ（総合 1, 2）の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （総合）は、スペイン語Ⅱの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 なお、この授業はスペイン語 II（総合 2）とのペア授業である。	①　ガイダンス ②　動詞の活用 --- 再帰動詞 ③　再帰動詞と諸用法 ④　動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑤　比較表現 ⑥　動詞の活用 --- 直説法点過去 ⑦　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑧　点過去と線過去の違い ⑨　動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑩　動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑪　動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑫　命令表現 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	評価方法
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅰ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（総合 2）はスペイン語 Ⅰ（総合 1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 Ⅰ（総合 1）と 同(総合 2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語Ⅰ（総合１）に同じ。
テキスト、参考文献	評価方法
スペイン語 Ⅰ（総合 1）（総合）に同じ。	03 年度以降のスペイン語 Ⅰ(総合 1）と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。

	スペイン語Ⅱ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 II（総合 2）は上記のスペイン語 II（総合 1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 II（総合 1）と 同(総合 2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語 II（総合 1）に同じ。
テキスト、参考文献	評価方法
スペイン語 II（総合 1）に同じ。	03 年度以降のスペイン語 II（総合 1）と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。

	スペイン語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語Ⅰ（総合1，2）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合 1，2）の項目と同じであるが、（入門）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合 1，2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（入門）の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （基礎表現）では、（総合1，2）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 II（総合 1，2）の項目と同じであるが、（基礎表現）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 II（総合 1，2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （会話）では、スペイン語Ⅱ(総合 1，2)での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。(会話)の担当者は、スペイン語を母国としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 II(総合 1，2)の項目と同じであるが、(会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ(総合 1，2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ(会話）の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 (会話)では、スペイン語Ⅰ(総合 1，2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。(会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ(総合 1，2)の項目と同じであるが、(会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ(総合 1，2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。	各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 III（総合）の継続である。 総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。	各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに総合の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。	各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 Ⅲ（講読）の継続である。 講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに総合の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。	各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（会話 1)(会話 2）のいずれかの担当教員が LL の授業を担当し、他方が会話の授業を担当する。 （会話）の授業では、総合の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目にそって口答練習を中心に授業を進める。 （ＬＬ）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も試みる。	各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（会話 1)(会話 2）のいずれかの担当教員が LL の授業を担当し、他方が会話の授業を担当する。 （会話）の授業では、総合での文法項目に沿った口答練習とともに、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目にそって口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。 （ＬＬ）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、Ⅲに引き続いて、聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も試みる。	各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 Ⅲ(会話 1) を参照。	各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 Ⅳ（会話 1） を参照。	各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	中国語Ⅰ（総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。	１～３　　発音・ピンイン ４　基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞“不” ５　反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連体修飾 ６　形容詞述語文、選択疑問文 中間試験 ７　二重目的文、量詞 ８　連動文、年月日・曜日の言い方 ９　有／没有、几／多少、方位詞、数詞 10　在、金額の表現 11　助動詞、語気助詞“了” 12　動態助詞“了”、禁止の表現、反語の表現 時量・回数と時点、時間量の言い方
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語一年目の教科書　ユニバーサル・ユース』（好文出版）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅱ（総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。	１　主述述語文、程度補語、離合詞 ２　進行相、動詞の重ね型 ３　方向補語、結果補語 ４　持続相、可能補語 ５　経験相、将然相、時刻の表現 ６　存現文 中間試験 ７　“把”字文、定着表現、到達表現 ８　比較の表現 ９　受身文 10　様態補語 11　使役文、後置修飾 12　“（是）…的”構文
テキスト、参考文献	評価方法
『中国語一年目の教科書　ユニバーサル・ユース』（好文出版）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅰ（総合２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，構文・作文力の基礎を養成する。	１～３　発音 ４～６　第１課　姓名の表現 第２課　判断の表現 ７～９　第３課　程度の表現（Ⅰ） 第４課　行為の表現 10～12　第５課　時間の表現 第６課　所有の表現 第７課　存在の表現（Ⅰ） ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『表現の達人Ⅰ』［基本ブック］（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅱ（総合２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，構文・作文力の基礎を養成する。	１～３　第８課　生活習慣の表現 第９課　行為完了の表現 第 10 課　可能と許可の表現（Ⅰ） ４～６　第 11 課　願望と感情の表現 第 12 課　条件と選択の表現 第 13 課　状態の持続と経験の表現 ７～９　第 14 課　程度の表現（Ⅱ） 第 15 課　比較の表現（Ⅰ） 第 16 課　動作の時間的な量と回数の表現 10～12　第 17 課　動作の結果の表現（Ⅰ） 第 18 課　可能の表現（Ⅱ） 復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	評価方法
『表現の達人Ⅰ』［基本ブック］（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，発音指導を中心に，簡単な挨拶表現・応答表現などを学ぶ。	１～３　発音 ４～６　第１課 第２課 第３課 ７～９　第４課 第５課 第６課 10～12　第７課 第８課 復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	評価方法
『新版例解中国語入門　你问我答〔第２版〕』（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，反復練習・暗誦を通し基礎表現を身につけさせる。	１～３　第９課 第 10 課 第 11 課 ４～６　第 12 課 第 13 課 第 14 課 ７～９　第 15 課 第 16 課 第 17 課 10～12　第 18 課 第 19 課 第 20 課 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	評価方法
『新版例解中国語入門　你问我答〔第２版〕』（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）	１～３　発音 ４～６　第１課　姓名の表現 第２課　判断の表現 ７～９　第３課　程度の表現（Ⅰ） 第４課　行為の表現 10～12　第５課　時間の表現 第６課　所有の表現 第７課　存在の表現（Ⅰ） ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	評価方法
『表現の達人Ⅰ』［発展ブック］（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）	１～３　第８課　生活習慣の表現 第９課　行為完了の表現 第 10 課　可能と許可の表現（Ⅰ） ４～６　第 11 課　願望と感情の表現 第 12 課　条件と選択の表現 第 13 課　状態の持続と経験の表現 ７～９　第 14 課　程度の表現（Ⅱ） 第 15 課　比較の表現（Ⅰ） 第 16 課　動作の時間的な量と回数の表現 10～12　第 17 課　動作の結果の表現（Ⅰ） 第 18 課　可能の表現（Ⅱ） 復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	評価方法
『表現の達人Ⅰ』［発展ブック］（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，作文のための基本文法を整理し，併せて虚詞（機能語）・文型を学んで，文の組み立てをしっかりつかませる。	1　第１課 2　第２課 3　第３課 4　第４課 5　第５課 6　第６課 7　第７課 8　第８課 9　第９課 10　第 10 課 11　第 11 課 12　第 12 課 随時，中国語の重要文型を覚え，応用練習を行う。 （プリント教材） ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『作文ルール６６　―　日中翻訳技法　―　』（朝日出版社）＋プリント教材	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる。」中国語Ⅳの学習目標の下，作文のための基本文法を整理し，併せて虚詞（機能語）・文型を学んで，文の組み立てをしっかりつかませる。	1　第 13 課 2　第 14 課 3　第 15 課 4　第 16 課 5　第 17 課 6　第 18 課 7　第 19 課 8　第 20 課 9　第 21 課 10　第 22 課 11　第 23 課 12　第 24 課 随時，中国語の重要文型を覚え，応用練習を行う。 （プリント教材） ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『作文ルール６６　―　日中翻訳技法　―　』（朝日出版社）＋プリント教材	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。	１～３　第１課 第２課 ４～６　第３課 第４課 ７～９　第５課 第６課 10～12　第７課 読み物（プリント教材） ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語Ⅱ　―　中級読解コース　―　』(白帝社) ＋（各クラス担当者作成の）プリント教材	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下，一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。	１～３　第８課 第９課 ４～６　第 10 課 第 11 課 ７～９　第 12 課 第 13 課 10～12　第 14 課 読み物（プリント教材） ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語Ⅱ　―　中級読解コース　―　』(白帝社) ＋（各クラス担当者作成の）プリント教材	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅲ（会話 1）	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
単文ではなく一定の長さを持った会話文のリスニングとスピーキングの訓練を行う。聴解力増強・語彙力増強のため、聞き取り小テストを毎回行う。 LL 教室での授業となるため、学生は積極的に口を動かして練習することが求められる。 中間テスト、期末テストは原則として筆記テストはおこなわず、すべて口頭試験となる。	テキストの第一課から第三十三課までを学びます。 1. Scene1～3 2. Scene4～6 3. Scene7～9 4. Scene10～12 5. Scene13～15 6. Scene16～18 7. 中間テスト 8. Scene19～21 9. Scene22～24 10. Scene25～27 11. Scene28～30 12. Scene31～33
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語会話ルート 66』東方書店	出席・課題の提出情況および授業に対する積極性を 50%、小テスト、中間テスト・期末テストの点数を 50%で評価します。

	中国語Ⅳ（会話 1）	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
単文ではなく一定の長さを持った会話文のリスニングとスピーキングの訓練を行う。聴解力増強・語彙力増強のため、聞き取り小テストを毎回行う。 LL 教室での授業となるため、学生は積極的に口を動かして練習することが求められる。 中間テスト、期末テストは原則として筆記テストはおこなわず、すべて口頭試験となる。	テキストの第 34 課から第 66 課までを学びます。 13. Scene34～36 14. Scene37～39 15. Scene40～42 16. Scene43～45 17. Scene46～48 18. Scene49～51 19. 中間テスト 20. Scene52～54 21. Scene55～57 22. Scene58～60 23. Scene61～63 24. Scene64～66
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語会話ルート 66』東方書店	出席・課題の提出情況および授業に対する積極性を 50%、中間テスト・期末テストの点数を 50%で評価します。

	中国語Ⅲ（会話２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，話題をめぐってまとまった内容を話す練習を行い，会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※　教科書の１～33 の話題について会話練習を行います。	1　自己紹介、家庭Ⅰ・Ⅱ 2　住まい、食事、買い物 3　１日のスケジュール、通学・通勤、学校 4　授業Ⅰ・Ⅱ、中国語 5　テスト、　留学、部活動 6　アルバイト、就職、仕事 7　病気、健康 8　余暇、趣味、レジャー 9　旅行、スポーツ 10　グルメ、タバコ・酒 11　ショッピング、おしゃれ 12　恋愛、電話・手紙 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語会話ルート 66』（東方書店）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅳ（会話２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下，話題をめぐってまとまった内容を話す練習を行い，会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※　教科書の 34～66 の話題について会話練習を行います。	1　テレビ・新聞、映画、音楽 2　読書、訪問、パーティ 3　バースデー・クリスマス、生活、ことば 4　故郷、天気、 5　友だち、性格 6　中国人、中国文化、日本と中国、 7　観光地で、ホテルで、レストランで、 8　お店で、街で、交通 9　あいさつ、お礼、おわび 10　約束、依頼 11　お祝い・励まし、慰め、お別れ 12　感情表現、教室用語 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語会話ルート 66』（東方書店）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	ボランティア論	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ボランティアの諸様相について検証し、基本的ボランティアの組織（NPO・ NGO）活動を理解。 原義である自主性・無償性・社会性と歴史的意義と活動を現代社会の中で実施検証していくフィールドワークである。 歴史的・社会的変遷と関連事項（宗教・医学）の検索と解明。 産業社会と人間生活の方向性の接点を解明し、本来人間が保持している感情（優しさ・介護心・いたわり）の表現と活用の意義を理解し、社会的位置（小地域的・組織的・国際的）の研究と組織的な協力関係や団体のマネージメント能力の基本的知識の把握 救急法の体得（心肺蘇生術） （介助・手話の知識習得）	1　4/11　青柳　講座ガイダンス・班編成 2　4/18　青柳 3　4/25　和田　（災害を想定して、自然の中での生活体験） 4　5/ 2　学外講師１）（養護施設でのボランティアの在り方） 5　5/ 9　老人体験・介助研究（草加市） 6　5/16　学外講師２）手話 7　5/23　救急法１）・・草加市消防署 8　5/30　救急法２）心肺蘇生法・・草加市消防署 9　6/ 6　青柳　ＮＰＯ・ＮＧＯについて 10　6/13　パネルディスカッション１） 11　6/20　パネルディスカッション２） 12　6/27　青柳
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布	出席重視・レポート提出

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	現代世界論	担当者	佐藤　勘治

講義目標

この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近で具体的テーマについて受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究へのきっかけとなることを目的とする。一年目の学生が主な履修対象者である。

現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題であることを講義を通して明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。

講義概要

主に言語文化学科所属教員にそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。多文化共生に関わる諸問題がひとつの柱となっている。担当教員の専門分野は、哲学、言語学、文学、歴史、社会学、地域研究、政治学、教育学などである。

第３回では、ジャーナリスト工藤律子氏を招いて、途上国の子どもたちをとりまく状況について講演していただく。工藤氏は、メキシコを中心にしてストリートチルドレン支援運動をおこなっている。また、第10回では、自ら「無国籍」の経験をもつ陳天璽氏を招いて、無国籍者の現状やその問題点を講演していただく予定である。

テーマと順番については、変更の可能性がある。

受講生への要望

各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。
積極的な発言を期待している。

評価方法

各担当者ごとに、小テストあるいはレポート課題が出される。評価は、それらを総合的に判断してだす。

テキスト、参考文献

陳 天璽『無国籍』（新潮社）2005 年
工藤律子『ストリートチルドレン：メキシコシティの路上に生きる』(岩波ジュニア新書)

授業計画

1　佐藤勘治：
総論 ポストコロニアリズムとグローバル化（4/9）
2　岡村圭子：
グローバリズムは世界を均一化するか？（4/16）
3　工藤律子（ゲストスピーカー）：ジャーナリスト
真の幸せとは？フィリピン・メキシコの都市と農村の子どもたちをみつめて（4/23）
4　飯島一彦：
多文化社会としての日本（5/7）
5　上村幸治：
大国中国の台頭が意味するものは？（5/14）
6　山本英政：
アメリカ黒人とブラックミュージック（5/21）
7　安井一郎：
日本の教育改革はどこへ向かおうとしているのか？（5/28）
8　平田由紀江：
BoAは「韓流スター」か？（6/4）
9　二宮哲：
言語の死　言語の消滅はしかたのないことか？(6/11)
10　陳 天璽（ゲストスピーカー）：国立民族学博物館助教授
「無国籍」を生きるとは？(6/18)
11　佐藤勘治：
¿Spanglish? 米国ラティーノたちの未来は？（6/25）
12　松丸壽雄：
現代世界と私たち(7/2)

	言語文化概論	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ３．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ４．世界にはどのような言語があるのか？ ５．民族の形成 ６．文化の形成・変化 ７．民族と宗教 ８．民族と国家 ９．少数民族問題と民族・地域紛争 １０．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １１．ウソとコトバの魔術 １２．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。 また、この授業は重複履修はできません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高崎通浩「改訂版世界の民族地図」（作品社） 下川　浩『どうしてそんなにダマされる？』『生きたコトバづかい』（国際語学社）ほか	授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを提出し、それを自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。

	言語文化概論	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ３．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ４．世界にはどのような言語があるのか？ ５．民族の形成 ６．文化の形成・変化 ７．民族と宗教 ８．民族と国家 ９．少数民族問題と民族・地域紛争 １０．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １１．ウソとコトバの魔術 １２．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。 また、この授業は重複履修はできません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高崎通浩「改訂版世界の民族地図」（作品社） 下川　浩『どうしてそんなにダマされる？』『生きたコトバづかい』（国際語学社）ほか	授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを提出し、それを自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。

	比較思想概論	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
「巡礼」という視点から日本、イスラム教、ユダヤ教、キリスト教の比較を試みます。 古来、人々は生命を賭してまで巡礼を行なってきました。書物によって哲学者・思想家と呼ばれる人々の考えを知るのではなく、映像、地図などを使いながらごく普通の人々の思いを考える予定です。それによってそれぞれの文化の違いを浮かび上がらせたいと考えています。	1. 西行・芭蕉──人はなぜ旅をするのか 2. 空海・四国八十八か所 3. 伊勢神宮・熊野古道 4. イスラム教を簡単に紹介します。 5. イスラム教徒の巡礼の思い 6. ユダヤ民族の歴史を簡単に紹介します[1] 7. ユダヤ民族の歴史を簡単に紹介します[2] 8. 流浪の民としてのユダヤ民族[1] 9. 流浪の民としてのユダヤ民族[2] 10. キリスト教の歴史を簡単に紹介します[1] 11. キリスト教の歴史を簡単に紹介します[2] 12. キリスト教徒の巡礼者たち
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しません。 参考文献は、講義のなかで指示します。	学期末に「比較」をテーマとしたレポートを提出していただきます。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本文化論 a	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
「日本文化」と言うときの「日本」とは何か？「文化」とは何か？そのようなラディカルな問いかけをしなければ、現在の我々が直面する多文化・多言語環境を迎えた「日本」と向き合うことは出来ない。日本は世間一般がぼんやりと信じている単一民族国家でもないし単一言語国家でもないのである。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてまた、それは日本に限ったあり方でもない。 文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。 種々の相を複雑に展開する「日本文化」について、その歴史的複合重層性への理解を基本に様々な問題を概括的に考えていく。	1　オリエンテーション・導入 日本とは？文化とは？ 2　日本文化の歴史的複合重層性 外からの刺激と内的発展 3　日本は閉鎖的な国か？ 海の道、人と人との行き来 4　「日本」という国号 もともと日本に「日本」はなかった 5　「日本」という地域 どこまでが「日本」か？ 6　文字の輸入の意味 漢字・片仮名・平仮名 7　ものの行き来、人の行き来 海外の日本、日本の海外 8　奈良東大寺正倉院とシルクロード 仏教・音楽・工芸 etc 9　律令の輸入 大君・天皇・国王・将軍・国家 10　「鎖国」とは何か 開かれていた国「日本」 11　明治維新の文化的意味付け 「和魂洋才」の意義 12　まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）	学期末試験（論述式）の成績による。

	日本文化論 b	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
「日本文化」と言うときの「日本」とは何か？「文化」とは何か？そのようなラディカルな問いかけをしなければ、現在の我々が直面する多文化・多言語環境を迎えた「日本」と向き合うことは出来ない。日本は世間一般がぼんやりと信じている単一民族国家でもないし単一言語国家でもないのである。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてまた、それは日本に限ったあり方でもない。 文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。 種々の相を複雑に展開する「日本文化」について、その歴史的複合重層性への理解を基本に様々な問題を分野別に考えていく。	1　オリエンテーション・導入 日本とは？文化とは？ 2　日本文化の歴史的複合重層性 外からの刺激と内的発展 3　日本人の振る舞い（習俗）① 正直・清潔・契約・権威 4　日本人の振る舞い（習俗）② 暮らし・死生観 5　宗教・思想 仏教・儒教・キリスト教 6　季節感 「四季」の嘘と作り上げた感受性 7　美術・工芸 「見る」と「作る」 8　建築 「屋根から作る」 9　数々の「道」 「芸能」という道々 10　文芸 恋とウタとモノガタリ 11　東と西、都と鄙 言葉・価値観・自然 12　まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）	学期末試験（論述式）の成績による。

	日本語研究概論 a	担当者	桂　千佳子

講義目的、講義概要	授業計画
言葉は、私達にとって生きていく上で欠かせないものである。だが、誰もが無意識に言葉をあやつっているために、あらためて、自分にとって言葉とは何か、ということを考える人は少ない。しかし、言葉をいかに使っていくかということは、その人の人生の質までも決めてしまうかもしれないほど、重要なことなのである。 それを肝に銘じて、自分なりの言葉観を育めるようにしてほしい。 この授業では、主に、文法範疇の中の時をあらわす表現について学びながら、表現された結果である「文」の背後にある現象の見え方の違いついて考えていく。 講義形式ではあるが、例題を解きながら解説をしていくので、授業時において主体的に取り組むことを望む。 また、高校までの国文法をざっと復習してから受講すること。留学生は、自分が勉強した教科書等の文法用語をしっかり覚えておくこと。	１．講義概要について ―各自、受講理由を書いて提出 ２．言葉とは何か ３．文法とは何か ４．時の表現から見えること ―テンス①　絶対テンスについて ５．時の表現から見えること ―テンス②　相対テンスについて ６．時の表現から見えること ―テンス③　まとめ ７．時の表現から見えること ―アスペクト① ８．時の表現から見えること ―アスペクト② ９．時の表現から見えること ―アスペクト③ １０．時の表現から見えること ―アスペクト④ １１．日本語の文の構造について ―コト １２．日本語の文の構造について ―ムード
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回配布するプリント	第１回目の講義時に指示

	日本語研究概論 b	担当者	桂　千佳子

講義目的、講義概要	授業計画
言葉は、私達にとって生きていく上で欠かせないものである。だが、誰もが無意識に言葉をあやつっているために、あらためて、自分にとって言葉とは何か、ということを考える人は少ない。しかし、言葉をいかに使っていくかということは、その人の人生の質までも決めてしまうかもしれないほど、重要なことなのである。 それを肝に銘じて、自分なりの言葉観を育めるようにしてほしい。 この授業では、日本の国語学者たちが、どんな意識によって文法研究をしてきたのかを考えながら、日本語の文の構造を学ぶ。 講義形式ではあるが、例題を解きながら解説をしていくので、授業時において主体的に取り組むことを望む。 また、高校までの国文法をざっと復習してから受講すること。留学生は、自分が勉強した教科書等の文法用語をしっかり覚えておくこと。	１．講義概要について －各自、受講理由を書いて提出 ２．コトバの構造と文法観 ３．文とは何か 「桜が咲く」は文か ４．日本語の文についての研究史 ５．「言語過程説」という考え方 ６．文の階層構造 ―南不二男による４つの分類① ７．文の階層構造 ―南不二男による４つの分類② ８．文の階層構造 ―南不二男による４つの分類③ ９．文章の中の文 １０．文章の構造 １１．日本語の文章の特徴とは １２．まとめと質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回配布するプリント	第１回目の講義時に指示

	スペイン・ラテンアメリカ文化論 a	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン・ラテンアメリカ文化論 a は、前半から 8 回の授業分、主にスペインに関する地域研究入門の授業を二宮が行い、後の 4 回を浦部が担当し、主にラテンアメリカ（特にラテンアメリカとスペインの関係）に関する地域研究入門の授業を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、各自の専門分野にそって、該当地域の歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、秋学期に開講される「スペイン・ラテンアメリカ文化論 b」と関連性・連続性が強いため、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。	<u>スペイン</u> 1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1. 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシーアの言語文化 7. フラメンコと闘牛というスペイン像 8. 内戦と現代スペイン <u>スペインとラテンアメリカ</u> 1. 中南米の地域区分と地理･言語状況 2. 宗教と価値規範（カトリック教、避妊論争） 3. 家族と人間関係（コンパドラスゴと家父長制） 4. 政治と社会変動（南欧･中南米の権威主義と民主化）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント等随時配布。	学期末の試験による。

	スペイン・ラテンアメリカ文化論 b	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、スペイン・ラテンアメリカ文化論 a の続きであり、主にラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。春学期に引き続いて、スペイン語履修者であれば知らなければならない基礎的知識を修得し、ラテンアメリカの魅力と抱えている問題の理解を目的としている。前半 4 回は、浦部が担当し環境と経済問題を中心に、後半 8 回は佐藤が歴史と文化を中心に論じる。 高校での地理、世界史など授業においてラテンアメリカ関係の項目は限定されているが、それでもいくつかは教えられている。ここでは、それらの基礎知識を確認するだけでなく、ラテンアメリカの人びととその社会の現状を知るために不可欠な幅広い知見を獲得してもらいたい。 春学期授業とセットで履修することを希望する。 スペイン・ラテンアメリカ研究を研究課題にしたいと考えている人は必須の授業である。	<u>ラテンアメリカの環境と社会　(担当：浦部)</u> 1. アンデスの自然環境と伝統的生業 2. アマゾンの自然環境と伝統的生業 3. 貧困・開発と環境問題（森林破壊） 4. 貧困・開発と環境問題（農村と都市） <u>ラテンアメリカの歴史と文化　(担当：佐藤)</u> 1. 歴史のおもみ：ラテンアメリカの「人種」・エスニック集団の分布と特徴 2. 征服期：先コロンブス期のアメリカ、コロンブス、アステカとインカの征服 3. 植民地時代、独立と国家形成期 4. 20 世紀ラテンアメリカ史 1 ： 5. 20 世紀ラテンアメリカ史 2 ：キューバ革命、チリ革命、ニカラグア革命、中米紛争、冷戦後 6. 米国ラティーノの歴史と文化 7. 現代のラテンアメリカ文化と社会 1 8. 現代のラテンアメリカ文化と社会 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジメを用意する。 参考文献：増田義郎『物語ラテンアメリカの歴史』中公新書	積極的な授業参加 期末テスト、簡単な課題を課す場合がある。

	現代中国論 a	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
中国が目覚しい経済成長を続け、世界の大国になりつつある。アジアの巨大途上国の台頭を、２１世紀の世界史的事件だと指摘する声も出ている。日本との貿易が急増するなど、日本との経済交流も深まっている。 同時に、社会の混乱や環境破壊、軍拡に懸念を示す声も出てきた。発展する沿海工業地帯と貧しい内陸の農村地帯の経済格差も大きな問題になっている。 ナショナリズムの台頭は、反日デモや米国批判という形で火を噴いている。 現代の中国を多角的にとらえるため、アヘン戦争以来の歴史も踏まえながら、政治や外交や経済、文化の実態を見ていこうと思う。 その上で、これからの中国がどう発展していくのか、日本との関係がどう変化していくのかを考える。	1　現代中国の実像 2　英領香港の返還 3　日中関係の背景 4　戦争と内戦 5　毛沢東と周恩来（新中国の性格） 6　朝鮮戦争と冷戦 7　社会主義化 8　文化大革命 9　日中国交正常化 10　四人組逮捕と改革開放 11　天安門事件と民主化 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
［教材］上村幸治著『中国路地裏物語―市場経済の光と影』岩波新書、上村幸治著『中国のいまがわかる本』岩波ジュニア新書、小島晋治ら著『中国近現代史』岩波新書	出席、レポート、試験による

	現代中国論 b	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	1　高度経済成長（市場経済化） 2　都市の単位の崩壊 3　農村の変貌（医療・教育） 4　政治改革（民主化） 5　人口・環境問題（一人っ子問題や環境） 6　経済格差・階層社会 7　巨大プロジェクト、宇宙計画 8　台湾人意識の形成 9　チベットなど少数民族 10　指導体制の変遷 11　国際情勢と日中関係 12　後期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春楽学期と同じ	春学期と同じ

	英語演習 (Communicative English 1a) (火２)	担当者	R.ダラム

OVERALL OBJECTIVES OF THE COURSE:

The purposes of the course are to show you how to:
a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);
b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view;
c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in English; and
d) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*.

Tentative Weekly Schedule for the April – July Semester:

(* Note: This is a *tentative* schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)

Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion.

Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for* **INTERNATIONAL** *topics/themes which they would like to learn & study.*

Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? Discussion of recent **International News** articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.)

Week 4: Asking and telling other people about likes & dislikes; hobbies; good places to dine/party. What is "**EQ**"; and how can we best use it, to have more effective communication? Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day..

Week 5: Student research/discussion about a variety of themes which they choose, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest. Possibly: choosing an International topic for presentation

Week 6: Discussing **movies, concerts, events**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Refining on possible presentation topics.

Week 7: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. International News stories, with discussion. Preparations for making presentations.

Week 8: Continuous assessment. Ways to meet new people (using English); and how to continue/develop conversations with them. **International News** articles and/or videos; with discussion thereof.

Week 9: **Body Language**: Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Listening exercise & discussion. Preparations for class presentations.

Week 10: What is a *"hobby"*? ***How many hobbies do YOU have?*** In-depth discussion of which hobbies display good "EQ". Student presentations.

Week 11: *International communication*: telephoning to reserve hotels/air tickets/trains/restaurant seats, in English. Student presentations.

Week 12: Discussing & explaining plans for the Summer. Student presentations.

Materials/Textbook:

We will be using audio book listening exercises; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International videos, and library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.

Evaluation Method/ Grading/ Assessment

You will be assessed often—the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well **you speak** and **elaborate** (explain) in English, the ways in which you **reason** (think); how well you **use** the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework /test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.

Attendance is **CRUCIAL** (very important) in this class. **You must NOT miss more than three classes**, for any reason. Please also keep in mind that :a) the lower your Attendance , the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F") ;b) lateness will also affect your grade in this course.
(One late = 1/2absence.)

	英語演習 (Communicative English 1b) (火２)	担当者	R.ダラム

OVERALL OBJECTIVES OF THE COURSE:

The purposes of the course are to show you how to:
a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);
b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view;
c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in English; and
d) (if students are interested) research and 'give' (present) a class presentation.

Tentative Weekly Schedule for the September – December/January Semester:

(* Note: This is a *tentative* schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)

Week 1: Asking, replying, and elaborating about your Summer Break, using modern English. News article exercises distributed & assigned.

Week 2: Asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study. Continuouis assessments.

Week 3: Researching ***festivals in different countries*** :Hallowe'en and other occasions chosen by students. Discussion of **International News** (articles and/or News Videos).

Week 4: Choosing a country and *Fall/Winter festival* about which to make a presentation. Discussion about "**EQ**", and its effect on success in International communication, and on business success.

Week 5: Hallowe'en video and discussion. News articles and/or video about *International* topics.

Week 6: English-listening and discussion exercise. Preparation for presentations. Conversation practice. Ongoing assessments.

Week 7: Song and/or video-listening exercise, with discussion/explanations thereof. Conversation practice/explanations: "What ***kind*** of _____ do you like?"

Week 8: "What do you usually do _____?": *Discussing your usual practices* on holidays/weekends/weeknights. Using dynamic English & "EQ" in conversations.

Week 9: Finalizing preparations and practice for presentations. News articles and/or video about international topics. Song-listening exercise.

Week 10: Christmas song-listening exercise. ***Christmas cultures*** in various countries. Class presentations.

Week 11: Asking others, and elaborating about, Christmas wishes and plans. Christmas video and/or Christmas song exercise.

Week 12: Christmas song-listening & discussion. Christmas in countries around the world, part 2

Materials/Textbook:

We will mostly be using dynamic conversation topics; International newspaper articles, Internet research, global videos, and research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.

Evaluation Method/ Grading/ Assessment

The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.

Attendance is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course.
(One late = 1/2 absence.)

	英語演習 (Communicative English 2a) (木 3)	担当者	R. ダラム

OVERALL OBJECTIVES OF THE COURSE:

The purposes of the course are to show you how to:
a) think in, communicate, and explain your ideas and opinions more effectively in modern ***dynamic*** English, using "EQ" (Emotional Intelligence);
b) learn about and actively analyze & discuss **World Issues**, from a more***International*** point of view;
c) enjoy *fun, dynamic, interesting conversations* in English; and
d) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*.

Tentative Weekly Schedule for the April – July Semester:

(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, & the timing of the items may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)

Week 1: **Introductions**, Parts 1 & 2. Initial meeting & greetings; the ***continuing the conversation***. (Focus on "EQ": Emotional Intelligence".)
Week 2: Listening exercise: song/ News/ Video. Pair practice, re: Intros 1 & 2.
Week 3: **What do you usually do _____ ?"** (Focus on Golden Week.) Pair practice. International News discussion.
Week 4: Cutural elements of conversations: ***HOW*** to say it, in English ("EQ"). Continuous assessment. Optional: selecting an International presentation topic.
Week 5: Song/ News/ Video-listening exercise. International News discussion. ***Compliments***, & appreciating people, in English.
Week 6: Talking about your ***preferences***. **"What kind of _____ do you like?"** (Focus on: explaining reasons for your preferences, in English.)
Week 7: Listening exercise (song/ News/ Video), & discussion. Further "EQ" practice: ***"How's it going?"***
Week 8: **Calling to reserve a hotel/ restaurant/ airplane ticket**/etc. Ongoing assessment. Preparation for optional presentations.
Week 9: **Restaurant ordering,** in English: appetizers; main course; side dishes; dessert; drinks. ***Tipping***: how to do it; when to do it; where to do it.
Week 10: Pair practice: restaurant ordering. News/ song listeing exercise.
Week 11: ***Calling to invite someone***. in English. (Including suggesting alternate days/ times/ meeting places.) Class presentations.
Week 12: Class presentations. Speaking about your dynamic ***hobbies***, in English. Pair practice. Review. Discussion of **Summer plans**. Final assessments

Materials/Textbook:

We will be using audio book listening exercises; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International videos, and library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.

Evaluation Method/ Grading/ Assessment

The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.
Attendance is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. **You must NOT miss more than three classes, for any reason.** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course.
(One late = 1/2 absence.)

	英語演習 (Communicative English 2b) (木 3)	担当者	R. ダラム

OVERALL OBJECTIVES OF THE COURSE:

The purposes of the course are to show you how to:
a) think in, communicate, and explain your ideas and opinions more effectively in modern dynamic English, using "EQ" (Emotional Intelligence);
b) learn about and actively analyze & discuss World Issues, from a moreInternational point of view;
c) enjoy fun, dynamic, interesting conversations in English; and
d) (if students are interested) research and 'give' (present) a class presentation.

Tentative Weekly Schedule for the September – December/January Semester:

(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, & the timing of the items may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)

Week 1: Discussing your Summer Break. **"It would have been better/worse, if I had _____ ."**
Week 2: Listening exercise: News/ video/song; with discussion. Asking & giving **street directions**, and/or **subway directions**, in English. Pair practice. Continuous assessment.
Week 3: Discussion of **International "Body Language"**. Selection of (optional) Fall presentation topic.
Week 4: Polite vs. too-direct **asking of questions,** in English, with pair practice. Ways to ***reply*** to polite questions (cultural aspects of speaking English). Pair practice.
Week 5: Learning about, & discussing: **Cultural 'festivals' in the world.** International News discussion. Listening exercise: video/ song/ News. Ongoing assessment.
Week 6: **"How long have you _____ ?"** Pair practice: discussing in depth how long you have performed various tasks.
Week 7: **"The Seven Ws"**: asking & answering questions, using "Who", "What", "Why", "Which", "Where", "When", and "How". Pair practice. Continuous assessment.
Week 8: **How to express your opinions about things**, in English: "I'm crazy about it."; "I can't stand it."; "It's a good idea, because...."; "I think it's terrible."; etc. Focus on: ELABORATING (explaining, in detail). Pair practice.
Week 9: International festivals: focus on **Thanksgiving**. Thanksgiving customs & traditions.
Week 10: Christmas song/video exercise. Ongoing assessment. Class presentations.
Week 11: **International Christmas customs**. Examining & discussing different Christmas customs, around the world. Christmas listening/video exercise.
Week 12: **What's _____ like?"**: describing a person/place/activity/thing, in English. Class presentations. Final assessments. **"What are your plans for the Christmas/ O-Sho-Gatsu holidays?"**

Materials/Textbook:

We will mostly be using dynamic conversation topics; International newspaper articles, Internet research, global videos, and research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.

Evaluation Method/ Grading/ Assessment

The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.
Attendance is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. **You must NOT miss more than three classes, for any reason.** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course.
(One late = 1/2 absence.)

	英語演習（言語学習 a）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
言語習得と外国語学習のメカニズムを学び，言語コミュニケーションの本質に関する理解を深める．また，この分野に関わるアカデミックな英語表現を使いこなせるようになることを目標とする．授業では単に教科書の内容理解に留まらず，トピックに関連した論文も率先して調査・発表をすることが期待される．	1. Introduction 2. Chapter 1: Learning a first language 3. Chapter 1: Learning a first language 4. Chapter 1: Learning a first language 5. Chapter 2: Theoretical aproaches to explaining second language learning 6. Chapter 2: Theoretical aproaches to explaining second language learning 7. Chapter 2: Theoretical aproaches to explaining second language learning 8. Chapter 3: Factors affecting second language learning 9. Chapter 3: Factors affecting second language learning 10. Chapter 3: Factors affecting second language learning 11. Chapter 3: Factors affecting second language learning 12. Review and summary
テキスト、参考文献	**評価方法**
P. M. Lightbown & N. Spada, *How Languages are Learned* (Oxford University Press, 1999; ISBN: 0-19-437000-3) Lightbown & Spada (1999) 記載の further reading	定期試験及び授業中の課題.

	英語演習（言語学習 b）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き，言語習得と外国語学習のメカニズムを学び，言語コミュニケーションの本質に関する理解を深める．授業では単に教科書の内容理解に留まらず，トピックに関連した論文も率先して調査・発表をすることが期待される．さらに，時間の許す限り教材研究と開発を試みる．	1. Review of Chapters 1-3 2. Chapter 4: Learner language 3. Chapter 4: Learner language 4. Chapter 5: Observing second language teaching 5. Chapter 5: Observing second language teaching 6. Chapter 5: Observing second language teaching 7. Chapter 6: Second language learning in the classroom 8. Chapter 6: Second language learning in the classroom 9. Chapter 6: Second language learning in the classroom 10. Chapter 6: Second language learning in the classroom 11. Chapter 7: Popular ideas about language learning: facts and opinions 12. Review and summary
テキスト、参考文献	**評価方法**
P. M. Lightbown & N. Spada, *How Languages are Learned* (Oxford University Press, 1999; ISBN: 0-19-437000-3) Lightbown & Spada (1999) 記載の further reading	定期試験及び授業中の課題.

	英語演習（Understanding Japanese-American Experience through Works of Literature）（水２）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
The goals of this course are twofold. First, it aims to improve students' overall English proficiency, focusing on critical reading, discussion, and vocabulary building. Second, it aims to deepen students' understanding of Japanese-American experiences. Class activities include mini lectures, discussion, and presentations. Students are expected to do the readings at home as well as watch related videos outside class. [受講者への要望等] ① Medium of instruction and communication is English. ② Regular attendance is a prerequisite. More than 3 absences during the term will result in failure of the course.	Week 1: Introduction Weeks 2 – 3: History Weeks 4 – 5: Early immigrants Week 6: Picture brides Weeks 7–9: World War II and Japanese Americans Weeks 10 – 11: Japanese-Americans Today Week 12: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：In-house materials 参考文献：Strangers from a Different Shore: A History of Asian Americans (Ronald Takaki) : Farewell to Manzanar (Jeanne Wakatsuki Houston & James D. Houston) : No-no Boy (John Okada) : Our House Divided: Seven Japanese American Families in WWII (Tomi Kaizawa Knaefler) : Snow Falling on Cedars (David Guterson) and others	Assignments（30%）、Quizzes（20%）、Final Presentation (20%), Final Exam（30%）

	英語演習（Understanding Diversity in Japan）（水２）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
The goals of this course are twofold. First, it aims to improve students' overall English proficiency, focusing on critical reading, discussion, and vocabulary building. Second, it aims to deepen students' understanding diversity in Japan. Class activities include mini lectures, discussion, and presentations. Students are expected to do the readings at home as well as watch related videos outside class. [受講者への要望等] ① Medium of instruction and communication is English. ② Regular attendance is a prerequisite. More than 3 absences during the term will result in failure of the course.	Week 1: Introduction Weeks 2 – 4: History and Overview Weeks 5 – 6: Issues (language) Weeks 7 – 9：Issues (education) Weeks 10 – 12: Issues (law)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：In-house materials 参考文献：Studies in Japanese Bilingualism (ed. by Mary Goebel Noguchi and Sandra Fotos) : Multicultural Japan: Palaeolithic to Postmodern (eds. D. Denoon, et.al.) : North Koreans in Japan: Language, Ideology, and Identity (Sonia Ryang) : Japanese Only (Arudou Debito) : Japan's Minorities: The Illusion of Homogeneity (ed. Michael Weiner) : Japan's Hidden Apartheid: The Korean Minority and the Japanese (George Hicks)and others	Assignments（30%）、Quizzes（20%）、Final Presentation (20%), Final Exam（30%）

	英語演習（英語基礎 a)（金 4)	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、英文法（基礎：中１～３）の構造および機能を理解し、ライティング・スピーキングの両方で使えるようになることを目的とする。また、校正（エディティング）する力を養うことも目指す。 第 1 回目の講義で診断テストを行い、その診断結果に基づいて、講義をすすめる。 講義→練習問題→小テスト→応用（ライティング、スピーキング）→エディティング→小テストの基本サイクルですすめる。 履修条件： ①中等教育（中・高）で 6 年間の英語教育を完全に受けていない学生対象。 ②適切な学修を行うために教員による履修指導（このクラスを履修できるかできないか）を行う。	第 1 週：概論・診断テスト 第 2～12 週：（講義概要にある）基本サイクル
テキスト、参考文献	**評価方法**
診断テストの結果をふまえて第 2 回目の講義で指定するテキストおよび教師作成教材	課題（30%)、小テスト（30%)、期末テスト（40%）

	英語演習（英語基礎 b)（金 4)	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、英語演習（春・木 1 時限）の内容をふまえ、英文法（基礎）の構造および機能を理解し、ライティング・スピーキングの両方で使えるようになることを目的とする。また、校正（エディティング）する力を養うことも目指す 第 1 回目の講義で診断テストを行い、その診断結果に基づいて、講義をすすめる。 講義→練習問題→小テスト→応用（ライティング、スピーキング）→エディティング→小テストの基本サイクルですすめる。 履修条件： ①中等教育（中・高）で 6 年間の英語教育を完全に受けていない学生対象。 ②適切な学修を行うために教員による履修指導（このクラスを履修できるかできないか）を行う。	第 1 週：概論・診断テスト 第 2～12 週：（講義概要にある）基本サイクル
テキスト、参考文献	**評価方法**
診断テストの結果をふまえて第 2 回目の講義で指定するテキストおよび教師作成教材	課題（30%)、小テスト（30%)、期末テスト（40%）

	英語演習（通訳・翻訳 a）	担当者	柴原　智幸

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、通訳や翻訳の実技演習をおこなう。つまり、通訳力と翻訳力を上げることを通して、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的変化を起こさせるわけである。 通訳力・翻訳力を上げるということは、複合的な分野を強化していくことになる。「通訳力・翻訳力＝英語力＋日本語力＋知識量」という考えのもと、日本語力の強化、知識の強化もおこなう。 英語力の強化については、宿題として毎回英字新聞を読む精読訓練のほか、Graded Readers などの多読訓練もおこなう。また、発音指導などもおこなうほか、通訳演習を通して総合的な力を慣用する。 日本語力については、課題図書の読書と感想文の提出（日本語）、日本語での要約訓練をおこなう。 知識の訓練としては、学期中何度か設定したテーマを元にリサーチ、ディスカッション、通訳演習などをおこなう。 また英語力と日本語力の総合的随時翻訳（日英・英日）をおこなう。 基本的に毎回、授業の最後に授業内容を要約して提出。	1　通訳・翻訳とは何か　トレーニングのやり方について 2　文法の大切さ　受験時代の遺産を活用する 3　発音のコツ　カタカナ発音からの脱出 4　リスニングのコツ　質・量 2 種類のトレーニング 5　日本語を駆使する　母語の落とし穴 6　リサーチのやり方　どう調べ、どうまとめるか 7　プレゼンテーションのやり方　効果的な伝え方とは 8　翻訳のやり方　英文和訳・和文英訳からの脱却 9　進度調整日　総復習 10　プレゼンテーションの通訳　実技と講評 11　プレゼンテーションの通訳　実技と講評 12　プレゼンテーションの通訳　実技と講評
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリントなどを配る。 特定のテキストを購入する必要がない分、和書・洋書などを積極的に購入して読むこと。	通訳実技　30%　授業内容要約　20% 翻訳実技　30%　期末試験　20%

	英語演習（通訳・翻訳 b）	担当者	柴原　智幸

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、通訳や翻訳の実技演習をおこなう。つまり、通訳力と翻訳力を上げることを通して、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的変化を起こさせるわけである。 通訳力・翻訳力を上げるということは、複合的な分野を強化していくことになる。「通訳力・翻訳力＝英語力＋日本語力＋知識量」という考えのもと、日本語力の強化、知識の強化もおこなう。 英語力の強化については、宿題として毎回英字新聞を読む精読訓練のほか、Graded Readers などの多読訓練もおこなう。また、発音指導などもおこなうほか、通訳演習を通して総合的な力を慣用する。 日本語力については、課題図書の読書と感想文の提出（日本語）、日本語での要約訓練をおこなう。 知識の訓練としては、学期中何度か設定したテーマを元にリサーチ、ディスカッション、通訳演習などをおこなう。 また英語力と日本語力の総合的随時翻訳（日英・英日）をおこなう。 基本的に毎回、授業の最後に授業内容を要約して提出。	1　通訳・翻訳とは何か　トレーニングのやり方について 2　文法の大切さ　受験時代の遺産を活用する 3　発音のコツ　カタカナ発音からの脱出 4　リスニングのコツ　質・量 2 種類のトレーニング 5　日本語を駆使する　母語の落とし穴 6　リサーチのやり方　どう調べ、どうまとめるか 7　プレゼンテーションのやり方　効果的な伝え方とは 8　翻訳のやり方　英文和訳・和文英訳からの脱却 9　進度調整日　総復習 10　プレゼンテーションの通訳　実技と講評 11　プレゼンテーションの通訳　実技と講評 12　プレゼンテーションの通訳　実技と講評
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリントなどを配る。 特定のテキストを購入する必要がない分、和書・洋書などを積極的に購入して読むこと。	通訳実技　30%　授業内容要約　20% 翻訳実技　30%　期末試験　20%

	英語演習（アメリカ社会問題 a)(月 3)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカ黒人の差別問題を読み解く。扱う時代は１９６０年代から１９７０年代初頭の黒人運動の盛衰期である。テキストは、「非暴力不服従」を唱えたマーティン・ルーサー・キングの演説と、それとは対極をなす「暴力には暴力」をスローガンとした先鋭的なブラックナショナリズムの主張である。 授業では、テキストの内容に関して英問英答し、ディスカッションでアメリカ国の理解を深め、そして英語力の向上をはかる。 理解の補助として、多くの映像資料を使用する。 授業での使用言語は８割程度、英語である。	☆キング牧師の演説 １～６週 ☆ストークリー・カーマイケルの演説 ７～１２週
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント	普段点（出席、発言、予習)、学期末試験

	英語演習（アメリカ社会問題ｂ)(月 3)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカ黒人の差別問題を読み解く。扱う時代は１９６０年代から１９７０年代初頭の黒人運動の盛衰期である。テキストは、M.L.キングが師と仰いだガンジーのことばとそれとは対極をなす「黒人の自立」を訴えたモハメッド・アリの主張である。 授業では、テキストの内容に関して英問英答し、ディスカッションでアメリカ国の理解を深め、そして英語力の向上をはかる。 理解の補助として、多くの映像資料を使用する。 授業での使用言語は８割程度、英語である。	☆再び、非暴力不服従について　ガンジーの言葉 １～２週 ☆モハメッド・アリの生涯 ３～１２週
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント	普段点（出席、発言、予習)、学期末試験

	英語演習(スピーキングa)(火3)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
英語圏で長く暮らしたことがなければ、通じる英語表現を適宜、ひねり出すには高度な訓練が必要だ。それをジョークの題材として身につけようとするのが授業のねらいである。 毎回、２話のジョークを他者に口伝し、笑いをとる。 本演習では、意思伝達のコツを習得する。同時に、日米間で小話のオチがかくも異なることを発見し、大しておもしろくもないのに、外人の話しに「愛想笑い」する日本人の悪癖を乗り越えたい。 授業の使用言語は８割ほど英語である。	アメリカジョークを主に扱う ジャンルとして ☆職業 ☆身分 ☆人種・民族 ☆男女関係 などをネタにしたものを、混合して使用する
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時、プリントを配布する	普段点（出席、課題への取り組み）、小テスト

	英語演習(スピーキングb)(火3)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
英文を読み、その意図するところを十分に理解し、他者へ口頭で伝える。題材は、新聞などで報道される事件や時事問題、読者の投書などである。 最初は、事実を要領よく伝達することを目指す。徐々に、情報量の多い複雑な事柄をつたえる。自分の理解と判断を相手に納得させることを試みてほしい。こうした授業で、読解と発信、そして時事に関する理解力の向上をはかってもらいたい。 授業の使用言語は８割ほど英語である。	その都度、プリントを配布する。予習が必要な場合もあれば、その場で英文を理解し、とにかく要領よく、相手とコミュニケーションをはかる。 段階を追って、徐々に伝達内容を高度なものにしていき、英語のコミュニケーション力を高めていく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時、プリントを配布する	普段点（出席、課題への取り組み）、小テスト

	スペイン語演習	担当者	G.ヨシカワ

講義目的、講義概要	授業計画
西洋において、文化は、ポスト・モダンと呼ばれる段階にある。これは、価値の相対化、または反転であり、エゴイズムと快楽主義を促進させ、すべての権威を無効にし、物質と技術を、ヒューマニティより重視するもので、環境破壊と責任回避を助長する。 この授業は、スペイン語におけるコミュニケーションと知識の向上を目指す学生を対象にしており、ラテンアメリカ文化が、西洋のポスト・モダンが破壊しようとしている価値をどのように守っているのかを学ぶ。この授業は最終的に、受講学生が、スペイン語の会話能力と理解力を向上させるだけではなく、より明確で確固たる考えに基づいてこれからの人生に挑戦することができるようになることを目的としている。	＊　オリエンテーション：ラテンアメリカ文化概論 ＊　ポスト・モダンの性格と挑戦 ＊　家族の起源と機能 ＊　ジェンダーの役割：対立？補完？ ＊　今日の核家族の可能性と選択 ＊　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講読プリント、提出物、発表のための台本等は、教員が準備する	授業中の活発な参加、すなわち、配布プリントをもとにしたグループごとのディスカッションにおける積極的な態度が望まれる。基本方針は、実際に話すことを通じて話すことを学び、実際に演技することによって身につける、というものである。 毎週の提出物が 60%程度、授業中の参加態度が 20%、授業で学習したテーマにしたがって行なわれるプレゼンテーション、または、小劇が 20%程度

	スペイン語演習	担当者	G.ヨシカワ

講義目的、講義概要	授業計画
西洋において、文化は、ポスト・モダンと呼ばれる段階にある。これは、価値の相対化、または反転であり、エゴイズムと快楽主義を促進させ、すべての権威を無効にし、物質と技術を、ヒューマニティより重視するもので、環境破壊と責任回避を助長する。 この授業は、スペイン語におけるコミュニケーションと知識の向上を目指す学生を対象にしており、ラテンアメリカ文化が、西洋のポスト・モダンが破壊しようとしている価値をどのように守っているのかを学ぶ。この授業は最終的に、受講学生が、スペイン語の会話能力と理解力を向上させるだけではなく、より明確で確固たる考えに基づいてこれからの人生に挑戦することができるようになることを目的としている。	＊　隣人愛、無関心、復讐 ＊　感謝、許し、無頓着、無愛想 ＊　社会的責務とボランティア ＊　金銭：動機？目的？代償？ ＊　ストレス、忍耐、信心、希望 ＊　移住とナショナル・アイデンティティ ＊　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講読プリント、提出物、発表のための台本等は、教員が準備する	授業中の活発な参加、すなわち、配布プリントをもとにしたグループごとのディスカッションにおける積極的な態度が望まれる。基本方針は、実際に話すことを通じて話すことを学び、実際に演技することによって身につける、というものである。 毎週の提出物が 60%程度、授業中の参加態度が 20%、授業で学習したテーマにしたがって行なわれるプレゼンテーション、または、小劇が 20%程度

	スペイン語演習	担当者	J.I.ドメネク・アロンソ

講義目的、講義概要	授業計画
授業はできる限りスペイン語で行いスペイン語でのコミュニケーションに慣れてもらいます。基本的にこのクラスはスペイン語会話の上達に重点を置いて進めますが、文法や表現方法で説明が必要な際には日本語での説明を間にはさみます。言語習得のためにはその言語の背後にある文化を理解することは不可欠です。ビデオ教材等を使用し、スペインおよびラテンアメリカ文化の一端を理解するためにも多少の時間を割きます。	1～2、3 種類の過去形 3～4、Gustar 形動詞 5～6、命令法 7、未来形 8、比較級・最上級 9、進行形 10、再帰動詞 11～12、関係代名詞を使った文章
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材としてテキストは使用せず、コピーを配布します。	試験　70%　授業中評価　30%

	スペイン語演習	担当者	J.I.ドメネク・アロンソ

講義目的、講義概要	授業計画
授業はできる限りスペイン語で行いスペイン語でのコミュニケーションに慣れてもらいます。基本的にこのクラスはスペイン語会話の上達に重点を置いて進めますが、文法や表現方法で説明が必要な際には日本語での説明を間にはさみます。言語習得のためにはその言語の背後にある文化を理解することは不可欠です。ビデオ教材等を使用し、スペインおよびラテンアメリカ文化の一端を理解するためにも多少の時間を割きます。	1、指示形容詞 2、指示代名詞 3～4、条件文 5～6、過去完了形 7、復習 8～9、直接話法、間接話法 10～12、接続法
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材としてテキストは使用せず、コピーを配布します。	試験　70%　授業中評価　30%

	スペイン語演習	担当者	N. ウエチ

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語の総合的応用能力を高めると同時にスペインとラテンアメリカの社会、文化などにも理解を深める。また、口頭発表、スペイン語レポートを書くこと等を通じてわりあい高い表現能力を伸ばし、会話力の強化を目指す。積極的に授業に参加する姿勢が必要です。	**Plan de estudio sujeto a cambios.** 1. Presentación del curso, evaluación de nivel. Encuesta sobre el plan de estudio. 2. México: información general. 3. El muralismo mexicano 4. Frida Kahlo 5. Intercambio de opiniones. 6. Cine hispano. 7. Cine español. 8. Debate sobre películas. 9. Argentina: información general. 10. Música argentina. 11. Jorge Luis Borges. 12. Presentación oral
テキスト、参考文献	**評価方法**
教室で配布	50%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題､残りの50%を２回の試験によって行う。

	スペイン語演習	担当者	N. ウエチ

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語の総合的応用能力を高めると同時にスペインとラテンアメリカの社会、文化などにも理解を深める。また、口頭発表、スペイン語レポートを書くこと等を通じてわりあい高い表現能力を伸ばし、会話力の強化を目指す。積極的に授業に参加する姿勢が必要です。	**Plan de estudio sujeto a cambios.** 1. Colombia: Gabriel García Márquez. 2. Análisis de sus novelas. 3. Fernando Botero. 4. Ecuador: información general. 5. Quito 6. Islas Galápagos. 7. Cuba: información general. 8. Che Guevara y Cuba 9. España: Información general. 10. Picasso, Dalí. 11. Gaudí 12. Presentación oral.
テキスト、参考文献	**評価方法**
教室で配布	50%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題､残りの50%を２回の試験によって行う。

	スペイン語演習	担当者	兒島　峰

講義目的、講義概要	授業計画
すでに文法を修了した学生を対象に、スペイン語のより深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とする。 スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行なう。このため、西和辞典は必携となるが、和西辞典は必要ない。 受講学生は、質問を恐れず、積極的に授業に参加するよう心がけること。 ひとつのテーマについて、2 から 3 時間かけて、購読、ディスカッション、応用練習を行ない、読解、会話、聞き取り能力の向上をはかる。	1. オリエンテーション 2. Eufemismos （解説・購読） 3. Eufemismos （応用練習） 4. Ver noticias en la televisión （聞き取り） 5. Ver noticias en la televisión （応用練習） 6. Ver noticias en la televisión （ディスカッション） 7. 小テスト 8. La religión azteca（購読） 9. La religión azteca（ディスカッション） 10. La religión azteca（応用練習） 11. ¡Vamos a cantar! 12. テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは当方で用意する。 西和辞典は必携。	授業への参加態度、小テスト、グループ討論、報告発表、および学期末試験を総合的に評価する。

	スペイン語演習	担当者	兒島　峰

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語のより深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とする。 スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行なう。このため、西和辞典は必携となるが、和西辞典は必要ない。 受講学生は、質問を恐れず、積極的に授業に参加するよう心がけること。 ひとつのテーマについて、2 から 3 時間かけて、購読、ディスカッション、応用練習、および、グループ討論を行ない、読解、会話、聞き取り、および理解力を高めることを、本講義の目的としている。	1. Introducción y ejercicios 2. En el viaje （イントロダクション） 3. En el viaje （グループ討論） 4. En el viaje （報告発表） 5. 復習・小テスト 6. Ver una película sin subtítulo 7. Ver una película sin subtítulo 8. Ver una película sin subtítulo 9. Ver una película sin subtítulo 10. Leer las noticias 11. Leer las noticias 12. テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは当方で用意する。 西和辞典は必携。	授業への参加態度、小テスト、グループ討論、報告発表、および学期末試験を総合的に評価する。

	スペイン語演習	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
評論などを教材にして、翻訳の訓練をおこなうことにしたい。多様なスペイン語の文章に触れ、重要表現を確実に抑え語彙を増強することで、スペイン語を通した正確な情報収集能力の養成を目的とする。 履修学生は、A4版一枚程度の論説、記事を翻訳し、担当者に提出することを三週に1度、計４回繰り返す。 授業では、語彙、表現法のほか、論説・記事の内容について、背景知識で重要なものを説明する。 各セットごとに小テストを行い、スペイン語力の定着をはかることにする。 計４回の繰り返しのうち、一回は文字教材ではなく、インタビューを教材にしたい。その場合、聞き取りとその翻訳を上記と同様に課題とする。 最後に自分で選んだ評論や記事（インターネット上にあるものでもかまわない）、あるいは、担当者が用意したものを翻訳して提出してもらう。	三週１セットの一回目： 前回部分の小テスト（一回目はない） 教材の配布　時間をとって一部翻訳作業を行わせる。 わからなかった部分について、グループに分けて履修生間で検討する。 語彙で注意したいものを指摘する。 表現法で注意したいものを指摘する。 内容の理解に必要な背景知識を学習する。 質問を受ける 土曜日夜までにメールで担当者に送信 三週1 セットの二回目： 送られた翻訳例を使って相互に検討 語彙、表現法のポイント整理 解説の補い 三週1 セットの三回目： 残った部分について相互に検討 完成版の作成。 次回小テスト対策の作文
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材を用意する。 注意：春学期、秋学期の教材は別である。	積極的な授業参加

	スペイン語演習	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
評論などを教材にして、翻訳の訓練をおこなうことにしたい。多様なスペイン語の文章に触れ、重要表現を確実に抑え語彙を増強することで、スペイン語を通した正確な情報収集能力の養成を目的とする。 履修学生は、A4版一枚程度の論説、記事を翻訳し、担当者に提出することを三週に1度、計４回繰り返す。 授業では、語彙、表現法のほか、論説・記事の内容について、背景知識で重要なものを説明する。 各セットごとに小テストを行い、スペイン語力の定着をはかることにする。 計４回の繰り返しのうち、一回は文字教材ではなく、インタビューを教材にしたい。その場合、聞き取りとその翻訳を上記と同様に課題とする。 最後に自分で選んだ評論や記事（インターネット上にあるものでもかまわない）、あるいは、担当者が用意したものを翻訳して提出してもらう。	三週１セットの一回目： 前回部分の小テスト（一回目はない） 教材の配布　時間をとって一部翻訳作業を行わせる。 わからなかった部分について、グループに分けて履修生間で検討する。 語彙で注意したいものを指摘する。 表現法で注意したいものを指摘する。 内容の理解に必要な背景知識を学習する。 質問を受ける 土曜日夜までにメールで担当者に送信 三週1 セットの二回目： 送られた翻訳例を使って相互に検討 語彙、表現法のポイント整理 解説の補い 三週1 セットの三回目： 残った部分について相互に検討 完成版の作成。 次回小テスト対策の作文
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材を用意する。 注意：春学期、秋学期の教材は別である。	積極的な授業参加

	中国語演習（中国語講読と翻訳 a）	担当者	嚴　明

講義目的、講義概要	授業計画
本講義把學習中国語與了解當代中国社會結合起來，從一系列的當代中国熱門話題中，選擇主要的問題進行討論，掌握中国社會當前的現狀以及發展趨向，並在學習過程中了解生動的和道地的當代中国語言。通過學習和討論，不僅可以提高學生對於當代中国的了解程度和認識水平，而且可以提高中国語的實際運用能力。 秋学期も履修することが望ましい	1、世界海拔最高的鐵路 2、日中翻譯技法 1 3、中国前衛藝術 4、日中翻譯技法 2 5、文革：四十年后的回憶 6、日中翻譯技法 3 7、微軟在中国 8、日中翻譯技法 4 9、中国大學的現狀 10、日中翻譯技法 5 11、中国大城市花絮 12、日中翻譯技法 6
テキスト、参考文献	**評価方法**
三潴正道著《时事中国语 2007 版》，朝日出版社，2007 年。	評價方法:期末定期試驗，平常授業の課題など

	中国語演習（中国語講読と翻訳 b）	担当者	嚴　明

講義目的、講義概要	授業計画
本講義把學習中国語與了解當代中国社會結合起來，從一系列的當代中国熱門話題中，選擇主要的問題進行討論，掌握中国社會當前的現狀以及發展趨向，並在學習過程中了解生動的和道地的當代中国語言。通過學習和討論，不僅可以提高學生對於當代中国的了解程度和認識水平，而且可以提高中国語的實際運用能力。在讲解时事中国语的同时，注意总结日中语言翻译的规律和技巧，增强学生进行口头及书面翻译的能力。 春学期も履修することが望ましい	1、中国的日本人博客 2、日中翻譯技法 7 3、北京奥运会 4、日中翻譯技法 8 5、客家土楼 6、日中翻譯技法 9 7、中国的世界遺产 8、日中翻譯技法 10 9、中国的国花 10、日中翻譯技法 11 11、2007 年的流行语 12、日中翻譯技法 12
テキスト、参考文献	**評価方法**
三潴正道著《时事中国语 2007 版》，朝日出版社，2007 年。	評價方法:期末定期試驗，平常授業の課題など

	中国語演習(総合Ⅰ－a)(水 3)	担当者	辻　康吾

講義目的、講義概要	授業計画
語学教材としての外国語と、実際に報道、評論、随筆などで使用されている外国語とではかなりの違いがある。語学学習で学んだ基礎を実際に使われている外国語の中で活用することを学ぶ必要がある。この目的に沿って本演習では 2006 年 11 月、中国で放映されたテレビ番組「大国崛起」(たいこくくっき　全 12 回)を教材とする。この番組は映像、ナレーション、副教材などが揃っているため、視聴覚的学習だけでなく、その内容である世界各国史を教養としても学ぶことができる。	総合Ⅰ－a(春)では、「大国崛起」第 3 回「走向現代」を使う。19 世紀、大英帝国として世界帝国を築いた英国の近代化を準備した法治主義、議会主義、民主主義の成立の跡をたどり、大国化の初期条件を検討する。 授業進度は学生の理解度に合わせる
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材は印刷、配布する	出席点と期末試験

	中国語演習(総合Ⅰ－ｂ)(水 3)	担当者	辻　康吾

講義目的、講義概要	授業計画
語学教材としての外国語と、実際に報道、評論、随筆などで使用されている外国語とではかなりの違いがある。語学学習で学んだ基礎を実際に使われている外国語の中で活用することを学ぶ必要がある。この目的に沿って本演習では 2006 年 11 月、中国で放映されたテレビ番組「大国崛起」(たいこくくっき　全 12 回)を教材とする。この番組は映像、ナレーション、副教材などが揃っているため、視聴覚的学習だけでなく、その内容である世界各国史を教養としても学ぶことができる。	総合Ⅰ－b(秋)では前期に引き続き、「大国崛起」第 4 回「工業先声」を使う。科学西進、産業革命の先駆者となった英国の軌跡とたどる。 授業進度は学生の理解度に合わせる
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材は印刷、配布する	出席点と期末試験

	中国語演習(総合Ⅱ－a)(木２)	担当者	辻　康吾

講義目的、講義概要	授業計画
語学教材としての外国語と、実際に報道、評論、随筆などで使用されている外国語とではかなりの違いがある。語学学習で学んだ基礎を実際に使われている外国語の中で活用することを学ぶ必要がある。この目的に沿って本演習では 2006 年 11 月、中国で放映されたテレビ番組「大国崛起」(たいこくくっき　全 12 回)を教材とする。この番組は映像、ナレーション、副教材などが揃っているため、視聴覚的学習だけでなく、その内容である世界各国史を教養としても学ぶことができる。	総合Ⅱ－a(春)では「大国崛起」第 7 回「百年維新」と使う。アジアにありながら世界的近代化の波に追いつき、アジア近代化の先駆となるとともに、やがてアジア唯一の帝国主義国となり、さらに世界大戦で大敗しながらも再び経済大国として台頭した日本の「大国化」の過程を追う。 授業進度は学生の理解度に合わせる
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材は印刷、配布する	出席点と期末試験

	中国語演習(総合Ⅱ－b)(木２)	担当者	辻　康吾

講義目的、講義概要	授業計画
語学教材としての外国語と、実際に報道、評論、随筆などで使用されている外国語とではかなりの違いがある。語学学習で学んだ基礎を実際に使われている外国語の中で活用することを学ぶ必要がある。この目的に沿って本演習では 2006 年 11 月、中国で放映されたテレビ番組「大国崛起」(たいこくくっき　全 12 回)を教材とする。この番組は映像、ナレーション、副教材などが揃っているため、視聴覚的学習だけでなく、その内容である世界各国史を教養としても学ぶことができる。	総合Ⅱ－b では「大国崛起」第 12 回「大道行思」を使う。ここでは世界各国の大国化の過程を集約し、中国の今後の近代化、「大国化」の条件、方向を明らかにしようとしている。 授業進度は学生の理解度に合わせる
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材は印刷、配布する	出席点と期末試験

	中国語演習（中日翻訳入門）	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：ドラマ翻訳入門 中国語の会話能力を増強するとともに翻訳のテクニックを学ぶ。 ・　台湾の連続テレビドラマを使用し、中国語の自然な会話の聞き取りに慣れる。 ・　実際にドラマの役柄を演じて、滑らかな発話ができるよう練習する。 ・　字幕翻訳を通じて基礎的な翻訳のテクニックを学ぶ。	1.　第一話　セリフの聞き取り 2.　第一話　ロールプレイ 3.　第一話　字幕作成 4.　第一話のまとめ・質疑応答 5.　第二話　セリフの聞き取り 6.　第二話　ロールプレイ 7.　第二話　字幕作成 8.　第二話のまとめ・質疑応答 9.　第三話　セリフの聞き取り 10.　第三話　ロールプレイ 11.　第三話　字幕作成 12.　第三話のまとめ・質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
台湾のドラマ『求婚事務所』を使用する予定である。詳細は初回の授業で指示する。	出席率、授業に対する積極性、訳出の完成度によって評価する。

	中国語演習（中日通訳入門）	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：中日通訳入門 スピーチ、インタビュー、ニュースなどの通訳訓練を通じて、基礎的な通訳スキルを身につけることを目的とする。 ・　実際のスピーチ、インタビュー、ニュースなどを素材として用い、語彙力と聴解力を増強する。 ・　通訳作業に求められる情報処理の方策を学ぶ。 ・　直訳でない、自然な訳出ができるよう練習する。	1.　ガイダンス（授業の方法、通訳の決まりなど） 2.　挨拶の通訳-1 3.　挨拶の通訳-2 4.　挨拶の通訳-3 5.　インタビューの通訳-1 6.　インタビューの通訳-2 7.　インタビューの通訳-3 8.　スピーチの通訳-1 9.　スピーチの通訳-2 10.　ニュースの放送通訳-1 11.　ニュースの放送通訳-2 12.　ニュースの放送通訳-3
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中にそのつど配布する。	出席率、授業に対する積極性、訳出の完成度によって評価する。

	中国語演習（中国語ビジネス文書a）（木3）	担当者	吉田　桂子

講義目的、講義概要	授業計画
中国の 2006 年度の国内自動車販売台数が米国に次ぎ世界第二位に躍進するなど、ここ数年の中国経済の急成長を背景に、現在、中国語を自由に操れる人材の育成が急務となっています。 本講では、ビジネス業務に欠かせない「契約書」「仕様書」「業務連絡用ビジネスレター」等について、中文による様々な表現方法を習得すると共に、併せて、「ビジネス文書」を通じて実際の日中間の貿易業務に触れることにより、ビジネス分野の専門用語や「貿易業務」の基礎知識を理解することを目指します。 実際の授業では、毎回中国語で「ビジネスレター」を作成すると同時に、ゼミ形式で授業を進めていきます。理解をより深める為、中国語演習木曜４限「ビジネス中国語会話a」の同時受講と、春/秋通年履修を薦めます。	1　日中貿易概説 2　中国語のビジネスレターの概要 3　業務取引の申し込みと CIF 4　業務取引の申し込みと CFR 5　見積書の送付依頼 6　見積書の送付依頼と FOB 7　サンプル送付に対する回答（一） 8　サンプル送付に対する回答（二） 9　製品紹介のレターと Form A 10　オッファーシートの送付と L/C 11　契約書（契約内容/支払方法）とインボイス 12　実習とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
・毎回配布するプリント	・出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が６０点以上で単位取得。

	中国語演習（中国語ビジネス文書b）（木3）	担当者	吉田　桂子

講義目的、講義概要	授業計画
中国の 2006 年度の国内自動車販売台数が米国に次ぎ世界第二位に躍進するなど、ここ数年の中国経済の急成長を背景に、現在、中国語を自由に操れる人材の育成が急務となっています。 本講では、ビジネス業務に欠かせない「契約書」「仕様書」「業務連絡用ビジネスレター」等について、中文による様々な表現方法を習得すると共に、併せて、「ビジネス文書」を通じて実際の日中間の貿易業務に触れることにより、ビジネス分野の専門用語や「貿易業務」の基礎知識を理解することを目指します。 実際の授業では、毎回、中国語で「ビジネスレター」を作成すると同時に、ゼミ形式で授業を進めていきます。理解をより深める為、中国語演習木曜４限「ビジネス中国語会話b」の同時受講を薦めます。	1　契約書付属文書 2　契約書付属文書と L/C 3　支払条件の変更と D/P 4　支払条件の変更と D/A 5　信用状（L/C）開設の督促（一） 6　信用状（L/C）開設の督促（二） 7　信用状の期限延長の要請（一） 8　信用状の期限延長の要請（二） 9　船積通知と B/L 10　インシュランス（保険）と A/R、W/A、F.P.A. 11　クレーム（品質苦情）の申し立て 12　クレームへの回答 13　実習とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
・毎回配布するプリント	・出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が６０点以上で単位取得。

	中国語演習　（ビジネス中国語会話 a）　（木 4）	担当者	吉田　桂子

講義目的、講義概要	授業計画
躍進する中国経済を背景に日本企業の積極的な中国進出が続く中、中国語で直接コミュニケーションができ、且つ中国社会や現地の商習慣を理解し得る人材が今、あらゆる分野で求められています。 本講では、日中間のビジネス分野で使われる基本的なビジネス会話を中心に、聞いて話せる能力の習得を目指します。同時に、様々なビジネス分野の専門用語や、ビジネス業務をスムーズに遂行するためのビジネスマナーも併せて学習します。また、実際の日中貿易業務の一端に触れることにより、「ビジネス業務」全般の基礎知識の習得も目指します。 実際の授業では、毎回全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めます。理解をより深める為、中国語演習木曜 3 限「中国語ビジネス文書 a」の同時受講と、春/秋通年履修を薦めます。	1　商談の基礎/アポイントメントの取得(一) 2　アポイントメントの取得(二) 3　引き合いの連絡(一) 4　引き合いの連絡(二) 5　オッファーを提示する(一) 6　オッファーを提示する(二) 7　商品及びメーカを紹介する(一) 8　商品及びメーカを紹介する(二) 9　カウンタービットの連絡 10　コミッションに関する話し合い 11　オーダーを確認する 12　実習とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
・『実習ビジネス中国語―商談編』白水社	・出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が６０点以上で単位取得。

	中国語演習（ビジネス中国語会話 b）（木 4）	担当者	吉田　桂子

講義目的、講義概要	授業計画
躍進する中国経済を背景に日本企業の積極的な中国進出が続く中、中国語で直接コミュニケーションができ、且つ中国社会や現地の商習慣を理解し得る人材が今、あらゆる分野で求められています。 本講では、日中間のビジネス分野で使われる基本的なビジネス会話を中心に、聞いて話せる能力の習得と定着を目指します。同時に、様々なビジネス分野の専門用語や、ビジネス業務をスムーズに遂行するためのビジネスマナーも併せて学習します。また、実際の日中貿易業務の一端に触れることにより、「ビジネス業務」全般の基礎知識の習得も目指します。 実際の授業では、毎回全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めます。理解をより深める為、中国語演習木曜 3 限「中国語ビジネス文書ｂ」の同時受講を薦めます。	1　支払条件を取り決める(一) 2　支払条件を取り決める(二) 3　船積み期日に関する話し合い(一) 4　船積み期日に関する話し合い(二) 5　パッキング条件を話し合う(一) 6　パッキング条件を話し合う(二) 7　インシュランス（保険）の取り扱い(一) 8　インシュランス（保険）の取り扱い(二) 10　クレームを申し立てる(一) 11　クレームを申し立てる(二) 12　契約を締結する 13　実習とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
・『実習ビジネス中国語―商談編』白水社	・出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が６０点以上で単位取得。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	日本思想史ｂ	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
【目標】 下記の諸点を目標とする。 １．思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。 ２．近世の思想についての概略を理解する。 ３．現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。 ４．「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考える。 【概要】 １．東洋思想史の一部を含め、一般的かつ包括的に日本の歴史を扱う。古代から近世に至る長大な期間について、どのように思想を発展させてきたのかを、日本史の中に大きく位置づけながら、講義する。 ２．理解が難しい儒学（朱子学等）については、特に時間をとって詳しく講義し、学生の間でも資料に基づきながら討論してもらう。 ３．その上で、ほぼ時系列に沿った形で、日本の思想の歴史について、社会構造との関連に注意しながら講義する。	１　「日本」の「思想」について ２　儒学について ３　性善説・性悪説等について（討論） ４　朱子学について１ ５　朱子学について２ ６　近世思想史概観／見取り図作成 ７　近世の思想（貝原益軒『大疑録』を読む） ／気の思想についてレポート ８　近世の思想（武士道について１） ９　近世の思想（武士道について２） 10　幕末維新期の思想（民衆の思想） 11　近世から近代へ 12　近代思想史概観

テキスト、参考文献	評価方法
配付するプリント類による。	最終レポートおよび、適宜課すレポート、感想文などを勘案する。

	日本文化・芸能論 a	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて文化である。 日本という文化単位は、主にその歴史的・地理的要因から種々様々な文化を持ち、その中には他国の文化と共通するものもあれば、他に見られない独特なものもある。それらを一望するのは難しいことであるが、本講義は映像資料を多用しながら、芸能という側面から日本文化全体を貫く価値観・ものの考え方を見ていく。なぜなら、芸能は物の形としては残らないが、その振る舞いは文化の根底に潜む無意識や、行動の構造をよく示しているからである。 春学期は日本という文化の中で人々が「目に見えない存在」とどう対峙してきたかを、「神」と「米」を手掛かりに探るのがテーマである。 なお、６～７月に歌舞伎の鑑賞（参加費 1500 円程度）を行う。	1　オリエンテーション・導入 日本とは？文化とは？ 2　日本文化の「来し方」 複合重層性と「見えないもの」に対する意識 3　神の出現と芸能① 春日若宮のおん祭 4　神の出現と芸能② 八重山の祭と芸能Ⅰ 5　神の出現と芸能③ 八重山の祭と芸能Ⅱ 6　神の出現と芸能④ 岩手県の鹿踊・剣舞 7　神の出現と芸能⑤ 「自然」と「神」、「魂」と「力」の問題 8　田植の習俗と芸能① 中国地方の花田植 9　田植の習俗と芸能② 東北の田植踊りⅠ 10　田植の習俗と芸能③ 東北の田植踊りⅡ 11　田植の習俗と芸能④ 能登のアエノコト 12　まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
教室でその都度指示する	数回実施する小レポート、学期末試験もしくはレポートの成績

	日本文化・芸能論 b	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて文化である。 日本という文化単位は、主にその歴史的・地理的要因から種々様々な文化を持ち、その中には他国の文化と共通するものもあれば、他に見られない独特なものもある。それらを一望するのは難しいことであるが、本講義は映像資料を多用しながら、芸能という側面から日本文化全体を貫く価値観・ものの考え方を見ていく。なぜなら、芸能は物の形としては残らないが、その振る舞いは文化の根底に潜む無意識や、行動の構造をよく示しているからである。 秋学期は日本という文化の中で「語り」がどう機能してきたか、「歴史」と「恋」を題材に考えていくのがテーマである。 なお 11～12 月に落語･能または文楽の鑑賞（参加費 2000 円程度）を行う。	1　オリエンテーション・導入 日本とは？文化とは？ 2　日本文化の複合重層性と「歴史」･「恋」 3　日本文化における「語り」 「話し」と「語り」、語られる「歴史」「恋」、 4　芸能における「歴史」の表現① 語り…狂言 5　芸能における「歴史」の表現② 語り…落語 6　芸能における「歴史」の表現③ 語り…節談説教 7　日本文化における「恋」の諸相① 神話と歌…「乞ひ」「孤悲」「恋」「恋愛」 8　日本文化における「恋」の諸相② 仏教・儒教・武士・キリスト教 9　日本文化における「恋」の諸相③ 愛執・男色 10　日本文化における「恋」の諸相④ 恋愛の観念 11　日本文化における人間関係と「語り」 個人の対峙・集団の対峙・過去と現在の対峙 12　まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
教室でその都度指示する	数回実施する小レポート、学期末試験もしくはレポートの成績

	日本近現代史 a	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと思っているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問いへの答えをみると、日本人のこの戦争への認識が浮かび上がってくる。戦後 60 年を越えた今日でも、首相の靖国神社参拝にもみられるように、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。春は、現代との関わりを意識しながらこの戦争をとらえることを中心課題とする。 そのために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。そうして、教育や社会の状況も含めてこの戦争の全体像を考えてみたい。	1　8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2　真珠湾からか、コタバルからか 3　被害の問題①―空襲は何を示すか 4　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5　加害の問題①―731 部隊とは何か 6　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 7　加害の問題③―強制連行と従軍慰安婦 8　兵士と民衆①―日本軍隊の特徴をみる 10　兵士と民衆②―教育でどう兵士が育てられたか 11　兵士と民衆③―荷担と抵抗をめぐって 12　まとめとして―戦争の全体像を考える
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出欠等による平常点をいくらか加味する予定

	日本近現代史 b	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
「15 年戦争」は、戦後 60 年を越えた今日でも、日本と中国、韓国の間で問題になっているように、日本の社会に大きな課題を残している。そこには、戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、ということがからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が賠償問題や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今もなお、中国や韓国・朝鮮の人々から戦後補償が求められる背景には、この戦後の歴史がある。 秋は、戦後の出来事を取り上げて、戦争の実相もふり返りながら、日本の政府が、また民衆が、この戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。	1　沖縄戦が私たちに投げかけたこと 2　本土決戦と日本の戦争の終わり方 3　日本国憲法はどう生まれたか 4　サンフランシスコ講和のもった問題 5　内外での補償・賠償をめぐって 6　日本とドイツの戦後補償 4　東京裁判をめぐって 7　日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 8　日中国交回復への道のり 9　「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 10　アジアの民衆からの戦後補償要求 11　戦後 50 年の国会決議をめぐって 12　過去の戦争と現代の戦争
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出席点等による平常点をいくらか加味する予定

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本文学	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
文学（言語芸術作品）とは、本来読んであるいは聴いて楽しめればそれでいいものである。むろん楽しみ方には色々な道があろうが、文学が表現される時、その楽しみ方があらかじめ指示されているわけではない。 むろん、時代や社会の状況に応じて表現の意図には制約があったはずだが、我々がそれを受け止める時に、個人で楽しむ分にはなんら気にする必要はない。であるならば、なぜ大学の講義で文学を取り上げなければならないのか？ その目的の一つは、様々な文学を受け止めることによって言語表現を豊かにするために、その方法を獲得することである。もう一つは文学がどう表現されたかを理解することで、文化の生成の有り様を理解することである。本講義の力点は後者にある。 今年度は日本文学の特徴の一つである「恋」の諸相をウタと物語の文学史の中から拾い上げていく。 必要に応じて薄目の文庫本の購入を指示し、諸君に読破を要求することになる。	1　オリエンテーション・導入 日本文学とは何か？日本文学の時代 2　ウタの「恋」① 古典和歌（万葉・古今・新古今の短歌から） 3　ウタの「恋」② 中世歌謡（梁塵秘抄・閑吟集） 4　ウタの「恋」③ 近世語り物（御伽草子・浄瑠璃） 5　ウタの「恋」④ 近代短歌（女流歌人を中心に） 6　ウタの「恋」⑤ 現代の短歌（女流歌人を中心に） 7　物語・日記の「恋」① 古事記・日本書紀 8　物語・日記の「恋」② 中古文学（源氏物語・和泉式部日記） 9　近代文学の「恋」① 鴎外・透谷 10　近代文学の「恋」② 一葉・鉄幹 11　現代文学の「恋」 セカチュー、その他 12　まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
教室でプリントを配布、または購入を指示	数回の小レポートと学期末の試験、もしくは学期末のレポート

	日本経済論 a	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。 なお、本講義は内容上、春期・秋期を通して聴講するのが望ましい。	1．はじめに 2．戦後民主化政策と経済改革 3．戦後経済復興対策 4．ドッジ・ラインとシャウプ勧告 5．朝鮮戦争と日本経済 6．高度成長時代の到来 7．高度成長の構造 8．高度成長の精神的土台 9．高度成長の時代背景 10. 高度成長の終焉(1)　ドル・ショック 11. 高度成長の終焉(2)　オイル・ショック 12. 日本経済の構造転換
テキスト、参考文献	**評価方法**
主に統計表などのプリントを配布。	学期末試験の結果（通年講義は春期・秋期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。

	日本経済論 b	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
1970 年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく変化し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえつつ、70 年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた 10 年」について論述し、そのうえで近年たたかわされた日本経済再建論議の当否と小泉内閣の構造改革の位置づけを試みたい。 なお、本講義は内容上、春期・秋期を通して聴講するのが望ましい。	1．スタグフレーションとその原因 2．レーガノミクスとアメリカ経済 3．プラザ合意後の経済変化 4．バブル経済の発生とその原因 5．バブル経済の崩壊 6．平成不況の特徴　―複合不況― 7．「失われた 10 年」とその意味 8．景気対策か構造改革か(1) 9．景気対策か構造改革か(2) 10. 小泉内閣の構造改革を問う(1) 11. 小泉内閣の構造改革を問う(2) 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春期と同じ。	春期と同じ。

	日本政治外交史 a	担当者	福永　文夫

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると言えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。 日本政治外交史では、隔年で戦前と戦後の政治史を講義している。本年は、戦前日本の政治と外交を論ずることで、この国の越し方を考えてみたい。 春学期は、西洋の衝撃を受けて開国を余儀なくされた日本が近代国家としてどのような道を歩んできたかを講義する。そこでは、どのような政治外交路線があり、ここの選択がいかなるかたちでなされてきたかを探る。	1. はじめに－近代日本の基本問題－ 2. 西洋の衝撃と開国 3. 明治維新（1） 4. 明治 6 年の政変―内治優先主義 5. 明治憲法体制の成立（1） 6. 明治憲法体制の成立（2） 7. 東アジアの国際環境 8. 大陸政策の形成 9. 大陸国家への道（1）―日清戦争― 10. 大陸国家への道（2）―日露戦争― 11. 日露戦後の日本の政治と外交 12. おわりに
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に定めないが、講義中に必要に応じて参考文献を指示する。ノートを確実にとり、復習することが望ましい。	平常試験（50 点）と学期末に行う定期試験（50 点）によって判定する。詳細については講義中に指示する。

	日本政治外交史 b	担当者	福永　文夫

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると言えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。 日本政治外交史は隔年で戦前と戦後の政治史を講義している。本年は、戦前日本の政治と外交を論ずることで、この国の越し方を考えてみたい。 秋学期は、日清・日露戦争を経て、植民地化の危機から脱し、第 1 次世界大戦を経て、敗戦に至る過程を講義する。そこでは、どのような政治外交路線があり、いかなるかたちで選択されてきたかを探る。同時に、近代日本の歩みが示した功罪について考えてみたい。	1. はじめに 2.「藩閥支配」から政党政治へ（1） 3.「藩閥支配」から政党政治へ（2） 4. 第 1 次世界大戦と日本外交（1） 5. 第 1 次世界大戦と日本外交（2） 6. ワシントン体制と日本（1） 7. ワシントン体制と日本（2） 8. 政党政治の展開（1） 9. 政党政治の展開（2） 10. ワシントン体制の崩壊―満州事変― 11. 軍部の時代－「帝国」の破局－ 12. おわりに
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に定めないが、講義中に必要に応じて参考文献を指示する。ノートを確実にとり、復習することが望ましい。	平常試験（50 点）と学期末に行う定期試験（50 点）によって判定する。詳細については講義中に指示する。

	日本研究特殊講義(能楽論)	担当者	瀬尾　菊次

講義目的、講義概要	授業計画
中世に誕生した「能楽」は、舞台芸術として現代に生き上演されていますが、古典芸能として、とかく難しく捉えられがちです。 この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点からビデオ鑑賞・仮設舞台での実演などを交えて、平易に解明していきます。 能楽の実際を知るため能楽堂での鑑賞を実地します。	①　古典芸能としての能楽 ②　能楽の概説 ③　能楽のながれ ④　能楽を演じる各役 ⑤　能舞台について ⑥　能の演技について（実演） ⑦　能の演目について Ⅰ ⑧　能の演目について Ⅱ（実演） ⑨　伊勢物語と能（夢幻能と現在能） ⑩　現在能「角田川」の解釈と鑑賞 ⑪　夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 ⑫　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート

	日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾　菊次

講義目的、講義概要	授業計画
古典芸能「能」は、日本歴史の出来事を題材として、いろいろな曲目が作られており、中世の武士（もののふ）の様々な生き方が投影されています。 今回は、日本三大仇討の一つとされている曽我兄弟の富士の裾野での仇討を描いた「曽我物語」からドラマ化された曲を選び、事件の経過を追うとともに、どのように能として作品化されているか解釈していきます。 能楽についての知識・鑑賞法なども併せて解説していきます。 「能楽」への理解度を深めるために、春期から続いての受講も可能です。 能楽の実際を知るため、能楽堂での鑑賞を実施します。	①　能楽の紹介 ②　「曽我物語」について ③　東映映画「富士の夜襲」鑑賞 ④　能「調伏曽我」の解釈と鑑賞 Ⅰ ⑤　能「調伏曽我」の解釈と鑑賞 Ⅱ ⑥　能「小袖曽我」の解釈と鑑賞 Ⅰ ⑦　能「小袖曽我」の解釈と鑑賞 Ⅱ ⑧　能「夜討曽我」の解釈と鑑賞 Ⅰ ⑨　能「夜討曽我」の解釈と鑑賞 Ⅱ ⑩　歌舞伎と「曽我物語」 ⑪　能の実技の実際（実演） ⑫　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート

	日本語文法論 a	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 日本語教育のための文法をあつかう。ここで対象とする文法とは，いわゆる「文」をつくりだすための規則のセットとしての文型文法である。この文法は，日本語学習者が，初級段階の学習において，対象とする学習項目である。学習者の初級段階での目標は，この文法を獲得することによって，「文」をつくりだせるようになることである。 本講義では，そうした意味をもつ文法について，日本語の教師として必要な知識を獲得することを目的とする。 この日本語文法論 a では，文型文法の前半として，動詞の活用・動詞と名詞の結合・ヴォイス・アスペクト・修飾をとりあげる。 〔講義概要〕 講義資料は，毎回の授業後に次回分が掲示される。それを，毎回，授業前によんでくることが要求される。授業は２回を１セットとし，最初の回では，例文集と課題からなる資料をよんでかんがえたことをクラスで議論し，発表する。つぎの回では，解説となる資料をよんで，不明な点を質問する。	第 １ 回　文法とはなにか 第 ２ 回　動詞の活用（１） 第 ３ 回　動詞の活用（２） 第 ４ 回　動詞と名詞の結合（１） 第 ５ 回　動詞と名詞の結合（２） 第 ６ 回　ヴォイス（１） 第 ７ 回　ヴォイス（２） 第 ８ 回　アスペクト（１） 第 ９ 回　アスペクト（２） 第１０回　修飾（１） 第１１回　修飾（２） 第１２回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。	期末試験をおこなうほかに，適宜，授業内で小テストをおこなう。また，出席をきびしく要求する。

	日本語文法論 b	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 講義の目的などについては，日本語文法論 a に準ずる。当該の項を参照のこと。なお，日本語文法論は，春学期の a と秋学期の b をあわせて全体となるように計画されているが，a と b を連続して受講しなければならないものではなく，この講義は，日本語文法論 a の履修を前提とするものではない。 この日本語文法論 b では，文型文法の後半として，疑問・時制・モダリティ・「のだ」をあつかうとともに，複文の文法もとりあげる。 〔講義概要〕 講義の方法などについては，日本語文法論 a に準ずる。当該の項を参照のこと。	第 １ 回　疑問と平叙（１） 第 ２ 回　疑問と平叙（２） 第 ３ 回　時制（１） 第 ４ 回　時制（２） 第 ５ 回　モダリティ（１） 第 ６ 回　モダリティ（２） 第 ７ 回　「のだ」（１） 第 ８ 回　「のだ」（２） 第 ９ 回　並列節と副詞節（１） 第１０回　並列節と副詞節（２） 第１１回　連体節（１） 第１２回　連体節（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。	期末試験をおこなうほかに，適宜，授業内で小テストをおこなう。また，出席をきびしく要求する。

	日本語音声学 a	担当者	猪塚　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，日本語を話しているときに，自分たちがどのような発音をしているのかを観察し，分析し，客観的に捉えられるようになることを目的とする。 そのために，生理学的観察を中心として，発声や調音のメカニズムから始め，世界の言語音を表記する記号体系，IPA に基づき，さまざまな調音の方法を習得する。この際，単なる記号と名称の暗記にとどまるのではなく，実際に自分の口を用い，日本語の発音を分析する際に必要となる，基本音を自由に発音できるようになることが必要不可欠である。 したがって，授業中には、ただ講義を聞いているだけではなく，自ら口を動かして発音練習をし，耳をそばだてて発音を聞き取る必要がある。そのため，授業への積極的な参加が求められ，またそれも評価の対象のひとつとする。 原則的に出席すべき回数の 80%以上出席し，中間試験を受験した者にのみ，定期試験を受ける権利を与える。原則的に遅刻は時間の多少にかかわらず，2 分の 1 回の欠席とする。 その日に行った授業の内容および連絡事項は，すべて HP（http://daigotorena.moo.jp/dokkyo/）に掲載されている。万が一，欠席した場合は，HP をチェックし，その日に行われた分は自習して，翌週に臨まなければならない。	1. ガイダンス，言語音を作るしくみ 2. 母音の分類 3. 子音の調音点・調音法（1） 4. 子音の調音点・調音法（2） 5. 子音の分類（1） 6. 子音の分類（2） 7. 中間試験 8. 音声と音韻，拍と音節 9. 五十音図とその発音（1） 10. 五十音図とその発音（2） 11. 特殊音素 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
猪塚恵美子・猪塚元著『日本語の音声入門』バベル・プレス，2003 年.	評価方法：中間試験 30%，期末定期試験 50%，授業時の参加態度 20%（教室内に存在しているだけでは評価しない）

	日本語音声学 b	担当者	猪塚　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，日本語を話しているときに，自分たちがどのような発音をしているのかを観察し，分析し，客観的に捉えられるようになることを目的とする。 単音が連なったときに，どんな現象が起こり，またその現象がどのように引き起こされるのかを見ていく。その際，そうした現象を単に知識として暗記するのではなく，実際に自分の口を用い，自由に現象を再現させられることが必要不可欠である。 したがって，授業中には、ただ講義を聞いているだけではなく，自ら口を動かして発音練習をし，耳をそばだてて発音を聞き取る必要がある。そのため，授業への積極的な参加が求められ，またそれも評価の対象のひとつとする。 原則的に出席すべき回数の 80%以上出席し，中間試験を受験した者にのみ，定期試験を受ける権利を与える。原則的に遅刻は時間の多少にかかわらず，2 分の 1 回の欠席とする。 その日に行った授業の内容および連絡事項は，すべて HP（http://daigotorena.moo.jp/dokkyo/）に掲載されている。万が一，欠席した場合は，HP をチェックし，その日に行われた分は自習して，翌週に臨まなければならない。 「日本語音声学 a」を受講していることを推奨する。	1. 日本語の母音・子音の発音（復習） 2. 音声と音韻，特殊音素 3. 環境による音声変化 4. アクセント（1） 5. アクセント（2） 6. アクセント（3） 7. 中間試験 8. リズム 9. イントネーション（1） 10. イントネーション（2） 11. イントネーション（3） 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
猪塚恵美子・猪塚元著『日本語の音声入門』バベル・プレス，2003 年．そのほか，適宜，プリントを配布する。	評価方法：中間試験 30%，期末定期試験 50%，授業時の参加態度 20%（教室内に存在しているだけでは評価しない）

	対照言語学ａ	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
第二言語習得の理論を概観した後、日本語と他言語との共時的な比較対照及び誤用分析の方法を学ぶ。対照によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかもあわせて検討する。日本語教育への応用という観点からは、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討したい。また、日本語と他言語の比較対照を通じ、日本人が好む表現形式、表現意図、しいては精神文化も垣間見ることが出来ると考える。 具体的なクラス運営 ① クラスの形態は講義と演習（学生による誤用分析）を中心とする。 ② 比較対照を行う演習形式をとる。日本語と英語の翻訳文を資料とし、語順、コソアドなどの文法項目について検討する。 ③ 後期には講義と学生による課題発表を中心としたい。比較対照の課題遂行にあたっては､言語は英語に限定せず、自由に選べることとする。	１．オリエンテーション- 対照研究とは？ 誤用分析とは？ 言語類型論と対照研究 言語習得概論 ２．音のしくみ ３．語順 ４．形容詞 ５．指示代名詞　ーコソアド ６．人称代名詞 ７．動詞 ８．テンスとアスペクト ９．日本語の構造（主題・解説　ｖｓ　主語・述部） １０．ヴォイス １１．授受表現 １２．モダリティー １３．その他､「原因」「理由」（推量）等さまざまな表現 上記の項目は授業で取り上げる予定の項目であり、学生の興味、希望によっては変更される。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献はクラスで紹介する。 テキストは特に指定しないが日英対照のための小説を使用する。基本的にはプリントの配布を中心とする。	①テスト　②課題発表 ③出席率　④クラス態度

	対照言語学ｂ	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ	引き続き、上記の項目について講義＋演習の形で進める。授業形態としては、後期は学生の人数にもよるが、課題発表が中心となる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文文献はクラスで紹介する。 テキストは特に指定しない。基本的にはプリントの配布を中心とする。	①テスト　②課題発表 ③出席率　④クラス態度

	日本語教授法Ｉａ	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
将来、国内あるいは海外で日本語教師として日本語を教えたい、あるいは、ボランティア活動を通じて外国人と関わり、日本語を教えてみたいと考える学生を対象にしたコースである（但し､言語教育という観点からは、他言語の教育にも応用され得る)。 言語教育の基本理念、言語学習及び習得理論を紹介した上で、主要な外国語教授法の理論的背景を概観する。主たる目標は、発話場面や文脈にあった言語運用能力を育成する指導法を考える能力を養うことであり、そのために具体的な教材の紹介、教室活動の展開、文型・文法項目等の指導法を具体的に紹介する。最終的には、各自がそれぞれ実際に教案・教材を作成する、極めて実践的な授業である。 課題研究の発表についてはグループワーク、ペアーワークの形態をとるが、基本的には講義が中心となる。日本語教育の理論と実践の全般にわたるかなり広範囲の内容になる。	１．オリエンテーションとコースデザイン（レディネス分析とニーズ分析 ２．学習理論・言語習得理論 ３．外国教授法の流れ ４．オーティオリンガル　ｖｓ　コミュニカティブ・アプローチ ５．教材・教具論　　＜課題：教科書評価＞ グループ内での報告 ６．技能別指導法 （１）　日本語の音声教育 （２）　聴解指導 （３）　文字指導 上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　①プリント ②『実践日本語教授法』　中西家栄子他 バベル出版　　③その他さまざまな参考文献は授業中に紹介	①課題提出 ②春学期テスト　　③出席率

	日本語教授法Ｉｂ	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ	技能別指導法の続き （４）　読解指導 （５）　作文指導 （６）　文法/文型の指導 （７）　会話指導　＜ドリルの作成＞ ドリル課題　－　グループでの検討 コミュケーション活動の紹介 （８）　文法（文型）の指導　－　導入方法 コミュニカティブ活動の作成 ＜課題：上記活動の作成＞ ７．クラス活動全体の展開 教案の書き方　－　導入からまとめまで クラスマネージメント（例：誤用の訂正方法） ８．＜課題：教案の作成＞とクラス内でのグループ発表 ９．テスト作成法　・　評価・測定 上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	①課題提出（教案の作成、その他） ②秋学期テスト　　③出席率

	日本語教授法Ⅱ	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なう準備教育であり、演習中心の授業である。 〔講義概要〕 毎回、学生による模擬授業となる。日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生になり、その授業を受けながら、授業の進行を客観的に観察する。観察を通じ、各人が教室活動、指導法について具体的に評価・検討する。	1回目 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 ④授業観察の方法 2回目～　担当者による模擬授業
テキスト、参考文献	**評価方法**
『みんなの日本語』（初級用） 『日本語の教え方の秘訣』スリーエーネットワーク	①模擬授業 ②教案の提出 ③レポート（授業観察のまとめと自己分析）④出席によって評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本語教授法Ⅱ	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
外国語としての日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なうための準備教育であり、演習中心の授業である。毎回、学生による模擬授業となる。模擬授業の担当者はまず教案を１週間前に教員に提出し、授業の準備を行う。模擬授業担当以外の学生は、仮の日本語学習者となり、その授業に参加する。同時に、学習者は授業の進行を客観的に観察し、担当者の行う教室活動、指導法を検討・評価して、観察シートに書き込む。一方、模擬授業担当者は自分の授業をビデオ録音し、授業後、自分の授業を見て、さらに自己評価を行う。最後に、自己評価および他者からの観察シートをまとめ、自己分析に基づいて、レポートを提出する。 登録者数によって変わるが、各自、少なくとも２回程度の模擬授業を行うことになる。	１回目　①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方　ー　復習 ④動詞の活用と分類　ー　復習 ⑤ドリル作成　ー　復習 ⑥授業観察の方法 ２回目以降 ①　担当者による模擬授業 授業担当者は１回につき２名。 ３０分の模擬授業と１５分の質疑応答。
テキスト、参考文献	**評価方法**
初級：『みんなの日本語』を中心に 参考文献：①「日本語の教え方の秘訣」スリーエーネットワーク　②「中・上級を教える人のための日本語文法ハンドブック」スリーエーネットワーク	①模擬授業　　②教案の提出　　③レポート（授業観察のまとめと自己分析）④出席

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本語教授法Ⅱ	担当者	松浦　恵津子

講義目的、講義概要	授業計画
日本語を外国語として教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行うための準備教育で、演習中心の授業である。 毎回、学生による模擬授業を行う。日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生役あるいは観察者となる。各人が教室活動や指導法について具体的に評価・検討し、授業の改善を目指す。 模擬授業は、毎回３人（３組)、全体を通して少なくとも１人２～３回は行う。	１回目　①オリエンテーション ②初級の学習項目 ③１つの授業の流れ ④教材・教具について ⑤教案の書き方（確認） ⑥授業観察の方法 ⑦スケジュール決め ２回目以降　担当者による模擬授業 ２回目から模擬授業を行うので、そのつもりで参加してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
初級テキスト『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ』（スリーエーネットワーク）を中心に 参考文献：『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ教え方の手引き』	①模擬授業の準備と実践　　②教案の提出 ③レポート（授業観察のまとめと自己分析） ④出席

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

（秋）開講	日本語学ａ	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、第二言語としての日本語の(文法)習得研究とそのための日本語教材の分析を中心に進める。学習者の言語習得過程あるいは習得の難易度を論文等の文献に基づき検討し、一定の法則があるのか、あるとすれば、その構成概念を探り、まとめていく。その上で、教材開発を行う場合、どのような順序・方法で学習項目を提示し、指導すれば日本語でのコミュニケーション能力を促進することが可能になるかを検討していきたい。 最終的には、明らかになった構成概念に基づいて特定の文法項目を一つ選択し、教材を作成することが課題となる。 具体的な授業活動としては教師による論述だけではなく、学習者間のディスカッション(検討)が重視されるため、指定された教科書のページをきちんと読んでくることが求められる。	1．コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図 2．機能シラバス 3．コミュニケーションに役立つ日本語教育文法 4．日本語学的文法から独立した日本語教育文法 5．学習者の習得を考慮した日本語教育文法 6．学習者の母語を考慮した日本語教育文法 7．コミュニケーション能力を高める日本語教育文法 8．聞くための日本語教育文法 9．話すための日本語教育文法 11．読むための日本語教育文法 12．書くための日本語教育文法

テキスト、参考文献	評価方法
①テキスト 「コミュニケーションのための日本語教育文法」 野田尚史編　　くろしお出版 ②参考文献 「日本語学習者の文法習得」野田尚史、他　大修館書店 「みんなの日本語」スリーエーネットワーク ③その他：論文のプリント（クラスで配布）	①　課題の提出 ②　出席率　（クラス活動への参加） ③　テスト（論述式）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本語学ｂ	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 日本語教育のための談話論をあつかう。初級の日本語学習が，いわゆる「文」を作り出すことのできる規則を，文型として獲得することを目標とするとすれば，中級の日本語学習は，複数の文からなる談話を構成することのできる能力の獲得を目標とすると考えることができる。この授業では，日本語の談話に，一定の構造を考えることによって，学習対象としての談話能力にある程度明確な輪郭を与えることを目標とする。 なお，日本語学ａとは内容的に連続するものではなく，その履修を前提としない。 〔講義概要〕 あつかう対象は，指示・省略・主題・連結・引用などであり，右欄の計画にそって進行する。受講者は，毎回の授業前に，該当する資料をよんでくることが要求される。授業は，受講者からの質問とそれに対する回答の形式ですすめる。なお，ここで要求している「質問」は，むずかしいものではない。資料中の理解できない箇所について，より詳細な説明をもとめるものでよい。積極的な参加を期待する。	第１回　談話とはなにか，中上級教育と談話論 第２回　指示と「こそあど」指示詞 第３回　省略と代名詞 第４回　「ハ」主題（１） 第５回　「ハ」主題（２） 第６回　連結・接続と接続詞，副詞 第７回　引用 第８回　語用論的意味 第９回　言語行為的意味 第１０回　ターンテイキングその他談話構成行為 第１１回　談話の構造 第１２回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。	期末試験をおこなう。また，出席をきびしく要求する。

	日本語教育論	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
将来、日本語教師を目指す人への授業と限定するのではなく、外国語としての日本語・日本語教育の環境と現状、語学教育全般、等にわたって広く興味を持っている学生のためのものである。日本語教師養成課程を履修する人にとっては、教授法Ｉとある程度の重なりがあるが、具体的な教育・指導について学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでほしい。 １．日本語教育と国語教育の違いを知る。 ２．世界の中における日本語教育の現状を知る。 ３．日本語を外国語として概観する。 ４．日本語の基本的な仕組みを知る。 ５．日本語を外国人に教える、とはどういうことかを知る。 授業では様々な授業形態のビデオを見ることによって、実際に日本語教育のイメージをつかんでいく。	1)　オリエンテーション　ー　日本語教育の現場を見る　（ビデオ） 2)　日本語教育とは？　日本語教育と国語教育の違について 3)　世界における日本語教育 4)　日本語教育の歴史と現状 5)　第一言語習得　対　第二言語習得 6)　外国語教授法－直接法 オーディオリンガル コミュニカティブ･アプローチ 7)　コースデザインとシラバス 8)　シラバス 9)　日本語能力の認定　ー　日本語能力をどのように捉えるのか 10)　日本語のしくみとその指導のポイント 音声 文字・表記 日本語の文法 語彙・意味 11)　日本語教育の実際　ー　教室活動 上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：　①プリント 参考文献：　②『ここからはじまる日本語教育』姫野昌子他、ひつじ書房	期末定期試験

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	自然言語処理 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然」言語といます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とします。 本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説します。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学びます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行います。	1　言葉とコンピュータ　自然言語処理の諸方面 2　自然言語処理の問題点　各種の曖昧性 3　自然言語処理の予備知識 4　形態素解析（1）　形態素解析の原理と方法 5　形態素解析（2）　日本語と英語の形態素解析実験 6　単語処理　単語の同定、単語の統計処理 7　構文解析（1）　文脈自由文法､句構造文法 構文解析システムの原理 8　構文解析（2）　構文解析の原理と実験 9　言語処理の知識源（1） 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出 10　言語処理の知識源（2） コーパス、言語データベースの構造と使い方 11　言語の統計処理 コーバスからさまざまな知識の抽出技術 12　総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
（1）　最初の講義で指示します。 （2）　必要な資料を配布します。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

	自然言語処理 b	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とします。 本講義では、自然言語処理の基礎理論だけではなく、世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介します。特に、自動要約システム、機械翻訳システム、文書校正支援システム、自然言語対話システムなどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行います。そして、現在の自然言語処理システムの問題点などを議論します。	1　意味論：　自然言語の意味論、フレーム理論 2　意味解析：　意味解析の方法と実験 3　文脈解析：　談話構造、照応問題の対処法 4　知識の表現法 5　文書処理（1）　文章の校正・推敲支援 6　文書処理（2） 自動要約の原理、換言処理、要約システム構造 7　機械翻訳（1）　機械翻訳の処理方式と原理 8　機械翻訳（2）　機械翻訳システムの使用と評価 9　大規模データ資源から知識の抽出の技法 10　情報検索における言語処理技術 11　これからの自然言語処理 12　総合演習とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（1）　最初の講義で指示します。 （2）　必要な資料を配布します。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

	プログラミング論 a(プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。 初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual　Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつのプログラムの設計について講義および実習を行う。	1　授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2　プログラミング言語の発展史 3　開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4　Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5　簡単なプログラムの作成 基本なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認する 6　イベント駆動型プログラム 7　文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8　選択構造をもつプログラム（1） 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9　選択構造をもつプログラム（2） 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10　繰り返しあるプログラムの作成（1） 回数指定による繰り返し、For～Next 文 11　繰り返しあるプログラムの作成（2） 条件指定による繰り返し 12　総合練習 綜合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（1）最初の講義で指示する。 （2）随時必要な資料を指示する。	定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。

	プログラミング論 b(プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、上記「プログラミング論 a」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り替えプログラミングの技能を身に付くことを目的とする。 ここでは、Visual　Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。	1　プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2　配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3　文字列の処理プログラム（1） 簡単な翻訳プログラムの作成 4　文字列の処理プログラム（2） 文字列の照合と置き換え 5　図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6　文字列の表示 7　画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8　ファイル操作（1） シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9　ファイル操作（2） ランダムファイルとランダムアクセス 10　応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11　再帰というプログラミング手法 12　総合練習 綜合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時必要な資料を指示する。	定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。

	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	加藤　尚吾

講義目的、講義概要	授業計画
Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic.NET をプログラミング言語としてとりあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解することを目的とする。また、同時に実際にプログラミングをどうのようにすればよいかを理解することを目的とする。 基本的な命令から、その組み合わせまでを、例をあげて講義する。その後、ひとつひとつの命令に関して実際に Visual Basic.NET でプログラミングの演習を行う。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。	1. 授業のガイダンスとコンピュータ概説 : ソフトウェアの概略とコンピュータの構成 2. Visual Basic.NET の概略 : イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ 3. 簡単なプログラム作成（1）: アプリケーション開発手順、文字の入出力 4. 簡単なプログラム作成（2）: 四則演算 5. 簡単なプログラム作成（3）: キャッシュレジスター 6. 選択のあるプログラム作成（1）: アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 7. 選択のあるプログラム作成（2）: 多くの選択のあるプログラムの処理 8. 選択のあるプログラム作成（3）: オプションボタン、チェックボタンの利用 9. 選択のあるプログラム作成（4）: リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 10. 繰り返しのあるプログラム作成（1）: If と Go To、For Next を用いた繰り返し 11. 繰り返しのあるプログラム作成（2）: Case 文、While 文 12. 総合問題作成 : いろいろなコントロールを用いて問題を作成する
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著 : 実習－Visual Basic.NET、サイエンス社	出席、演習課題、レポート、試験で、総合的に評価する。

	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	加藤　尚吾

講義目的、講義概要	授業計画
プログラム論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目標とする。画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成することを目的とする。 本講義では、プログラム論 a と同様に、Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic.NET をプログラミング言語としてとりあげる。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。	1. 図形の処理（1）: 直線を描く、曲線を描く 2. 図形の処理（2）: 円を描く、色を塗る 3. 図形の処理（3）: Windows の画像処理、タイマーの利用、 4. 図形の処理（4）: ドラッグアンドドロップの利用 5. 音声、動画の処理 : 音声を録音する、音声を再生する 6. 配列とコントロール配列 : 一元配列、コントロール配列の利用 7. プルダウンメニュー : コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8. ファイルの利用（1）: テキストファイルの読み込み 9. ファイルの利用（2）: 画像ファイルの読み込み 10. ファイルの利用（3）: シーケンスファイルの作成 11. ファイルの利用（4）: シーケンスファイルの読み込みと利用 12. インターネットの利用 : Visual Basic.NET とホームページとのリンク
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著 : 実習－Visual Basic.NET、サイエンス社	出席、演習課題、レポート、試験で、総合的に評価する。

	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。 そのために、Windows の機能をフルに活用できくるオブジェクト記述型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プロブラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。 基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの１つ１つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1 週間に 1 度の課題ネットワークファイル上に提出する。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の最初に、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。また、同じクラスの人たちの作ったプログラムも紹介する。	1　授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 2　Visual Basic.NET の概略:講義と実習 3　文字の表示：講義と実習 4　簡単な計算：講義と実習 5　関数の利用：講義と実習 6　飛び越し命令：講義と実習 7　条件判断による分岐：実習 8　コントロールによる分岐：実習 9　選択用コントロールによる分岐：実習 リストボックス、チェックボックスの利用 10 回数指定による繰り返し：講義と実習 If と Go To、 For Next を用いた繰り返し 11 条件指定による繰り返し：講義と実習 Case 文、While 文、Loop 文 12 総合問題作成：実習 いろいろなオブジェクトを用いて問題を作成する
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習―Visual Basic.NET、サイエンス社	出席 20%、リポート 40%、試験 40%

	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のリポートとする。	1　プログラムの分割：講義と実習 2　プログラムの構造化：講義と実習 3　配列の処理：講義と実習 4　配列の入出力：講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用 5　文字列の処理：講義と実習 6　図形の描画：講義と実習 7　画像の取り扱い：実習 8　ファイル処理と記憶装置：講義と実習 9　シーケンシャルファイルの処理：講義と実習 10 ランダムファイルの処理：講義と実習 11 ファイルダイアログコントロール：講義と実習 12 インターネットの利用：講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習―Visual Basic.NET、サイエンス社	出席 20%、リポート 40%、試験 40%

	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	堀江　郁美

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータープログラミングの基礎を学びます。プログラミング言語としては Java 言語を用います。 コンピュータの仕組・操作や、プログラムを作る際の考え方を学習するところからはじめ、簡単な問題であれば、独力で Java のプログラムが書けるようになることを目指します。 課題として、実際にプログラムを作成してもらい、動作させることにより、講義内容の理解を深めます。	1：ガイダンス：コンピュータの仕組・操作法 Visual J#と Java 言語の関係 2：情報表現 3：プログラムとは、考え方 4：データ型・変数・出力 5：入力、演算、配列 5：式、条件判断・分岐 7：繰り返し(1) 8：繰り返し(2) 9：文字と文字列 10：メソッド(1) 11：メソッド(2) 12：総合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜、必要な資料を提示する。	定期試験、レポートおよび出席を加味して評価する。

	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	堀江　郁美

講義目的、講義概要	授業計画
「プログラミング論 a」で学習したことをベースにして、Java の特徴であるオブジェクト指向に焦点をあてて、オブジェクト指向を用いたプログラムの作成方法を学習します。最終的には、やや難しい問題やオブジェクト指向を用いた問題でも、独力で Java プログラムが書けるようになることを目指します。 課題として、実際にプログラムを作成してもらい、動作させることにより、講義内容の理解を深めます。	1：ガイダンス、オブジェクト指向とは 2：クラスの概要 3：クラスとインスタンス 4：フィールドとローカル変数 5：コンストラクタ 6：継承 (1) 7：継承 (2) 8：メソッドのオーバーライド 9：リスト 10：例外処理とファイル入出力 11：GUI ツールキット 12：総合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜、必要な資料を提示する。	定期試験、レポートおよび出席を加味して評価する。

	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	森　園子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。本講座では、それらのソフトウェアが，どのように開発されているかを理解し、実際にプログラムを組むことを通して，その根本となる論理的な思考，即ちアルゴリズムについて習得する。使用言語は、Visual Basic.Net である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムの作成方法等についても理解する。 **講義概要**：コンピュータの構造を概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の１つである Visual Basic .Net を用いて解説し、演習を行う。さらにインターネットやマルチメディアについても、デモンストレーションを行うと共に、それらのプログラミングについても、自分でテーマを決めて製作する。	1. 授業のガイダンスとコンピュータシステムの概説: ハードウェア及び，システムの構成と概略 2. ソフトウェアの歴史と概略: ソフトウェアの分類、OS、ネットワークの概略 3. プログラム開発手順: PCと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ 4. Visual Basic の概略: イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ等の概略 5. 簡単なプログラム作成(1): アプリケーション開発手順、文字の入出力 6. 簡単なプログラム作成(2): 四則演算、変数のまとめ 7. 選択のあるプログラム作成(1): アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 8. 選択のあるプログラム作成(2): 分岐するプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ 9. 選択のあるプログラム作成(3): オプションボタンの利用、チェックボタンの利用 10. 選択のあるプログラム作成(4): リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用 11. 繰り返しのあるプログラム作成: If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し 12. 総合問題作成:いろいろなコントロールを用いて問題を作成する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
林直治嗣　“実習　VisualBasic.Net”　サイエンス社	前期：リポート：70%　ネットワーク上に提出 定期試験：30%

	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	森　園子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。本講座では、それらのソフトウェアが，どのように開発されているかを理解し、実際にプログラムを組むことを通して，その根本となる論理的な思考，即ちアルゴリズムについて習得する。使用言語は、Visual Basic.Net である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムの作成方法等についても理解する。 **講義概要**：コンピュータが現在どのように使われているかを概説し、最新のソフトウェア開発についてネットワークを用いて紹介する。 さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらのプログラミングについて、イベントドリブン型の言語の１つであるVisual Basic.Net を用いて解説し、演習を行う。また，インターネットやマルチメディアについてもデモンストレーションを行い、それらを踏まえたプログラミングについて講義と演習を行う。 最後に，自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。	1. 図形の処理(1): 講義と実習 コンピュータグラフィックスの基礎 2. 図形の処理(2): 講義と実習　点・直線・円を描く、色を塗る 3. 図形の処理(3): 講義と実習 Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーの利用 4. 図形の処理(4): 講義と実習 マウスイベント及び、ドラッグアンドドロップ操作 5. 音声・動画の処理: 講義と実習 音声の録音と再生、動画再生のデモンストレーション 6. 配列とコントロール配列:講義と実習 一次元配列、コントロール配列、二次元配列 7. プルダウンメニュー:実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8. メニューエディタの利用:実習 メニューエディタの編集と利用、ポップアップメニューの取り扱い 9. ファイルの利用(1):講義と実習 コントロールの利用、シーケンスファイルの利用 10. ファイルの利用(2):講義と実習 ランダムファイルの利用とアクセスファイルの利用: 11. インターネットの利用:講義と自習 Visual Basic.Net とホームページとのリンク 12. まとめ:講義と実習　課題の説明と作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
林直治嗣　“実習　VisualBasic.Net”　サイエンス社	後期：リポート：60%　ネットワーク上に提出 定期試験：40%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	通訳翻訳論	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
・　通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。	1. ガイダンス・翻訳通訳は何のためにあるのか 2. 翻訳と通訳の歴史 3. 翻訳の規範 4. 現代の翻訳論とその課題 5. 翻訳と通訳・共通点と相違点 6. 通訳の歴史、蘭学事始と黒船来港 7. 通訳のプロセス 8. 通訳の仕事・会議、一般、放送など 9. 通訳の仕事・司法通訳、医療通訳 10. 通訳訓練法紹介 11. 通訳の実例研究 12. 通訳者の仕事と生活
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義資料はインターネット上からダウンロードできるようにしておきます。URL は第一回の授業でご案内します。	毎回、ミニ・レポートを書いていただき、それを平常点とします。平常点 50%、期末試験 50%で評価します。

	異文化間コミュニケーション論ａ	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
あなたにとってなにが異文化／自文化か？そう訊ねられたとき、私たちはどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。 本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究、およびその歴史的背景を概観し、現代社会の異文化関係について学ぶ。とくに重要なテーマは、さまざまな文化的差異を意識し、身近な異文化にも目を向けることである。そのうえで、異文化への／からの「まなざし」について、また多文化共生の理想と現実について考えていきたい。これらはきわめて慎重に扱わねばならない難しいテーマであるが、本講義をとおして異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。	１．オリエンテーション ２．異-文化と自-文化 ——あなたにとって「異文化」とは？ ３．異文化間コミュニケーション研究の歴史 ４．コミュニケーションの構造 ——コンテクストとステレオタイプ ５．異文化へのまなざし（１）「日本」の表象 ６．異文化へのまなざし（２）自文化中心主義 ７．内なる異文化（１） ８．内なる異文化（２） ９．マルチカルチュラリズムと異文化共生（１） ——文化的差異の承認をめぐるジレンマ １０．マルチカルチュラリズムと異文化共生（２） ——多文化教育の視点 １１．相互行為分析と異文化研究 ——異-文化と自-文化のあいだ １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社	出席とレポート

	異文化間コミュニケーション論ｂ	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異文化間のコミュニケーションとは、言い換えれば、「他者理解」のことである。本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族共存のモデルケースを紹介する。 複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認め合う社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間で生じる摩擦により、ときに多大な犠牲が払われてきた。 前半では、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀が過ぎ、はたして人種間の対話は進展を見せたのだろうか。アメリカ白人たちのジレンマに目を向け、「他者」受容の困難さに理解を及ぼす。 後半は、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げ、多文化が根を張るこの島社会の共生の核心部分を、日本人移民の同化過程を中心に解説する。	1　モザイク国家アメリカ 2　民族混合のジレンマ 3　奴隷制下の人種共存 4　黒人の地位向上運動 5　共存のパラダイム転換 6　公民権運動の共生理念 7　急進派ブラック・パワーによるコミュニケーションの断絶 8　ロス暴動に見る共存の現実 9　多民族混合社会ハワイ 10　ハワイの経験－多民族の取り込み－ 11　日系、アジア系の同化体験 12　異人種間共生の手がかり
テキスト、参考文献	**評価方法**
『アメリカ黒人の歴史』本田創造　岩波新書 『キング牧師とマルコムX』上坂昇　講談社現代新書 『ハワイの日本人移民』山本英政　明石書店	学期末試験

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	マスコミュニケーション論ｂ	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
現代の情報とメディアについて多角的に考える。取り上げる対象は、新聞、テレビ、出版（書籍)、インターネット、広告媒体など。 新聞社でジャーナリストとして働き、米国や中国で１４年間にわたって海外特派員として暮らした経験を踏まえ、実践的な情報論、メディア論を紹介したい。 社会的な事件、社会現象を取り上げながら、現代社会におけるメディアの役割とその問題点について考える。 ９・１１テロ、イラク戦争、選挙報道などといったトピック、グリコ・森永事件やベトナム戦争、ケネディ大統領暗殺、天安門事件などといった歴史的な事件にも言及する。 テレビ番組、ドラマや書籍を通してさまざまな社会現象が起きている。ドラマや映画、アニメといったソフトが海外に紹介され、国際交流に影響を与えている。 そうした現象が起きる背景や、ソフトパワーをめぐる問題、メディアの果たす新しい役割についても考える。 そのためにハリウッド映画や宮崎駿のアニメ、手塚治虫の作品、日本や韓国のテレビドラマなども材料として使う。	1　情報とメディアの関係 2　報道の自由と人権 3　事件報道の実態 4　戦争報道の歴史 5　スポーツとメディア 6　パブリシティ（報道と宣伝の関係） 7　映画などのソフトと社会の関係 8　テレビ番組と社会現象 9　アニメと国際社会 10　ソフトパワー論 11　インターネット時代 12　メディアリテラシー　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
とくになし	出席、レポート、試験など

	認知科学	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問であり，その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心に講義を進めていく。まず，人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」について解説する。つぎに，動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてあつかう。また，「学習の過程」について，とくに「言語学習」を中心にみていくことにする。さらに，近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」について概説する。 受講者の人数によっては，受講者によるレポート発表により授業を進めていくこともある。	授業計画は以下の通り 1．授業ガイダンス 2．認知科学の対象と領域 3．知覚① 4．知覚② 5．記憶の種類 6．記憶のしくみ 7．記憶と学習 8．学習のしくみ 9．言語の獲得 10．言語と思考 11．脳のしくみ① 12．脳のしくみ②
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は使用しない。参考書は授業にて適宜紹介する。	出席・レポート発表・学期末試験により評価する。

	認知科学	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
半期完結授業のため，春学期を参照のこと。	
テキスト、参考文献	**評価方法**

	人間関係とカウンセリング a	担当者	瀧本　孝雄

講義目的、講義概要	授業計画
カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。 前期では、まずカウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的な技法ついて学ぶ。特に、カウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。 言語文化学科の専門科目であるので、言語文化学科の 2 年生以上の学生は受講できる。 実習を中心とする授業であるので、他学科の学生は受講者が 50 名以上の場合には抽選による。 出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。	1.カウンセリングとは何か（定義・目的） 2.カウンセラーの役割と資格 3.カウンセラーの世界（相談機関） 4.クライエント中心カウンセリング（1） 5.クライエント中心カウンセリング（2） 6.精神分析的カウンセリング 7.認知行動カウンセリング 8.傾聴の理論 9.傾聴の実習 10.ロールプレー実習（1） 11.ロールプレー実習（2） 12.教育、産業、医療とカウンセリング
テキスト、参考文献	**評価方法**
「カウンセリングへの招待」　瀧本孝雄著 サイエンス社　2006	講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。

	人間関係とカウンセリング b	担当者	瀧本　孝雄

講義目的、講義概要	授業計画
カウンセリングの関連領域であるパーソナリティ、人間関係、発達心理等について学習する。 ここでは、パーソナリティ理論、人間関係と性格との関連、乳幼児期から老年期までの発達的諸問題について理解する。 言語文化学科の専門科目であるので、言語文化学科の学生は受講できる。 実習を中心とする授業であるので、他学科の学生は受講生が 50 名以上の場合には抽選による。 出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。	1.パーソナリティの定義 2.パーソナリティの類型論と特性論 3.パーソナリティの形成と変容 4.文化とパーソナリティ 5.発達とパーソナリティ 6.葛藤の理論 7.欲求不満（フラストレーション） 8.防衛機制 9.ストレス・マネジメント 10.グループ・ワーク（1） 11.グループ・ワーク（2） 12.人間理解とカウンセリング
テキスト、参考文献	**評価方法**
「カウンセリングへの招待」　瀧本孝雄著 サイエンス社　2006	講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。

	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	担当者	髙木　亜希子

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっとｅというコンピュータープログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力の向上を目指します。 受講対象者： 短期間でTOEICスコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。 受講条件： ・TOEICスコアが350～600点 （プログラムの性質上、350点以下、または600点以上の学習者には適していません。） ・初回の授業に必ず出席すること 本授業で求められる事項： ・20時間以上のぎゅっとｅの学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価 ・実力診断テストの受験 ・小テスト(4回程度)	Week: 1.　シラバスとプログラムの説明 2.　実力診断テスト・学習プランの作成 3.　自主学習 4.　自主学習 5.　小テスト 6.　自主学習 7.　小テスト 8.　自主学習 9.　小テスト 10.　自主学習 11.　小テスト 12.　実力診断テスト （変更する場合もあります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
ぎゅっとｅプログラムを使用します。 テキストは必要ありません。 ぎゅっとｅホームページ(体験版あり)http://gyuto-e.jp/	出席　　20%　　学習プランと記録　30% 小テスト　40%　　学習自己評価　　5% 実力診断テスト　5%

	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	担当者	髙木　亜希子

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっとｅというコンピュータープログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力の向上を目指します。 受講対象者： 短期間でTOEICスコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。 受講条件： ・TOEICスコアが350～600点 （プログラムの性質上、350点以下、または600点以上の学習者には適していません。） ・初回の授業に必ず出席すること 本授業で求められる事項： ・20時間以上のぎゅっとｅの学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価 ・実力診断テストの受験 ・小テスト(4回程度)	Week: 1.　シラバスとプログラムの説明 2.　実力診断テスト・学習プランの作成 3.　自主学習 4.　自主学習 5.　小テスト 6.　自主学習 7.　小テスト 8.　自主学習 9.　小テスト 10.　自主学習 11.　小テスト 12.　実力診断テスト （変更する場合もあります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
ぎゅっとｅプログラムを使用します。 テキストは必要ありません。 ぎゅっとｅホームページ(体験版あり)http://gyuto-e.jp/	出席　　20%　　学習プランと記録　30% 小テスト　40%　　学習自己評価　　5% 実力診断テスト　5%

	地域文化論ｉａ（ラテンアメリカ）	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、ラテンアメリカおよびカリブ海地域を対象として、人の移動とその結果生まれることになる「人種・エスニック」間関係史に焦点をあてながら、ラテンアメリカ史（カリブ海域史も含まれる）の基礎的事項とその特徴を世界史の展開と関係付けて理解することにある。歴史理解を通じて、ラテンアメリカ的特質とは何かを探っていく場としたい。 現在、米国のいわゆる「ヒスパニック化」という問題が生じている状況のなかで、ラテンアメリカ史の特徴とされている人種混交、その起源となるとされている植民地期における先住民支配のあり方などを、米国史との比較などを通じて通説的理解を再検討したいとおもう。 時期的には、先コロンブス期から現代ラテンアメリカの基本的特徴が確立する 19 世紀末～20 世紀初頭までを主な対象とする。ただし、現代ラテンアメリカの動向を履修者に常に注意を向けさせるよう、導入などで音楽や絵画、文学を紹介したい。なお、20 世紀ラテンアメリカ史については後期に授業が用意されている。 授業の最初には、音楽、絵画、文学など多様なラテンアメリカ文化をテーマとの関連で紹介したいと考えている。	1. 問題の所在：米国のヒスパニック化が問いかけていること 2. 1492 年問題　コロンブスの新世界発見 ：レコンキスタからコンキスタへ 3. 先コロンブス期のアメリカ諸文明 4. アステカとインカの征服 5. スペイン植民地支配の特徴 6. ラテンアメリカの独立 7. 国家形成の模索 8. 西欧列強のカリブ海地域支配 ：近代世界システムのゆりかご、カリブ 9. イギリス非公式帝国と米国の覇権 10. アジアとラテンアメリカの関係史 11. 「ラテンアメリカ」の成立 12. ラテンアメリカの世界史における位置
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジメを用意する。 参考文献：増田義郎『物語ラテンアメリカの歴史』中公新書	積極的な授業参加 期末テスト、簡単な課題を課す場合がある。

	地域文化論ｉｂ（ラテンアメリカ）	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に十九世紀末以降のカリブ海地域・ラテンアメリカを対象として、米国と向き合わざるを得なかったラテンアメリカとその自立の動きを現代までおっていく。基礎的歴史事項の修得を第一の目的とするが、それとともに、現代ラテンアメリカに関する多面的理解に資するものとしたい。 ラテンアメリカは、自立に向かうのだろうか、それとも米国と一体化していくのであろうか？この問題は、現代世界の最大の問題のひとつであるグローバライゼーションをどう考えるかということでもある。ラテンアメリカ史を学ぶことは現代世界理解への近道である。 授業の最初には、音楽、絵画、文学など多様なラテンアメリカ文化をテーマとの関連で紹介したいと考えている。	1. 問題の所在：米国と向き会うラテンアメリカ、「ほかの道」の模索 2. メキシコ米国関係史１：メキシコ・アメリカ戦争まで 3. メキシコ米国関係史２：アパッチ戦争終結と米国の浸透 4. メキシコ米国関係史３：メキシコ革命と米国 5. 中米・カリブ海地域と米国１：米国の運河 6. 中米・カリブ海地域と米国２：米西戦争とカリブ・中米支配 7. 中米・カリブ海地域と米国３：米国からの自立の模索 8. 権威主義体制から民主化へ(南米を中心に) 9. ラテンアメリカにおけるアイデンティティポリティクスの展開 10. 新しい人種カテゴリーの誕生：米国内のラテンアメリカ 11. 現代ラテンアメリカにおける反「新自由主義」運動と対抗文化 12. まとめ：「もうひとつの世界」は可能か？
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジメを用意する	積極的な授業参加 期末テスト、簡単な課題を課す場合がある

	地域文化論ⅱａ（スペイン）	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。 主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心に見ていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。またスペイン語史上重要な文献や作品を実際に読む。 １テーマ数回の授業で完結するため、春・秋片方のみでも問題はない。	①　ガイダンス ②　「スペイン」と「スペイン語」 Glosas Emilianenses ③　イスラム･スペイン Jarchas ④　「Cantar de Mío Cid」 ⑤　「1492」 Gramática de la Lengua Castellana 以上のテーマを軸に､1テーマ約3週で授業を進行する（ガイダンスは 1 回)。なお、扱う順序やこれ以外の作品については初回の授業で具体的に説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。	出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。

	地域文化論ⅱｂ（スペイン）	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
春学期参照	①　ガイダンス ②　「Don Quijote」 ③　「闘牛」 ④　「フラメンコ」 García Lorca ⑤　「スペイン内戦」 以上のテーマを軸に､1テーマ約3週で授業を進行する（ガイダンスは１回)。なお、扱う順序やこれ以外の作品については初回の授業で具体的に説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。	出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。

	地域文化論ⅲa（中国）	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
日中間の文化交流史においては多くの興味深いことがあるが，２つの時期の状況がとりわけ注目を引く。 唐代においては，日本が貪欲に中国から学んだ。まず文字に出会いものを書くことを覚えた。後に仮名も生んだ。 そして，近代において今度は中国が必死に日本から学んだ。和製漢語が東アジアの国々の言語体系に流れ込み，当然のこととして中国人の日常言語を形成する重要な部分ともなったのである。 中国語を学ぶ日本人の観点から，これを論ずる中国人学者の論文を読み，われわれの学ぶ現代中国語という言語を新たな視点で捉える。	1　漢字・漢語の移入、仮名の発明 2　漢字文化圏 3　「訓」と「音」 4～6　中国語における外来語 6・7　中国語における日本語由来の外来語 8　漢字と中国語の語彙が日本語の書き言葉を育む 9　梁啓超・厳復 10　“経済、社会、哲学、文化、文学”等々の社会科学・人文科学の術語 11　“信、達、雅”（厳復） 12　日本を通して間接的に西洋を学ぶ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。

	地域文化論ⅲb（中国）	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
いわゆる漢字文化圏の一員に数えられる日本は，古代より中国文明の波打ち際でその文化を創り醸成してきた。「一衣帯水」という微妙な距離をおいての受容と長い交流の中で両言語の関係は実に密でかつまた微妙である。日本語母語話者が中国語を学ぶときに陥る誤解や誤用は，背景の文化に対するそれと同様，独特のものがある。 日本語母語話者の中国語学習においては，この誤解や誤用を生む背景に対する深い理解が欠かせない。	1　中国語とは？普通话、汉语、华语、国语 漢字文化圏（＝漢語文化圏） 2　現代中国語の音韻 3　華人と中国語の比喩 4　中国人のコミュニケーションの特色 5　中国人の「色」 6　ことわざ・歇後語 7　〃既成の言い回し〃描写表現 8　東西南北、右左 9　日本語母語話者ゆえの誤謬 10　飲食に関する言葉 11　中国人の名前・命名 12　「漢文」の時代の中国語と現代中国語
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	地域経済論 ia(ラテンアメリカ)	担当者	今井　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
ラテンアメリカの政治経済についてアジア、アフリカと比較しながらその特質を理解し、次いでラテンアメリカ地域の自然、住民、文化について概観する。さらに同地域の政治経済の歴史的変遷過程を辿り、まず植民地前の先住民社会について説明する。それを踏まえて植民地期における植民地政策の特質とその下での政治経済の変容過程をおさえ、さらに独立後の国家建設、経済開発の実施過程を考察する。そして現在ラテンアメリカ地域が抱えている主要な政治経済問題と今後の課題について解説し、さいごに日本とラテンアメリカの政治経済関係について考察する。講義に加えてディスカッション形式でラテンアメリカ政治経済について考える。	1．　序　ラテンアメリカ概観―ラテンアメリカとアジア、アフリカとの比較 2．第1章　ラテンアメリカ政治経済史、 第1節　時期区分 3．第2節　先コロンブス期（植民地以前の時期） 4．第3節　植民地期 5．第4節　独立期 6．第5節　第一次産品輸出経済確立期 7．第6節　工業化から地域統合に至る時期 8．第2章　ラテンアメリカ経済の現状と問題点 9．同上 10．同上 11．第3章　日本とラテンアメリカの関係 12．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
最初の授業で参考文献リストを配布する。	出席点、授業中のリアクションペーパーおよび 学期末に提出するレポートによる。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	地域経済論 ib（ラテンアメリカ）	担当者	今井　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
ラテンアメリカの政治経済についてアジア、アフリカと比較しながらその特質を理解し、ラテンアメリカ地域の自然、住民、社会について概観する。ラテンアメリカ経済を理解するために必要な経済学の基礎知識について講義した後、ラテンアメリカのにおける経済開発の思想･理論について学ぶ。シモン･ボリーバル、フアン･バウティスタ･アルベルディ、ラウル･プレビッシュ等の思想に加えて、構造学派、従属論、ネオリベラリズム（新自由主義）等の理論について学ぶ。これらの思想や理論を踏まえて、ラテンアメリカ地域における主要な経済政策の潮流について整理する。 そしてラテンアメリカ経済の現状とその主要な経済問題および今後の課題について解説し、さいごに日本とラテンアメリカの経済関係について、移民、貿易、投資、政府開発援助などを中心に考察する。	1．序　ラテンアメリカ政治、経済、社会概観 2．ラテンアメリカ経済を理解するための経済学的基礎 3．同上 4．ラテンアメリカにおける経済開発の思想･理論 5．同上 6．同上 7．ラテンアメリカにおける主要な経済政策の潮流 8．ラテンアメリカ経済の現状とその主要問題 9．同上 10. 日本とラテンアメリカの経済関係 11. 同上 12. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
最初の授業で参考文献リストを配布する。	出席、授業中のリアクションペーパーおよび 学期末に提出するレポートによる。

	地域経済論ⅱａ（アジア）	担当者	森　　健

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、オーストラリアを中心に取り上げる。但し、オーストラリアとの関連で、他のアジア太平洋諸国についても言及する。近年、オーストラリアは、先進国の中でトップクラスの好調な経済運営を続ける国、自国およびアジア太平洋地域の貿易・投資の自由化に熱心な国、さらに、自国の多文化社会化に努め、世界で最も人気の高い移住先および留学先として知られている。しかし、この国は７０年代中期から８０年代にかけては、経済パフォーマンスの最も悪い国の一つであった。また、かつては、名だたる保護貿易主義国、アジア人を含む有色人種移民を排除する人種差別国家であった。オーストラリアがこのような政策転換を行った理由は何か。新政策はどのような影響をオーストラリアに及ぼしているのか。この講義では、このような課題について、春秋期を通じて、分野別に解明する。	1　講義の目的、地域研究の意義、中高生用ビデオ教材によるオーストラリア社会概観 2　総論：オーストラリア社会構造変化の流れ（1） 3　総論：オーストラリア社会構造変化の流れ（2） 4　歴史：流刑労働と羊毛産業 5　歴史：金発見とその影響（1） 6　歴史：金発見とその影響（2） 7　歴史：平等主義、仲間主義の起源 8　歴史：１８９０年代の恐慌とその影響 9　歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで（1） 10　歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで（2） 11　文化：エトス、アイデンティティ 12　文化：アボリジニ
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
竹田いさみ・森健・永野隆行編『新版オーストラリア入門』東京大学出版会、２００７年3月（予定)。および、プリント。	受講条件：ｂも受講すること。 評価方法：定期試験および感想文

	地域経済論ⅱｂ（アジア）	担当者	森　　健

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的と概要については春期の欄を参照。秋期は、多文化社会化、政治体制、対外経済政策、産業構造変化、日豪関係などを切り口としてオーストラリアを分析する。）	1　春期の復習を兼ねたオーストラリア歴史概観 2　移民政策の変化 3　女性進出と家族 4　多文化主義社会化政策導入の経緯 5　反多文化主義政策の流れ 6　政治体制 7　１９７０年代以前の主要政策体系 8　ホーク・キーティング労働党政権の政策（1） 9　ホーク・キーティング労働党政権の政策（2） 10　ハワード保守連立政権の政策（1） 11　ハワード保守連立政権の政策（2） 12　日豪関係
テキスト、参考文献	**評価方法**
（春期と同じ）	（春期に準ずる）

	地域経済論ⅲa(中国)	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
近年東アジアは世界経済を牽引する存在になっていると言われている。なかでも中国経済の動向は21世紀の世界経済の新たな秩序を左右する最大のファクターの一つである。この授業では東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に論ずる。 日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な関係をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたい。 この授業では、中国経済の歴史、発展可能性について、1970年代末から始まった改革･開放を中心に講義を進めていきたい。	1．中国経済の全般的な動向（1） 2．中国経済の全般的な動向（2） 3．世界の工場か、世界の市場か？（1） 4．世界の工場か、世界の市場化？（2） 5．社会主義市場経済とは何か？（1） 6．社会主義市場経済とは何か？（2） 7．メイド･イン･チャイナは世界市場を席巻するか？(1) 8．メイド･イン･チャイナは世界市場を席巻するか？(2) 9．国有企業改革はどこまで進んだか？（1） 10. 国有企業改革はどこまで進んだか？（2） 11. 農村はいかに変化したか？（1） 12. 農村はいかに変化したか？（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門（第2版）』日本評論社、2005年。 その他必要に応じて資料を配布する。	出席状況と学期末の試験の結果による。

	地域経済論ⅲb(中国)	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
中国経済の発展をめぐる内的課題と、対外貿易発展、外資導入などの経済成長への役割、中国の台頭による東アジア経済の再編について論じていく。 また貿易と投資を通じて急速に緊密化している日中経済関係の現状と今後のあり方についても考察する。新たな地域協力「東アジア共同体」構築にも関心を向けてもらいたい。 地域経済論ⅲa を履修し、中国の経済発展メカニズムの基本を把握していることが望ましい。	1．失業率は本当に低いか？ 2．金融は中国経済のアキレス腱か？ 3．輸出は成長のエンジンか？（1） 4．輸出は成長のエンジンか？（2） 5．外資は何をもたらしたか？（1） 6．外資は何をもたらしたか？（2） 7．中国は国際社会にとって脅威か？ 8．日中関係はいかにあるべきか？ 9．持続的な成長は可能か？（1） 10. 持続的な成長は可能か？（2） 11. 成長の果実は誰の手に？ 12. 21世紀における東アジア経済と中国経済
テキスト、参考文献	**評価方法**
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門（第2版）』日本評論社、2005年。 その他必要に応じて資料を配布する。	出席状況と学期末の試験の結果による。

	比較社会論 a	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
どの社会もそれぞれ独自の人間関係のあり方、それを基礎にした組織、またそのような関係や組織についての認識の仕方をもっている。これを理解してゆくために、ほぼどの社会にもその存在が認められている、最小単位としての「家族」を取り上げる。この「家族」をさまざまな側面から検討してゆくことによって、その社会の特質を理解しようとする。 「家族」は婚姻によって成立する。そこでさまざまな社会の婚姻慣習とその意味を考え、それを基礎に形成された「家族」について、その構成、成員間の関係、単位としての性格などを考えてゆく。そこにそれぞれの社会の特質を理解する鍵が得られる。	左の目的に沿って、婚姻慣習を取り上げ、そのさまざまな実態と、社会におけるその意味とを考えてゆく。どういうことをどういう順序で話してゆくかについては、第 1 回の講義でその大枠を述べる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。また必要な文献や資料はコピーして配布する。	試験およびレポートを予定しているが、受講者の数によって考慮する。

	比較社会論 b	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
上に同じ。	家族について、その構成、成員間の関係、単位としての性格、あるいは社会のなかでの位置など、実例を通して考えてゆく。いくつかの論文については、読んで発表してもらうことにする。どんな実例を取り上げて話し、あるいは読んでもらうかについては、第 1 回の講義で述べる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
読んで発表してもらう論文を何篇か用意してある。それはコピーして配布する。他の参考文献については随時紹介する。	試験およびレポートを予定しているが、受講者の数によって考慮する。

	地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明 a)	担当者	P.ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
Objetivo del curso: 1. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los autores y obras artísticas y literarias más destacadas de cada época. 2. Desarrollar: -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral a través de comentarios acerca de los conocimientos adquiridos. -La comprensión oral mediante videos y películas. -Expresión escrita. **Destinatarios:** alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.	1. La España prerromana. Los albores del arte español: *la cueva de Altamira*. 2. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas: *la Dama de Elche*. 3. La romanización y sus consecuencias. 4. Las invasiones germánicas (s. V). La sociedad y el arte visigodo. *5.* La invasión musulmana (s. VIII). Sociedad, cultura y arte árabe: *la Alhambra de Granada* y *la Mezquita de Córdoba.* 6. La Reconquista (ss.XI-XIII). Las ciudades medievales y el nacimiento de la burguesía. 7. Los orígenes del español. *El romancero*. 8. El arte románico (s. XI). 9. El arte gótico (s. XII). 10. La España d e los Reyes Católicos (s. XV). La expulsión de los árabes y judios. El Descubrimiento de América. 11. El humanismo. *La Celestina* (XVI). 12. La novela picaresca: *El lazarillo de tormes* (1554).
テキスト、参考文献	**評価方法**
No es necesario.	Una pequeña prueba sobre los conocimientos adquiridos. **La asistencia a clase es importantísima.**

	地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明 b)	担当者	P.ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
Ver el apartado anterior.	1. La monarquía española de los Austrias (ss. XVI-XVIII), transformaciones sociales y políticas. 2. La literatura barroca: Góngora (1561-1627), Quevedo (1580-1645), Lope de Vega (1562-1635) y Calderón de la Barca (1600-1681). 3. La literatura barroca (continuación). 4. El arquitectura barroca (XVII). 5. La pintura barroca: El Greco (1541-1614) y Diego de Velázquez (1599-1660). 6. La Ilustración (XVIII): Francisco de Goya (1746-1828). 7. El Romanticismo (XIX). 8. El mito de *Don Juan*. 9. La crisis de 1898. La Generación del 98: Unamuno (1964-1936), Pío Baroja (1873-1956) y Valle Inclán (1866-1936). 10. La arquitectura de Antonio Gaudí (1852-1926). 11. Pablo Picasso (1881-1973). 12. Tema libre.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No es necesario.	Una pequeña prueba sobre los conocimientos adquiridos. **La asistencia a clase es importantísima.**

	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民族と文化 a)	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
私の研究対象であり、実地調査も行っているカリブ海域社会について、概括的な知識を得ると同時に、その特質を知る。 カリブ海域は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その上に文化が築かれている。そこでまず、その歴史をある程度時間をかけて明らかにする。その後、その歴史を基礎にした複雑な民族構成、民族間の関係を述べ、さらにカリブ海域の特徴とされるクレオル語を中心とした複雑な言語および言語構成について明らかにする。最終的には「クレオル」という言葉で示される意味について、その特質を考えることができるように話をしていきたい。	カリブ海域の概略、歴史、民族などの話をする。この順序で話をしてゆくが、どんな内容をどのくらい回数かけるかは、第 1 回の講義で述べる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	試験およびレポートを考えているが、受講者の数によって考慮する。

	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民族と文化 b)	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
上に同じ。	民族について若干残りの話をし、次いで言語について述べる。独特な言語の形成、社会における複雑な言語構成、それらの言語間の関係などを明らかにする。それ以外の文化に触れる余裕があれば触れ、それらを通して文化の特質、文化や社会の問題点などにも言及する。テーマについては、第 1 回の講義においてその大枠を述べる。 注―カリブ海域の文化については、その歴史についての知識がないと理解できないので、春学期も取っておくことが望ましい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	試験およびレポートを考えているが、受講者の数によって考慮する。

	地域社会文化論特殊講義（現代ラテンアメリカ研究 a）	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義ではラテンアメリカという地域の多様性を知り、またこの地域の政治と社会の基本構図を理解することを目標とする。 ラテンアメリカは世界でも稀な、大陸的規模で同質的な文化をもつ地域である。しかし詳しく見ていくと、その同質性を基底としつつも多様性に富んだ地域であることが分かる。また規模は小さいが、カリブ地域にはまったく異質な言語や文化をもつ小国家群も存在する。 春学期の前半では、まずラテンアメリカのいくつかの代表的な国を取り上げ、その政治や社会の特色と多様性を具体的に学ぶ。そのことをふまえつつ、後半では、ラテンアメリカ全体に通じる政治・経済・社会の基本構図を（たんなる知識の羅列ではなく）論理的・総合的に理解するように努めていきたい。 （※秋学期も参照のこと）	Ⅰ．多様なラテンアメリカ世界 ——その政治・社会・文化の特徴—— 1. アンデス地域（ペルー・コロンビアなど） 2. ラプラタ地域（アルゼンチンなど） 3. ブラジル 4. メキシコ 5. 中米地域（エルサルバドルなど） 6. カリブ地域（スリナムなど） Ⅱ．ラテンアメリカの政治と社会の基本構図 ——その歩みと現代の諸問題—— 7. ラテンアメリカ地域の成立 8. ラテンアメリカ諸国の近代化 9. 社会階層とポピュリズム 10. 国家発展とクーデタ 11. 経済危機と民主化 12. ネオリベラリズムと貧困
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験（これに出席状況を加味する）。

	地域社会文化論特殊講義（現代ラテンアメリカ研究 b）	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では世界のなかにおけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解を深めることを目標とする。 ラテンアメリカは発展途上地域であるが、言語的・文化的にはスペインなどのヨーロッパ的特色も有し、また独立国としても 200 年近い歴史をもつ、世界のなかで固有の性質をもつ地域である。 秋学期には、まず世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、米州（南北アメリカ）やラテンアメリカ域内の国際関係に関する重要論点について学んでいく。そして、麻薬やゲリラ、政治の不安定化など、現代ラテンアメリカで大きな争点となっている諸問題について知り、この地域が抱える 21 世紀の課題について考えていきたい。 （※できるだけ春・秋両学期を通じて履修のこと）	Ⅰ．ラテンアメリカの国際関係史 1. コロンブスとラテンアメリカ 2. 世界経済とラテンアメリカの近代化 3. 米国の覇権主義とラテンアメリカ 4. 地域協調時代のラテンアメリカ Ⅱ．米州域内の国際関係 5. キューバと米国 6. ラテンアメリカの軍事政権と米国 7. ラテンアメリカの非核兵器地帯化 8. 米州機構と民主主義支援 Ⅲ．現代ラテンアメリカの諸問題 9. アンデス諸国の麻薬問題 10. 経済グローバル化と貧困問題 11. 経済・インフラ統合と先住民問題 12. 左傾化するラテンアメリカ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験（これに出席状況を加味する）。

	地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶもの a)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジア地域，とくにイスラーム勃興以降の時代について，歴史と社会を考察しながら，「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は，「西洋」の主観が生み出した産物だが，ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，それぞれ３回ずつ講義する。そのなかで必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　A；キリスト教の広がりとアジア世界。 その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　B；イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。 その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　C；十字軍・レコンキスタとその時代。 その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　D；２つの旅行記（マルコ・ポーロとイブン・バットゥータ）と当時の世界。その１ 11　同　その２ 12　同　その３
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する	レポートによる

	地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶもの b)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 春学期と同じ。秋学期ではとくに「西洋化」が「東洋」における近代化である点と，それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，それぞれ３回ずつ講義する。そのなかでは必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　E；大航海時代と世界の一体化。アジアとヨーロッパの出会い。 その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　F；アジアにおけるさまざまな近代化。 その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　G；帝国主義とイスラーム世界。パレスチナ問題。 その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　H；旧ソ連諸国や旧ユーゴースラビア諸国における民族・宗教意識。 その１ 11　同　その２ 12　同　その３
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する	レポートによる

	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニックヒストリーa)	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
日米英の三ヶ国に昔から定住してきた代表的マイノリティ（被差別少数派）の歴史と現状について学ぶ。とりわけ多数派の側から加えられてきた抑圧・差別を生み出すメカニズムについて詳しく解明する。同時に多数派側からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきたマイノリティ集団側の主力的努力についても学ぶ。	1. 講義の概要を説明。マイノリティについての概念規定を行なう。 2. 黒人差別を生み出したメカニズム。自由と平等を求める黒人側の闘いを探る。 3. 歴史的に蓄積された差別を一挙に解消するために 64 年の公民権法の中に定められた「差別是正措置」とその波紋を学ぶ。 4. 2005 年 8 月末の巨大ハリケーンが明らかにした黒人の貧困と人種間格差、その背景に迫る。 5. 日系人に対する抑圧を生み出した法的根拠と“White Racism”について学ぶ。 6. 第二次大戦中、12 万人におよぶ日系アメリカ市民に対する強制収容とその賠償問題を学ぶ。 7. アメリカのユダヤ人差別を告発する映画「紳士協定」の合評会を行なう。 8. 「アメリカのユダヤ人迫害史」(前半)の合評会を行なう。 9. 「アメリカのユダヤ人迫害史」(後半)の合評会を行なう。 10. 在米ヒスパニックの歴史と現状を学ぶ。 11. 米国先住民の歴史と現状を学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤唯行『アメリカのユダヤ人迫害史』(2000 年　集英社新書）680 円 合評会以外の授業では毎回文章化されたレジメを配布	合評会での発表の成果を 30/100 点分としてカウントする。欠席・遅刻による足切り点制度は導入しない。

	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニックヒストリーb)	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	1. マイノリティ問題を理解するために必要な理論的枠組を学ぶ。 2. 英国籍を持つ在英パキスタン系 2・3 世が 7・7 テロを惹起した背景を探る。 3. 僅か半世紀で被差別マイノリティから強力なエリート集団へ変身した人々がいる。それは在米ユダヤ人社会ある。彼等の政治力を生み出した源泉を探る。 4. ユダヤ人不在の我が国においても、すでに 1920 年代から「ユダヤ人陰謀論」は存在していた。近年米系ユダヤ人団体から激しい抗議を招くにいたったその背景を探る。 5. 日本人が在米ユダヤ人社会の存在を「発見」するのは日露戦争期においてであった。以後、今日に至る恩義と友好の交流史を学ぶ。 6. 在日コリアンの形成史を学ぶ。 7. 差別とたたかう在日コリアンの現状について学ぶ。 8. 在米コリアンが標的としてえりぬかれた 92 年のロス暴動の背景を探る。 9. 室町時代後期から明治初年までの日本人の黒人認識の変遷をたどる。 10. 日本の政治家による差別発言、在米日系企業による黒人への雇用差別はどのようにして解決されたのか。 11. 奈良県の「部落産業」の現状を紹介した記録映画を通じて理解を深める。 12. 被差別部落の現状を整理、紹介する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。毎回、完全に文章化されたレジメを配布する。	欠席 6 回以上の者は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回分にカウントする。出席を含む平常点を 50 点、定期試験を 50 点分とする。

	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術 a)	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム（イスラーム）教は西暦７世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン（コーラン）と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒（ムスリム）数は約１３億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで 57 か国に及ぶ。 本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。毎時限の講義は、 （1）テキスト『図説世界文化地理百科イスラム世界』（フランシス・ロビンソン著）の講読 （2）イスラム世界のビデオ紹介 の２部構成とする。 なお、テキストはコピーを配布する。	1　預言者ムハンマド 2　アッラーの啓示 3　クルアーン、メッカ啓示、メディナ啓示 4　ヒジュラ（聖遷） 5　ウンマ（信仰共同体）とスンナ（預言者の慣例） 6　カリフ（預言者の後継者）、正統カリフ 7　第二代正統カリフ、オマルと「信徒の司令官」 8　第四代正統カリフ、アリーとシーア派の誕生 9　シーア派教義「アリーはアッラーのワリー」 10 カルバラの悲劇 11 ウマイヤ朝 12 アッバース朝
参考文献	**評価方法**
小杉泰著『イスラームとは何か』（講談社現代新書、1994 年）	出席率と試験による

	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術 b)	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム（イスラーム）教は西暦７世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン（コーラン）と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒（ムスリム）数は約１３億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで 57 か国に及ぶ。 本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。毎時限の講義は、 （1）テキスト『図説世界文化地理百科イスラム世界』（フランシス・ロビンソン著）の講読 （2）イスラム世界のビデオ紹介 の２部構成とする。 なお、テキストはコピーを配布する。	1　シャリーア（イスラム法） 2　コーランとハディース（預言者の言行録） 3　キヤース（類推）とイジュマー（合意） 4　「五行」と義務の二範疇 5　ウラマーとファキーフ（法学者） 6　四法学派とワッハーブ派 7　スーフィズム（イスラム神秘主義） 8　ガザーリー 9　ルーミー 10 イブン・アルアラビーの「存在一性論」 11 神秘主義詩人 12 トルコの神秘主義教団
参考文献	**評価方法**
小杉泰著『イスラームとは何か』（講談社現代新書、1994 年）	出席率と試験による

	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史 a)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 本講義は、地中海世界の歴史に大きな役割を果たした古代ギリシアの、「歴史と神話」に焦点を絞り、両者が密接な関係をもって考えられていたことを具体的な神話をもとに考察することを目的にしています。その際に、「神話」を単にお話ととらえるのではなく、古代の人々がどのようにそれを理解し、伝えていたかを史料に即してたどることで神話の持つ歴史的意義を考える手法をとりたいと思います。 ＜講義概要＞ 授業は概説的に進めて行きますが、関連するテーマのビデオや映画、DVD などもできるだけ使って理解を深めるのに役立たせたいと考えています。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうということを主眼においているので、積極的かつ活発な質問や意見がでることを期待しています。その意味でも自由な発言が出るようなアト・ホームな雰囲気で講義を進めていくつもりです。	１　はじめに：神話と歴史はどのように関連していたか？ ２　テーベ伝説圏の神話（１） ディオニュソス進行とペンテウスの悲劇 ３　テーベ伝説圏の神話（２） オイディプスの悲劇と「知ること」の意味 ４　アテナイ伝説圏の神話（１） アテナイの建国神話 ５　アテナイ伝説圏の神話（２） テセウスとアテナイ民主政 ６　アルゴス伝説圏の神話（１） ミケーネ世界とアトレウス家の悲劇 ７　アルゴス伝説圏の神話（２） トロイア戦争とその歴史性 ８　アルゴス伝説圏の神話（３） ミケーネ王家の末路 ９　アルゴス伝説圏の神話（４） ローマの建国神話とアイネイアス １０　イオルコス伝説圏の神話（１） イアソンとアルゴ船遠征物語：その１ １１　イオルコス伝説圏の神話（２） イアソンとアルゴ船遠征物語：その２ １２　まとめ：神話と現代
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、参考文献は初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。	学期末のレポートと１～２回の小報告に、出席点を加味して総合的に評価します。

	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史 b)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 本講義は、世界史的にこれまで大きな役割を果たしてきた地中海世界の「宗教と文化」に焦点を絞り、キリスト教という一神教が成立する過程を歴史的に考察することにより、宗教と文化を含む歴史がいかに密接に関連し、しかも人々の考え方、生き方（心性）の変化と連動しているかを探ることで、現代の私たちの自己認識や帰属意識がどこに由来するかを考えることを目的にしています。 ＜講義概要＞ 講義は概説的に進めていきますが、関連するテーマのビデオや映画、DVD などの映像資料もできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問や意見が出ることが期待されています。その意味でも自由な発言が出るようなアト・ホームな雰囲気で講義を進めていくつもりです。	１　はじめに：多神教から一神教への道筋 ２　メソポタミアの宗教と文化 死すべき人間と不死なる神々 ３　エジプトの宗教と文化（その１） 来世信仰とピラミッド ４　エジプトの宗教と文化（その２） 一神教革命とツタンカーメンの死 ５　パレスチナ地域の宗教と文化 大文明の周縁で生きる人々 ６　ギリシアの宗教と文化（その１） オリンポスの神々と合理主義 ７　ギリシアの宗教と文化（その２） ピタゴラスと密議宗教 ８　ヘレニズムの宗教と文化（その１） アレクサンドロスの帝国と人々の内面志向 ９　ヘレニズムの宗教と文化（その２） 宗教融合（シンクレティズム） １０　ローマ帝国の宗教と文化（その１） ユダヤ教とローマ帝国 １１　ローマ帝国の宗教と文化（その２） キリスト教の成立の意義 １２　まとめ：宗教と道徳
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、参考文献を初回の授業時に、「参考文献一覧表」として配布します。	学期末のレポートと数回の小報告に、出席点を加味して総合的に評価します

	地域社会文化論特殊講義(文化史入門)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体現された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。 ＜講義概要＞ 　本講義では、古代地中海世界で体現された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。	１　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２　技術文化：（その１）動力とエネルギー源 　奴隷労働は生産的であったか？ ３　技術文化：（その２）水の供給・処理と農業・牧畜 　水道橋にかけるローマ人の執念 ４　運送手段：（その１）船と海上輸送 　古代の戦艦「三段櫂船」の脅威 ５　運送手段：（その２）陸上輸送 　古代の「一般道」と「高速道路」 ６　造形芸術：建築と彫刻 　アルカイック・スマイルの謎 ７　文学の世界：叙事詩と演劇 　ギリシア人は「神話」を信じていたか？ ８　宗教と祭祀：神々と人間 ９　性愛の諸相（男と女） 　同性愛と異性愛 １０　競技的（アゴン）人間類型 　理想的人間とは？ １１　クリエンテーラ・パトロネジ関係 　「シンポジウム」と親分・子分関係 １２　まとめ（総括と展望）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。	学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活 a)	担当者	松本　栄次

講義目的、講義概要	授業計画
熱帯林の生態とその開発の現況を展望し、人間と風土のかかわり合いを地理学的視点から考察する。 とくにアマゾン森林で代表される南アメリカの熱帯林を題材として取りあげ、熱帯林生態系の特徴を、気候・土壌・水文条件などさまざまな自然地理的視点から解明する。また、熱帯林の資源としての価値、人為的改変に対する脆弱性などについて考察する。	1　はじめに 2　熱帯植生の諸タイプ 3　世界の熱帯林・南アメリカの熱帯林 4　熱帯林生態系の物質生産と物質循環 5　熱帯林成立の気候・水文環境 6　熱帯林成立の土壌環境 7　熱帯林のバリエーション(1) 氾濫原林の生態 8　熱帯林のバリエーション(2) 白砂植生と貧栄養環境 9　熱帯林のバリエーション(3) マングローブ林の生態 10　遺伝子資源としての熱帯林（種の多様性） 11　再生の困難な熱帯林 12　熱帯林消失と自然環境変化
テキスト、参考文献	**評価方法**
斎藤功ほか編『環境と生態』古今書院、1990 年 クリス．C．パーク著・犬井正訳『熱帯雨林の社会経済学』農林統計教会、1994 年	定期試験の成績と出席状況を勘案して行う。

	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活 b)	担当者	松本　栄次

講義目的、講義概要	授業計画
熱帯林の生態とその開発の現況を展望し、人間と風土のかかわり合いを地理学的視点から考察する。 とくに、現在その開発による環境破壊が世界的関心を呼び起こしているアマゾン川流域（アマゾニア）に焦点を当て、熱帯林地帯における人々の生活、開発の歴史、生産活動などについて理解する。また、アマゾニア熱帯林の消失要因やその持続的開発の方策について考察する。	1　アマゾニアとその居住の歴史 2　多様な植物資源とその採取活動 3　天然ゴム産業の盛衰 4　木材生産地としての熱帯林 5　アマゾン河口部の自然と生活 6　アマゾン中流部の農牧業の展開 7　アマゾニア森林消失の歴史と現況 8　アマゾニア森林消失の社会的背景 9　近未来におけるアマゾニア森林の消失要因：大豆 or サトウキビ？ 10　アマゾニア森林の先住民文化 11　アマゾニアの持続的開発に向けての努力 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
グールディング他著（山本・松本訳）『恵みの洪水－アマゾン沿岸の生態と経済』　同時代社、2001 年.	定期試験の成績と出席状況を勘案して行う。

	比較文化論特殊講義（グローバリゼーションとローカル文化）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
1980 年代、グローバリゼーションはローカル文化を破壊する力を持つと思われてきた。しかし近年、民族独立運動や自文化中心主義的な動きの活発化とグローバル化とは、同時に起こる現象であることも注目されるようになってきた。本講義では、グローバリゼーションとローカリゼーションの同時性がいかにして引き起こされるのか、また、グローバル化のもとで大衆文化はいかにして輸出入され、翻訳（再・解釈）されているのか、またそこに潜む問題は何か、といった問いを、できるだけ多くの具体的事象を例に挙げながら考えてみたい。それゆえ、受講者には、毎回かなりの量の文献・資料を読み、なおかつ、それをきちんと理解し、それぞれのトピックに対しコメントする能力が要求される。	以下、授業計画に挙げる具体例は、あくまで予定であり、履修者の関心・希望によっては、変更あるいは追加もありうるので、授業中のディスカッションには積極的に参加してもらいたい。 １．オリエンテーション ２．グローバル化するローカル文化（１） ——情報化社会と文化活動 ３．グローバル化するローカル文化（２） ——「オリジナリティ」をめぐって ４．グローバル化するローカル文化（３） ——ナショナリズム、国籍、土着性 ５．大衆文化の輸出入（１）村上春樹 ６．大衆文化の輸出入（２）宮崎駿、手塚治虫 ７．大衆文化の輸出入（３）J-Pop ８．大衆文化の輸出入（４）マンガとコミック ９．身体の比較文化（１）処女性とセクシュアリティ １０．身体の比較文化（２）衛生観念 １１．身体の比較文化（３）ろう文化と聴文化 １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』	出席とレポート

	比較文化論特殊講義（グローバル社会における文化変容）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義ではグローバリゼーションとローカリゼーションという現象に注目しながら、異文化を比較するということ、さらに、グローバリゼーションがもたらした「文化の融合」あるいは「文化変容」について考える。受講者は本講義をとおして、文化を比較するときの視点がどこに置かれるか、また異文化比較によって生じる問題点や困難な点、比較によって明らかにされる自文化の姿など、あらためて意識してもらいたい。さらに、そこで考えたことをベースに、実際に自分でみつけた事例の異文化比較をし、レポート発表をしてもらう。 講義の前半では、それぞれ異なった文化を比較することによって、なにが見えてくるのか、異なった文化を「比較する」ということはどのようなことなのか、そして、異なった文化を比較するとき、それが「誰の視点から」行なわれているのかをテーマに講義をする。後半は翻訳可能性をテーマに、具体的な事例（資料映像・記事など）を用いてディスカッションする。なお、本講義を受講するにあたっては、春学期の「比較文化論特殊講義」をも受講することを強く推奨する。	１．オリエンテーション——異文化を比較するということ ２．「われわれ」と「かれら」の境界 ３．異文化を比較する（１）——時間と空間 ４．異文化を比較する（２）——フォーマット化 ５．異文化を比較する（３） ——マクドナルド化とアメリカ文化帝国主義 ６．異文化を比較する（４）Japanimation と Disney ７．文化帝国主義と「英語」使用 ８．グローバリゼーションはアメリカ化か？ ９．文化変容と異文化融合（１） ——テレビ番組の輸出入 １０．文化変容と異文化融合（２） ——アジアにおけるキリスト教 １１．異文化の翻訳可能性について １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』	出席とレポート

	比較文化論特殊講義(日中文化比較論 a)	担当者	嚴　明

講義目的、講義概要	授業計画
本講義從東亞文化比較的角度，分析日、中兩國文化各方面的異同，探究這些文化差異的表現形式、形成原因以及在当今日、中兩國各種交流中發揮的巨大作用。通過課堂講授、課堂討論以及演習報告，提高學生們對於中國學習的興趣，掌握中國語表達的各種技巧，加強亞州意識，加深對於日中關係的了解，深層次領悟日本、中國社會文化之間的共同性及差異性。 秋学期も履修することが望ましい	1、日中民族的淵源與發展 2、日中佛教及信仰研究 3、日中漢字文化比較 4、日中社會結構比較 5、日中家庭比較 6、日中學校教育比較 7、日中神話比較 8、日中節日祭祀比較 9、日中園林比較 10、日中服飾比較 11、日中城市比較 12、日中兩性關係比較
テキスト、参考文献	**評価方法**
自編教科書。參考書：金文學《中國人、日本人、韓國人》，山東人民出版社，2005 年版。	評價方法:期末定期試驗，平常授業の課題など

	比較文化論特殊講義(日中文化比較論 b)	担当者	嚴　明

講義目的、講義概要	授業計画
本講義從東亞文化比較的角度，分析日、中兩國文化各方面的異同，探究這些文化差異的表現形式、形成原因以及在当今日、中兩國各種交流中發揮的巨大作用。通過課堂講授、課堂討論以及演習報告，提高學生們對於中國學習的興趣，掌握中國語表達的各種技巧，加強亞州意識，加深對於日中關係的了解，深層次領悟日本、中國社會文化之間的共同性及差異性，增強在異文化交流中的各項素質修養。 春学期も履修することが望ましい	1、日中茶文化比較 2、日中料理比較 3、日中美術比較 4、日中音樂比較 5、日中漫画比較 6、日中方言比較 7、日中成语比較 8、日中流行语研究 9、日中民间故事比較 10、日中古典詩歌比較 11、日中小説比較 12、日中電影比較
テキスト、参考文献	**評価方法**
自編教科書。參考書：金文學《中國人、 日本人、韓國人》，山東人民出版社，2005 年版。	評價方法:期末定期試驗，平常授業の課題など

	国際関係概論 a	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
「国際協力」を中心テーマとして講義を進めていきたい。 世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はＰＫＯ（平和維持活動）やＯＤＡ（政府開発援助）を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この２つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。 本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。	Ⅰ．地域紛争と平和協力 1.　国連憲章と平和維持活動（ＰＫＯ） 2.　地域紛争の事例研究ａ：モザンビーク 3.　地域紛争の事例研究ｂ：エルサルバドル 4.　日本の国際平和協力法 Ⅱ．南北問題と開発協力 5.　開発戦略の変遷ａ：援助と貿易 6.　開発戦略の変遷ｂ：構造調整とガバナンス 7.　貧困と「人間開発」概念 8.　日本の政府開発援助（ＯＤＡ） Ⅲ．平和協力と開発協力の融合 9.　紛争終結後の社会荒廃 10.　人間の安全保障 11.　平和構築と復興支援の模索 12.　予防外交と予防開発
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験（これに出席状況を加味する）。

	国際関係概論 b	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
「南北問題」を中心テーマとして講義を進めていきたい。 地球上にいる人間の約 8 割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約 5 分の 1（約 12 億人）は 1 日 1 ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策（教育・保健・福祉）を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。 本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。	Ⅰ．地球環境政治 1.　地球環境問題と南北対立 2.　貧困と環境破壊 3.　地球温暖化（気候変動枠組み条約） 4.　資源・エネルギーの枯渇 Ⅱ．南北問題の展開 5.　第三世界の独立と冷戦 6.　西側先進国の開発援助戦略 7.　石油危機と第三世界の結束 8.　第三世界内の格差拡大 Ⅲ．グローバル経済と開発援助 9.　経済（貿易・金融）のグローバル化 10.　経済の自由化と貧困の拡大 11.　開発援助の理念と枠組み 12.　ミレニアム開発目標
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験（これに出席状況を加味する）。

	国際機構論 a	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義の目的は、国際組織に対する法的視点を習得することを目的とする。 講義概要 本講義では、国際組織の国際法上の理論的諸問題を取り上げて検討する。 本講義を受講するにあたっては国際法の知識を有することを必ずしも前提とはしないが、主に国際法の視点から国際組織の分析を行うため、全学共通授業科目の国際法や法学部の国際法も受講することを奨励する。	1　イントロダクション 2　国際組織の概念と歴史 3　国際組織の設立と解散 4　国際組織の国際法上の地位 5　国際組織の国内法上の地位 6　国際組織と加盟国 7　国際組織間の連携・協力 8　国際組織と NGO（民間団体） 9　国際公務員 10　国際組織の意思決定 11　国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
横田洋三編著『新国際機構論　上』（国際書院）	主として学期末に実施する試験と出席により評価する。

	国際機構論 b	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は、国際社会で活躍する国際組織の活動について基礎的な知識を習得することを目的とする。 講義概要 国際社会には世界政府は存在しない。しかし、多様な国際組織が国家とともに国際社会の共通利益の実現のために重要な役割を担っている。本講義では、国際組織の様々な活動分野を取り上げて、国際組織がそれらの分野で果たしている機能を具体的に説明する。 本講義は多様な国際組織の活動について主に国際法の視点から分析を行うものであるため、一連の講義に先立ち、国際社会と国際法についての簡単なレクチャーを行う。	1　イントロダクション 2　国際組織と国際法 3　紛争の平和的解決に関わる国際組織（1） 4　紛争の平和的解決に関わる国際組織（2） 5　安全保障に関わる国際組織（1） 6　安全保障に関わる国際組織（2） 7　軍備管理・軍縮・不拡散に関わる国際組織 8　人権・人道・難民問題に関わる国際組織 9　国際貿易・国際金融に関わる国際組織 10　開発援助と南北問題に関わる国際組織 11　労働、教育・文化、保健に関わる国際組織 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
横田洋三編著『新国際機構論　下』（国際書院）	主として学期末に実施する試験と出席により評価する。

	地球環境論 a(植物学)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本人と日本の文化を考える基礎となるはずの日本の自然環境を理解することを目的とする。 **講義概要** ヒトの活動が大きく地球環境を改変してきたが、その様子を知るために、主として北半球各地の環境の異同を身近な植物や動物を例に説明する。	次の内容の講義を数回ずつ行う。 1　エコシステムとは 2　世界の気候帯 3　植生と文化 4　世界遺産条約
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。	出席重視、小テスト（随時行う)、複数回のレポート提出、期末考査を総合して評価する。

	地球環境論 b(植物学)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 地球規模で自然をどのように守るために我々はどうすべきかを考える。 **講義概要** 　日々のニュースの中から、保護に関する出来事を紹介しつつ、学生諸君にも考えてもらう。	次の内容の講義を数回ずつ行う。 1　自然保護運動 2　ワシントン条約 3　ラムサール条約 4　国立公園
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。	出席重視、小テスト（随時行う)、複数回のレポート提出、期末考査を総合して評価する。

	地球環境論 a(地理学)	担当者	北﨑　幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。 まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。	1．オリエンテーション―地理学とは 2．環境の諸要素（1）気候環境 3．環境の諸要素（2）緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4．環境の諸要素（3）地形・植生 5．熱帯地域（1）熱帯林と伝統的生活様式 6．熱帯地域（2）熱帯林の開発と環境問題 7．熱帯地域（3）熱帯林の保全 8．沙漠地域（1）自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9．沙漠地域（2）石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 地中海森林地域の特性 11. 地中海地域の生活様式―西欧文化の原点 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著（2004）『自然環境と文化―世界の地理的展望　改訂版』原書房	定期試験等

	地球環境論 b(地理学)	担当者	北﨑　幸之助

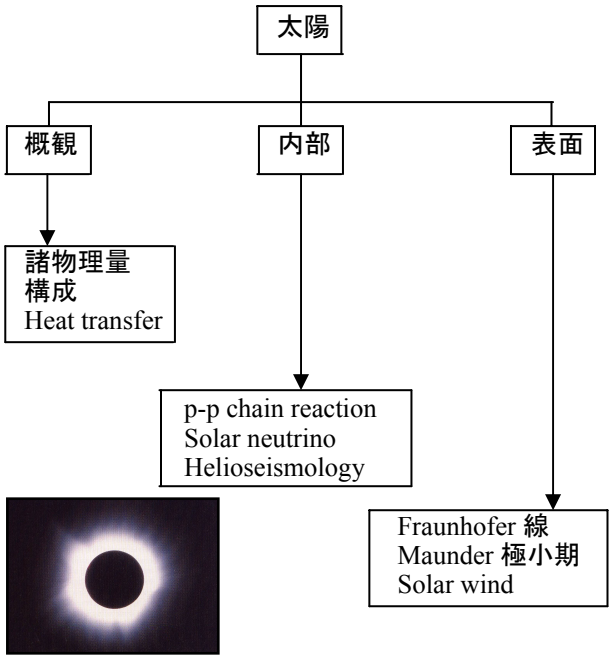
講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。 秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地域、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共存方法について理解を深める。	1．環境の諸要素―地形環境 2．温帯草原地域の自然特性 3．温帯草原地域の開発と環境問題 4．温帯混合林地域（1）高密度都市化地域の特性 5．温帯混合林地域（2）産業革命と都市域の拡大 6．亜寒帯森林地域（1）タイガの中の生活 7．亜寒帯森林地域（2）タイガの開発と保全 8．山地地域（1）山地の自然環境と高度帯の利用 9．山地地域（2）山地資源の開発と観光化 10. 世界の環境問題（1）生態系と人間活動 11. 世界の環境問題（2）自然環境の破壊 12. まとめ　自然環境の保全と保護
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著（2004）『自然環境と文化―世界の地理的展望　改訂版』原書房	定期試験等

	地球環境論　a　（太陽系）	担当者	福井 尚生

講義目的

- ✿ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、生物が誕生（？）・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の**起源**を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。
- ✿ 『地球環境論 a』（太陽系）では、天体としての地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球にとって掛け替えの無い恒星 **The Sun** を天文学の立場から学びます。What is the Sun?
- ✿ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・**実行**して下さい。
- ✿ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- ✿ 簡単な数学も必要に応じて使います。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

- ✿ （テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善）

評価方法

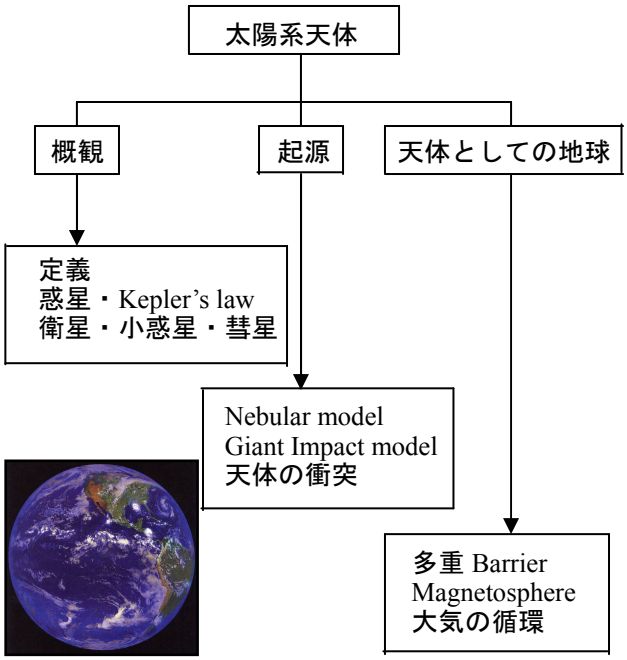
- ✿ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

	地球環境論　b　（太陽系）	担当者	福井 尚生

講義目的

- ✷ 地球が宇宙を司る自然法則に支配されていることは他の太陽系天体と同じです。我々の存在を可能にしている他の太陽系天体からの違いは何でしょう？地球が The Goldilocks planet と呼ばれる理由がここにあります。
- ✷ 『地球環境論 b』（太陽系）では、『地球環境論 a』の知識を前提に **The Solar system**（除・太陽）を地球環境に関わりを持たせて天文学の立場から学びます。The Solar system = The Sun's family
- ✷ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・**実行**して下さい。
- ✷ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- ✷ 簡単な数学も必要に応じて使います。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

- ✷ （テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『太陽系の果てを探る』渡部 潤一、布施 哲治 著・東京大学出版

評価方法

- ✷ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

	都市・地域計画論 a	担当者	鈴木　隆

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、人間の生活および諸活動の場である都市および農村もしくは地域に関わる現象、課題、施策について、日本やヨーロッパの例を取り上げながら学び、都市や地域について考える視点と知識をつけることを目的とする。 本学期は、特に、地域の主体としての公共団体、市町村合併によるその変化、自治体内の地域の自治組織ならびに市町村の広域連合を取り上げ、団体としての地域のあり方について考える。	1　都市の概念 2　地域の主体としての公共団体 3　地域の主体としての公共団体 4　地域の主体としての公共団体 5　市町村の合併 6　市町村の合併 7　市町村の合併 8　市町村の合併 9　小括 10　地域の自治組織 11　地域の自治組織 12　市町村の広域連合 以上の計画には多少の変更もありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは用いない。参考文献は、必要に応じて授業中に紹介する。	中間および期末の試験によって評価する。

	都市・地域計画論 b	担当者	鈴木　隆

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、人間の生活および諸活動の場である都市および農村もしくは地域に関わる現象、課題、施策について、日本やヨーロッパの例を取り上げながら学び、都市や地域について考える視点と知識をつけることを目的とする。 本学期は、特に、地域の生活中心地の商業機能の変化に着目し、それが地域にもたらす変化と問題、その問題への取り組みを通しての地域の再生について考える。	1　日本の都市の特質 2　生活中心地の機能の変化・背景・問題 3　生活中心地の機能の変化・背景・問題 4　生活中心地の機能の変化・背景・問題 5　中心地再生への取り組み（規制とその変化） 6　中心地再生への取り組み（規制とその変化） 7　中心地再生への取り組み（規制とその変化） 8　小括 9　中心地再生への取り組み（地域の対応） 10　中心地再生への取り組み（地域の対応） 11　中心地再生への取り組み（地域の対応） 12　中心地再生への取り組み（地域の対応） 以上の計画には多少の変更もありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いない。参考文献は授業の中で紹介する。	中間および期末の試験によって評価する。

	国際経済論ａ	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。 講義概要 経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状・定義・分類ならびに経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。講義の大部分はパワーポイントを使って行う。ほぼ毎回、講義内容に関連するビデオを上映して、途上国の現状を教室で実感してもらう。	１．経済開発論をなぜ学ぶか／授業の進め方／参考文献・統計資料の紹介 ２．経済開発論の学問的位置づけ／理論・政策・戦略 ３．成長と発展／経済開発論と価値観・世界観／経済成長は望ましいか？ ４．発展途上国の定義と分類 ５．人間開発指標（HDI）とセンの思想 ６．国連ミレニアム開発目標（MDGｓ）と達成目標 ７．経済発展のモデル ８．人口の増加と人口都市化の問題 ９．社会・文化的諸条件の重要性 10．教育と発展 11．ガバナンス／女性と参加型開発 12．持続的成長と地球環境問題
テキスト、参考文献	評価方法
参考文献：足立文彦『人間開発報告書を読む』（古今書院、2006）、マイケル．Ｐ．トダロ『Ｍ・トダロの開発経済学』（国際協力出版会、1997）	期末の定期試験による。随時に出欠をとり評価の参考資料とする。

	国際経済論ｂ	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。 講義概要 発展途上国の貧困の原因を明らかにして、それらの原因に対してどのような解決策があるかを検討する。また、途上国の貧困問題に対して先進国はなにをしなければならないかを考える。講義の大部分はパワーポイントを使って行う。ほぼ毎回、講義内容に関連するビデオを上映して、途上国の現状を教室で実感してもらう。	１．貧困の悪循環 ２．経済発展と所得分配 ３．絶対的貧困と相対的貧困 ４．経済発展と産業構造の変化 ５．農村の不完全就業と都市のインフォーマル部門 ６．工業化と開発戦略 ７．対外債務問題と国際収支構造の変化 ８．雁行形態論とプロダクトサイクル論 ９．輸入代替工業化と輸出促進工業化 10．ＷＴＯ（世界貿易機関）と発展途上国 11．多国籍企業と途上国経済 12．国際援助論の変遷と途上国開発
テキスト、参考文献	評価方法
参考文献：高木保興『開発経済学』（有斐閣、1992）、西垣昭、下村恭民『開発援助の経済学（新版）』（有斐閣、1993）、スーザン・ジョージ『ＷＴＯ徹底批判！』（作品社、2002）	期末の定期試験による。随時に出欠をとり評価の参考資料とする。

	国際政治論 a	担当者	星野　昭吉

講義目的、講義概要	授業計画
国際政治（世界政治）の現在は著しく日常化し、我々の生存は国際政治の在り方に大きく依存している。我々は、核を中心とする大量破壊兵器問題をはじめ、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の拡大、人口・食糧・エネルギー問題、人権抑圧問題、エイズ・麻薬問題、などの地球的規模の問題群に直面している。この巨大で、複雑で、流動的で、日常化した国際政治の危機構造の本質、その特徴、変容過程などをグローバルな安全保障、経済問題、文化、地球環境破壊などの実態や問題と関係づけて検討する。また、そのために必要な国際政治学の主要な概念や理論についても見ていく。	1 国際政治学の基本的課題－グローバル政治の構造－ 2 国際政治の構造的変動－冷戦構造崩壊の意味－ 3 現代国際政治の新しい枠組み－湾岸危機･戦争－（1） 4 現代国際政治の新しい枠組み－湾岸危機･戦争－（2） 5 現代国際政治の新しい枠組み－ソ連邦の崩壊－（1） 6 現代国際政治の新しい枠組み－ソ連邦の崩壊－（2） 7 グローバル政治の形成と意義 8 世界政治と安全保障 9 世界政治と経済 10 世界政治と文化 11 世界政治とナショナリズム 12 世界政治と環境問題
テキスト、参考文献	**評価方法**
星野昭吉『世界政治の原理と変動―世界的規模の問題群とその解決―』同文舘（テキスト）	試験、レポート（書評）、出欠状況による総合評価。

	国際政治論 b	担当者	星野　昭吉

講義目的、講義概要	授業計画
我々の生存と日常生活は地球的規模の問題群におおわれている今日のため、巨大で、複雑で、流動的な国際政治（世界政治）の危機構造の本質、特徴、また変革の可能性などの検討が要求されている。そこで、そうした国際政治の現実は理論と密接な相互構成関係を形成しているところから、まず、現実と理論との関連の枠組みを明らかにする。その上で、具体的な世界政治の現実としての秩序、権力、経済、規範、イメージ、科学技術を通して、現実と理論との有機的関連性や相互構成性を検討していく。	1 戦後国際政治の現実の基本的枠組みと理論 2 事例－戦後の日米関係の展開過程－（1） 3 事例－戦後の日米関係の展開過程－（2） 4 事例－戦後の日米関係の展開過程－（3） 5 世界政治における秩序－（1） 6 世界政治における秩序－（2） 7 世界政治における権力－（1） 8 世界政治における権力－（2） 9 世界政治と世界経済 10 世界政治における規範 11 世界政治とイメージ 12 世界と科学技術革命
テキスト、参考文献	**評価方法**
星野昭吉『世界政治の理論と現実』（アジア大学購部ブックセンター）	試験、レポート、出欠状況による総合評価。

	国際交流特殊講義（国際関係・日米中）	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
現代の国際政治について、日本や中国、台湾、朝鮮半島、米国、国連を中心に考察する。 中国など新たな大国の台頭により、国際秩序が大きく変化している。国際政治におけるパワーシフトといった現象が起き、東アジア共同体構想など新秩序形成に向けた取り組みも始まっている。 そうした変化の実態、背景、歴史的経緯、それが生み出すものについて検討する。 同時に、現在の日中関係、米中関係、日米中関係や、朝鮮半島の核問題、台湾独立問題などについても考察していく。 冷戦の崩壊、米国同時多発テロとその後に起きたイラク戦争、テロとの戦い、国連の果たす役割やその現状についても考察する。	1　国際関係論の考え方、授業計画の説明 2　国際政治におけるパワーシフト 3　日中関係（日中国交正常化とその後の推移） 4　米中関係の特性（ステークホルダー論） 5　日米安保とアジア 6　新しいパワー（ソフトパワー論など） 7　朝鮮半島問題 8　台湾問題 9　ポスト冷戦 １０　米国同時多発テロとイスラム世界 １１　国連と人道介入 １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
上村幸治著『中国のいまがわかる本』（岩波ジュニア新書）	出席、レポート、試験など

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	国際交流特殊講義（NGO 論）	担当者	未定

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期授業開始時までに掲示にて告知する。	秋学期授業開始時までに掲示にて告知する。

テキスト、参考文献	評価方法

	卒業論文	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
言語文化学科では，卒業論文は必修科目ではないが，学生諸君にはできるだけ履修し，論文を書き上げて提出することを勧めている。 なぜなら卒業論文に真摯に取り組んで仕上げることは，物事を論理的に考える姿勢と課題を設定し解答をさぐる能力を養成することになるからである。 しかし，諸君の中にはこれを安易にとらえているむきもしばしば見受けられる。卒業論文は１ヶ月や２ヶ月の準備と作業で書き上げられるものではない。担当教員と十分に議論を重ねるとともに指導を受けて，早い時期から取り組む必要がある。 諸君の努力に期待する。	執筆指導は，各担当教員の指示に従うこと。 提出には，ＰＣの使用が求められる。印刷した論文とデジタルデータを提出すること。 提出期限を厳守すること。そのために周到な計画を立てる必要がある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示による	学科の申し合わせによる

	卒業論文	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期参照	春学期参照
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期参照	春学期参照

2007年度

外国語学部共通科目シラバス

（２００３年度以降入学生用）

【２００２年度以前入学生用】の外国語学部共通科目は

『全学共通授業科目シラバス』に掲載します

学則別表（2003年度以降入学者）

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

〇本表は、2003年度入学者から適用する。

外国語学部共通科目 （2003年度以降入学生用）

ほとんどの科目はオンライン抽選が行われます。
各学科の「授業時間割表」で抽選方法や定員などを確認してください。

目次

時間割コード	科目名	担当教員	開講期	曜日時限	単位数	開始学年	履修不可の学部・(学科)	ページ
07690	総合講座	上野　直子	春	水3	2	1	養 経 法	1
07691	総合講座	上野　直子	秋	水3	2	1	養 経 法	1
00220	情報科学概論a	呉　浩東	春	月2	2	1	養 経 法	2
	情報科学概論b	休講						
	情報科学各論(入門)	各担当教員			2	1	養 経 法	3
00058		金子　憲一	春	月4				
00074		田中　雅英	春	火1				
00093		田中　雅英	春	火2				
00208		内田　俊郎	春	木4				
00253		松山　恵美子	春	金2				
00138		長崎　等	春	金3				
13304		内田　俊郎	秋	木2				
	情報科学各論(初級―表計算入門)	各担当教員			2	1	養 経 法	4
00044		金子　憲一	春	月3				
00109		田中　雅英	春	火3				
09037		二宮　哲	春	水2				
00019		内田　俊郎	春	木2				
00255		松山　恵美子	春	金3				
00076		田中　雅英	秋	火1				
13306		内田　俊郎	秋	木3				
00231		松山　恵美子	秋	金2				
00141		長崎　等	秋	金3				
	情報科学各論（初級―プレゼンテーション）	各担当教員			2	1	養 経 法	5
13162		金子　憲一	春	月5				
00201		金井　満	春	火2				
13164		金子　憲一	秋	月5				
00202		金井　満	秋	火2				
	情報科学各論(初級―HTML入門)	各担当教員			2	1	養 経 法	6
00195		内田　俊郎	春	木3				
00060		金子　憲一	秋	月4				
00096		田中　雅英	秋	火2				
00131		二宮　哲	秋	水2				
00210		内田　俊郎	秋	木4				
09305	情報科学各論(中級―表計算応用1)	松山　恵美子	春	金4	2	1	養 経 法	7
00239	情報科学各論(中級―表計算応用1)	松山　恵美子	秋	金3	2	1	養 経 法	7
09308	情報科学各論(中級―表計算応用2)	松山　恵美子	秋	金4	2	1	養 経 法	8
00048	情報科学各論(中級―HTML応用1)	金子　憲一	秋	月3	2	1	養	9
00111	情報科学各論(中級―HTML応用1)	田中　雅英	秋	火3	2	1	養	10
00156	情報科学各論(中級―データベース1)	長崎　等	春	金4	2	1	養	11
00158	情報科学各論(中級―データベース2)	長崎　等	秋	金4	2	1	養	11
00172	情報科学各論(中級―プログラミング論1)	呉　浩東	春	水2	2	2	養（言）	12
00191	情報科学各論(中級―プログラミング論2)	呉　浩東	秋	水2	2	2	養（言）	12
00087	経済原論a	野村　容康	春	火1	2	1	養 経 法	13
00088	経済原論b	野村　容康	秋	火1	2	1	養 経 法	13
	社会心理学a	休講						
	社会心理学b	休講						

03 年度以降	総合講座　変わる境界	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は、わたしたちが暮らす社会とわたしたち個人の成り立ちにかかわるさまざまな「境界」とその変化について考えてみます。 たとえば次のような境界をとりあげます。国と国との境。ジェンダーの境。肌の色や民族の間の壁。あるいは有機物（人間）と無機物（機械）との境界線。ここに挙げたさまざまな境界は、(500 年の)グローバル化と資本主義化の歴史のなかでどのように変化してきているのでしょうか。境界が形成される際、それが変化する際にはどのような問題が生じるのでしょうか。そして、かつてないスピードで境界の引き直しが進行し、「越境」がたやすくなった「いま」はどんな姿をしているのでしょうか。 「境界」があれば必ず「越境」があり、そして「越境」の先には「混淆」があります。異なった文化、人種、言語が出会い、衝突と摩擦とをともないながら、多くの問題と可能性をもった新しい何かが生まれてきます。この点についても考察していく予定です。 やや抽象的な話になりましたが、講義では担当者が具体的なトピックをとりあげ、受講生のみなさんが、自分自身の現在、自分自身が暮らす場所について考える材料を提供していきます。	(1)上野直子（外国語学部・英語学科）イントロダクション (2)佐藤寛治（国際教養学部・言語文化学科） ボーダーランド：ふたつのアメリカが別れるところ （ティフアナを中心に） (3)平田由紀江（国際教養学部・言語文化学科） 朝鮮半島分断を「観光する」ということ (4)片山亜紀（外国語学部・英語学科） 「女は産む機械」発言の何が問題か (5)上野直子　封印された植物 （帝国とジェンダーをめぐるエピソード） (6)毛利嘉孝（東京芸術大学）　ロンドンの移民都市文化 (7)浅岡千利世（外国語学部・英語学科） 多言語社会と国境を越える教育 (8)柿田秀樹（外国語学部・英語学科）メディアの越境 (9)小谷真理（評論家・作家）　（仮）女性とＳＦ (10)前沢浩子（外国語学部・英語学科） 少年俳優の演じる女―シェイクスピア劇のヒロインたち (11)陳天璽(国立民族学博物館) 無国籍であること､いくつものわたし、いくつもの言葉 (12)高橋雄一郎（外国語学部・英語学科） ゴメス・ペーニャのボーダー・パフォーマンス
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意します。参考文献は担当講師が紹介します。	コメントカードと期末試験を総合的に評価します。評価方法に変更がある場合は開講時に説明します。

03 年度以降	総合講座　「場」をつくる	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は「場」をキーワードとして進めます。 個人や社会は、さまざまな「境界」によって守られ、規定され、安定を与えられています。しかし、さまざまな理由で「境界」を越えざるをえなかった人々、「境界」からはじき出された人々、「境界」ゆえに苦しみを抱え込まされている人々が存在することも事実です。 さまざまな事情で国境を越えた人々、超えさせられた人々（その代表が西アフリカから新世界へと運ばれた黒人奴隷でしょう)。あるいは女と男との定められた「境界」の内側には安寧の場所がない人々。「境界」を越えざるをえず、安住の「場」を得がたい個人が、どのようにして自分の人生の支えとなる「場」をつくっていくのかを考えてみましょう。 秋学期にとりあげる「場」は、具体的な場所の場合もあれば、言葉、音楽、食文化というような具体的な場には限定されないものの場合もあるでしょう。またこのような「場」が、「境界」に与える影響についても考察してみるつもりです。	秋学期の予定については、秋学期登録に先立ち、掲示板に掲示するとともに、講義支援システムにも掲載します（なお、講義支援システムへの掲載ができない場合は、その旨を掲示します)。
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意します。参考文献は担当講師が紹介します。	コメントカードと期末試験を総合的に評価します。評価方法に変更がある場合は開講時に説明します。

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（1）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（2）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（3）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組み、および、複数の言語を活用するための言語資源（辞書、シソーラス、コーパス、WEB）の使い方について学びます。さらに、実習を通じて、自動翻訳システムや質問応答システムの活用法などの理解を深めます。	1　講義の概要と目標、多言語情報処理の目的 2　コンピュータの世代論と情報処理 3　コンピュータの構成 4　ソフトウェアの役割、体系と種類 5　オペレーティングシステム（OS） OS の基礎概念、OS の役割と原理 6　コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 7　コンピュータによる日本語・英語の情報処理 8　多言語処理のための言語資源―辞書、類語辞書、コーパス、WEB 9　多言語間自動翻訳の仕組み 10　質問応答システムと自動翻訳ソフトの演習 11　オンライン多言語学習の演習 12　インターネット上の多言語処理技術
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。 コンピュータ初心者を対象に、１人で１台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修ずみの場合、本科目は履修してはならない。	1　ガイダンスとコンピュータの基本操作 2　ウィンドウズ入門―ウィンドウ操作とアプリケーション、日本語入力とタイピング 3　コンピュータ・ネットワーク 4　インターネットの仕組み 5　インターネット―ブラウザ･メール･検索 6　情報倫理とセキュリティ 7　文書の作成１－文章の作成、書式の設定 8　文書の作成２―表の作成、グラフの作成 9　文書の作成 3―画像とオブジェクトの利用 10　レポートの作成―文章校正、長文作成 11　情報技術の応用 12　総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ｉ』	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

03 年度以降	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。 コンピュータ初心者を対象に、１人で１台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修ずみの場合、本科目は履修してはならない。	1　ガイダンスとコンピュータの基本操作 2　ウィンドウズ入門―ウィンドウ操作とアプリケーション、日本語入力とタイピング 3　コンピュータ・ネットワーク 4　インターネットの仕組み 5　インターネット―ブラウザ･メール･検索 6　情報倫理とセキュリティ 7　文書の作成１－文章の作成、書式の設定 8　文書の作成２―表の作成、グラフの作成 9　文書の作成 3―画像とオブジェクトの利用 10　レポートの作成―文章校正、長文作成 11　情報技術の応用 12　総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ｉ』	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

03 年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用（1） 6 関数の利用（2） 7 関数の利用（3） 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション（1）―作成(MS-POWERPOINTとは) 10 プレゼンテーション（2）―作成（データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション（3）―発表 12 総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

03 年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用（1） 6 関数の利用（2） 7 関数の利用（3） 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション（1）―作成(MS-POWERPOINTとは) 10 プレゼンテーション（2）―作成（データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション（3）―発表 12 総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

03 年度以降	情報科学各論（プレゼンテーション）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。 講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作１ 3. Powerpoint の基本操作２ 4. Powerpoint の基本操作３ 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. プレゼンテーションの練習 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示します。	授業内での個人プレゼンテーション。

03 年度以降	情報科学各論（プレゼンテーション）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。 講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作１ 3. Powerpoint の基本操作２ 4. Powerpoint の基本操作３ 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. プレゼンテーションの練習 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示します。	授業内での個人プレゼンテーション。

03 年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成―テキスト 8 ホームページの作成―イメージ 9 ホームページの作成―リンク 10 ホームページの作成―テーブル・その他 11 ホームページの作成―完成 12 ファイルの転送とページの更新
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

03 年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成―テキスト 8 ホームページの作成―イメージ 9 ホームページの作成―リンク 10 ホームページの作成―テーブル・その他 11 ホームページの作成―完成 12 ファイルの転送とページの更新
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

03 年度以降	情報科学各論（中級－表計算応用１）	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。 Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、同じ一連の操作を繰り返し行う場合に、大変便利な機能である。ここでは、毎回行う一連の操作手順を記録・登録させておく「記録マクロ」を中心に学習していく。 簡単な「記録マクロ」の作成から、そのマクロ機能で自動作成される VBA(Visual Basic for Application)プログラミングの基礎を理解することを目標とする。これまで習得してきた Excel 利活用基礎能力を基に、より実践的なマクロ機能を利用しながら、自分自身で Excel を利用していく Excel 利活用応用能力を養う。	1　ガイダンス、Excel 基本操作の復習 2　マクロ機能と VBA とは 3　記録マクロの作成と実 4　オブジェクトボタンからの記録マクロの利用 5　マクロのコード入力 6　第１回目課題提出 7　簡単なゲームの作成（１） 8　簡単なゲームの作成（２）および第 2 回目課題提出 9　記録マクロと VBA の利用（１） 10　記録マクロと VBA の利用（２） 11　記録マクロと VBA の利用（３） 12　確認テストおよび最終課題提出
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献『学生のための Excel VBA』東京電機大学出版局	平常点 50%（出席および課題提出）、確認テスト 50%で総合評価を行う。

03 年度以降	情報科学各論（中級－表計算応用１）	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同様。	春学期と同様。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同様。	春学期と同様。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降	情報科学各論（中級－表計算応用２）	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、情報科学各論（中級－表計算応用１）の単位を修得した学生を対象として行うものとする。 情報科学各論（中級－表計算応用１）で学んだ記録マクロを、応用性のあるものへと発展させていく。 ユーザフォームの作成および利用を通して、VBA(Visual Basic for Application)プログラミングの基礎をさらに理解しつつ、それらを作成する VBE(Visual Basic Editor)の利用についても理解することを目標とする。 また、フローチャートおよびアルゴリズムを学習することで、論理的な思考を養う。	1　ガイダンスおよび記録マクロの復習 2　VBA と VBE 3　変数の利用 4　条件による分岐の利用 5　処理の繰り返しの利用 6　配列の利用および第１回目課題提出 7　ユーザフォームとは 8　簡単なユーザフォームの作成（１） 9　簡単なユーザフォームの作成（２） 10　項目の選択を利用したユーザフォームの作成（１） 11　項目の選択を利用したユーザフォームの作成（２） 12　確認テストおよび最終課題提出

テキスト、参考文献	評価方法
参考文献『学生のための Excel VBA』東京電機大学出版局	平常点 50%（出席および課題提出）、確認テスト 50%で総合評価を行う。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降	情報科学各論（中級－HTML 応用１）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 講義の概要 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。	1　ガイダンスとイントロダクション 2　HTML と FTP の復習（１） 3　HTML と FTP の復習（２） 4　インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5　プログラミングの基礎知識 6　JavaScript（１） 7　JavaScript（２） 8　JavaScript（３） 9　JavaScript（４） 10　CGI の利用（１） 11　CGI の利用（２） 12　鑑賞・報告会

テキスト、参考文献	評価方法
授業中に指示、紹介する。 プリントの配布（Web 上も含む）も行う。	授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格等とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降	情報科学各論（中級―HTML 応用 1）	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済み，あるいは同等の知識を有する学生を対象に，単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく，CGI や JavaScript にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目標とするのではなく，その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め，それの積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には，一方向の情報発信ではなく，インタラクティブな双方向のコミニュケーションを図ることにより，情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。 なお，この授業計画はあくまで一つの目安であり，途中での変更も十分にありえる。	1. ガイダンスと復習 2. プログラミングの考え方 3. Web ページのネットへのアップロード等 4. JavaScript 1 5. JavaScript 2 6. JavaScript 3 7. JavaScript 4 8. CGI 9. ホームページのブラッシュアップ 10. 情報の収集 11. 応用 12. その他

テキスト、参考文献	評価方法
授業中に適宜指示する。	授業中に指示する課題と平常点で評価する。

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 1）	担当者	長崎　等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する． 高度情報化社会といわれる現代においては，昔と違い膨大な量の情報がうずまいている．そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である．その方法論的な答えの一つとしてデータベースがある．データベースの基本的な考え方や利用の仕方について，比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い，学習するのが本講義の目的である． ＜受講者への要望＞ 情報科学各論（初級一表計算入門） を既修，またはそれと同等程度の知識があることが望ましい． 遅刻は厳禁とします． また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること．	1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 表計算の復習（1） 3 表計算の復習（2）及びデータベースの基本概念について 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索 1 8 条件検索 2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
1 回目の授業で指示します．	出席及びレポート課題， さらに実習試験によって評価します．

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 2）	担当者	長崎　等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する． Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に， データベースをデザインし実際に作成をおこなってもらう． そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める． ＜受講者への要望＞ 情報科学各論（中級） 「データベース 1」を既修， またはそれと同等程度の知識があることが望ましい． 遅刻は厳禁とします． またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること．	1 データベースの概念と機能 2 Access の基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリ（1） 6 クエリ（2 ） 7 テーブル設計 1 （ハイレベルエンティティ分析） 8 テーブル設計 2 （関係データ分析） 9 テーブル設計 3 （テーブル作成） 10 クエリ設計 1 （外部スキーマの設計） 11 クエリ設計 1 （クエリの作成） 12 プレゼンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
『30H で理解できるアクセス 2003』， 実教出版 『図解雑学データベース』，ナツメ出版	出席及びレポート課題によって評価します．

03 年度以降	情報科学各論(中級－プログラミング論 1)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。 初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual　Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつのプログラムの設計について講義および実習を行う。	1　授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2　プログラミング言語の発展史 3　開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4　Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5　簡単なプログラムの作成 基本なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認する 6　イベント駆動型プログラム 7　文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8　選択構造をもつプログラム（1） 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9　選択構造をもつプログラム（2） 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10　繰り返しあるプログラムの作成（1） 回数指定による繰り返し、For～Next 文 11　繰り返しあるプログラムの作成（2） 条件指定による繰り返し 12　総合練習 綜合問題、まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
（1）最初の講義で指示する。 （2）随時必要な資料を指示する。	定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。

03 年度以降	情報科学各論(中級－プログラミング論 2)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り替えプログラミングの技能を身に付くことを目的とする。 ここでは、Visual　Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。	1　プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2　配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3　文字列の処理プログラム（1） 簡単な翻訳プログラムの作成 4　文字列の処理プログラム（2） 文字列の照合と置き換え 5　図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6　文字列の表示 7　画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8　ファイル操作（1） シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9　ファイル操作（2） ランダムファイルとランダムアクセス 10　応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11　再帰というプログラミング手法 12　総合練習 綜合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時必要な資料を指示する。	定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。

03 年度以降	経済原論 a	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　経済学の目的と方法 ２．　家計の行動① ３．　家計の行動② ４．　家計の行動③ ５．　企業の行動① ６．　企業の行動② ７．　企業の行動③ ８．　不完全競争の理論 ９．　市場の理論① １０．　市場の理論② １１．　厚生経済学の基本定理 １２．　市場の失敗
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として定期試験の成績で評価する。

03 年度以降	経済原論 b	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　マクロ経済学の体系 ２．　国民所得の諸概念 ３．　消費と貯蓄の理論 ４．　投資の理論 ５．　国民所得決定の理論 ６．　生産物市場の分析 ７．　金融市場の分析 ８．　IS-LM 分析 ９．　インフレとデフレ １０．　財政赤字と日本経済 １１．　開放マクロ経済 １２．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として定期試験の成績で評価する。

シラバス 言語文化学科

2007年4 月1 日発行

獨協大学教務部

〒340 - 0042 埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048 - 946 - 1664

※この冊子は、再生紙を使用しています。

DOKKYO UNIVERSITY

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	